



附橋 梁

考 備	第何號	對照圖面		橋名	構造	全長	幅	徑間	橋	脚	新築又架換			
		左岸何村字名	右岸何村字名								年	月		
		何名ナキモトノハ何川橋トスヘシ									工	費		
圖面ニハ國郡村字界等ヲ脫漏ナク記入シ既成未成ノ分ハ明了ニ區別シ工事ノ種類等ハイロハ又ハABC等ノ符合ヲ以テ顯ハスヘシ 木橋ニハ道路ノ略況ヲ記載シ道路ノ分岐スルモノ等アルトキハ掘記シテ参照ニ供スヘシ 橋梁ノ部左右岸トハ河川ノ上流ヨリ下流ニ向テノ稱呼ナリ				土指釣橋	越延長トス	欄干内徑トス	何百尺ノ何尺ノ何尺ニシテ煉化遺又ハ石ノ何組	末口何寸長何間ノ杭何本一列ニシテ煉化遺又ハ石ノ何組					明治年月著手 明治年月竣工	

堤防登錄簿

考 備	第何號	對照圖面		何國郡村	何河川	何左岸(或ハ右岸又ハ兩岸同一村ニ屬スルモノハ兩岸ト記スルモノトス) 何海岸(又何島) 東岸(或ハ西岸等)	何名	圖面位置			堤防種類	距離	工費額	圖面位置			護岸種類	數	徑間	工費額	工費額累計						
		上流	下流					イ	ロ	ハ				ニ	ホ	ヘ						ト	チ	リ	シ	ス	ル
		何町村字何何	何町村字何何					何	何	何				何	何	何						何	何	何	何	何	何
木表ハ一河川又ハ一海岸ニ就キ一町村毎ニ區別シテ該町村ニ屬スル工事ヲ掲載スルモノトス 圖面ニハ町村字界ヲ漏レナク記入シ工事箇所ハイロハ又ハABC等ノ符合ヲ以テ顯ハス 圖面及備考ニハ流身ノ方向沿岸決壊ノ模様流木埋没ノ有無波濤ノ影響等ヲ略記スルヲ要ス								イ	ロ	ハ	ニ	ホ	ヘ		ト	チ	リ	シ	ス	ル		明治年月著手 明治年月竣工					

備考	圖面ニハ國郡村字界等脫漏ナク記入スヘシ	附屬物内						圖面位置	新舊	年	工費	圖面位置	新舊	年	工費
		一	二	三	四	五	六								
水工事ノ略況等ヲ記スヘシ	圖面ニハ國郡村字界等脫漏ナク記入スヘシ	門	舟	防	放	洗	間	間	新	明治	年	門	新	明治	年
		番	入	水	水	厩	門	川	地	新	明治	年	川	地	新
		人	場	門	堀	厩	川	地	新	明治	年	川	地	新	明治
		小	同	同	同	同	同	同	同	明治	年	同	同	同	明治
		屋	同	同	同	同	同	同	同	明治	年	同	同	同	明治
		同	同	同	同	同	同	同	同	明治	年	同	同	同	明治

○明治三十三年八月十四日訓第四百八十一號(内務部支廳宛) 支廳土木工事監督規程ノ通り相定ム

支廳土木工事監督規程

第一條 支廳長ハ監督技手人少ノ場合ニ於テ其須要ニ從ヒ監督事業手ヲ命スルコトヲ得

第二條 監督事業手ハ支廳長ノ指揮ヲ承ケ土木掛技手ヲ援助シ土木工事ノ監督ニ從事スルモノトス

第三條 監督事業手ハ擔任者アル支廳直營工事及監督者アル購買工事ニ對シ左ノ事項ヲ視察シ支廳長ニ復命スルモノトス

一 工作ハ仕様書ニ適合スルヤ否ヤ

二 材料ハ仕様書所定ノ尺度重量品質ニ適合スルヤ否ヤ

三 施行ノ位置ハ適當ニシテ移移スル所ナキヤ否ヤ

四 直營工事ニ係ル工賃物品ノ出納整理スルヤ否ヤ

五 移住民購買ニ付テハ果シテ其移住民從業ノ實アルヤ否ヤ

六 工事ハ遲滞ナク進行シ居ルヤ否ヤ

七 其他特ニ支廳長ヨリ命セラルル事項ニ關シテ監督者ニ於テ必要ト認メタル事項

第四條 監督中工事擔任者又ハ監督者ノ風紀不其ニシテ工事ノ進行監督ニ害アリト認ムルトキハ特ニ其事山ヲ詳具シ支廳長ニ内申スヘシ

第五條 監督ノ際ハ成ルヘク工事ノ擔任者又ハ監督者ヲシテ立會セシムヘシ

第六條 監督ニ關スル應答ハ文書ヲ以テ整理シ本廳内務部ヨリ派遣スル監督官吏ノ査閱ニ供スヘシ

○明治三十三年六月八日訓第三百五十六號(農中一般) 運輸土功ニ屬スル重要事項ヲ調査セシムル爲メ運輸土功調査會ヲ設ケ其規則左ノ通り相定ム

運輸土功調査會規則

第一條 運輸土功調査會ハ左ニ掲グル事業ノ計畫及施行ノ方法順序ヲ調査スルモノトス但天災等ノ爲時ニ急務ヲ要スル工事小修繕工事ハ此限ニアラス

(一) 鐵道軌道

(二) 道路排水橋梁渡船驛

(三) 港灣航路

其他長官ニ於テ特ニ調査ヲ命ゼシ事項

第二條 運輸土功調査會ハ内務部長官農林部長官土木部長官警察部長官鐵道部長官農商務部長官地方官農商務部長官農林部長官鐵道部長官農商務部長官地方官農商務部長官農林部長官鐵道部長官農商務部長官地方官

第三條 運輸土功調査會ニ會長一人書記若干人ヲ置ク

會長ハ内務部長官タル事務官書記ハ屬ノ内ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 會長ハ該事務ヲ整理シ會議ノ決議ヲ長官ニ具申ス

書記ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

附則

第五條 本則ノ外特別ノ規定アルモノハ各其規定ニ依ル

○明治三十六年一月二十八日訓第七十八號(殖民部土木部支廳宛) 運輸土功ニ關スル重要事項ヲ調査セシムル爲メ運輸土功調査會ヲ設ケ其規則左ノ通り相定ム

運輸土功調査會規則

第一條 運輸土功調査會ハ左ニ掲グル事業ノ計畫及施行ノ方法順序ヲ調査スルモノトス但天災等ノ爲時ニ急務ヲ要スル工事小修繕工事ハ此限ニアラス

(一) 鐵道軌道

(二) 道路排水橋梁渡船驛

(三) 港灣航路

其他長官ニ於テ特ニ調査ヲ命ゼシ事項

第二條 運輸土功調査會ハ内務部長官農林部長官土木部長官警察部長官鐵道部長官農商務部長官地方官農商務部長官農林部長官鐵道部長官農商務部長官地方官

第三條 運輸土功調査會ニ會長一人書記若干人ヲ置ク

會長ハ内務部長官タル事務官書記ハ屬ノ内ヲ以テ之ニ充ツ

第四條 會長ハ該事務ヲ整理シ會議ノ決議ヲ長官ニ具申ス

書記ハ會長ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事ス

附則

第五條 本則ノ外特別ノ規定アルモノハ各其規定ニ依ル

利數トシ一回モ砂利ヲ敷カサル開鑿ノ儘ナル  
モノニハ伐木橋均ト記載スヘシ

十二 伐木延長及幅ノ欄ニハ道路ノ兩側ニ在ルモ  
ノハ其兩側ノ延長ノ合計ヲ現ハシ片側ノ  
モノハ片側何程トスヘシ若シ道路ノ左右延長  
ナキニスルモノ(假令ハ片側ハ全部伐木シ  
ルモ片側ハ一部分ノミナリトキ)ハ道路ノ起  
點ヨリ終點ニ向ヒ左右ノ名稱ヲ付シ左何程右  
何程トスヘシ幅ハ水外ノ平均幅員ヲ記載ス  
ヘシ

十三 陸道構造ノ欄ニハ煉瓦造、管絨、木柱、炭  
石拱形窟窿等其構造ヲ一見識別シ得ヘキ様記  
載スヘシ但敷箇所アルトキハ幅高ノ平均幅員  
ヲ現ハスヘシ

十四 下水延長欄ハ伐木延長ノ記載方ニ準據スヘ  
シ

十五 水拔及暗渠ノ欄記載方左ノ如シ  
水拔トハ渡長六尺未満ノ橋梁ヲ云フ  
暗渠トハ渡長六尺未満ノ土橋及盛土三尺以上  
ノモノヲ云フ  
水ノ流レト同一ノ方向ヲ以テ長トス  
延幅ハ水拔ハ渡時渠ハ内法ノ幅ヲ合計スヘシ  
十六 平地勾配ノ欄記載方ニハ勾配三十分一以  
下ノ道路ニ就キ最大勾配ヲ記シ平均ノ部ニハ  
各勾配ヲ平均シタルモノヲ記載スヘシ勾配ノ  
度ハ總テ分數ヲ以テ現ハシ何分ノ一ト精簡ニ  
分數ニテ現ハシ難キモノハ近似分數ヲ取り分子  
ヲ一トシテ現ハスヘシ勾配三十分一以上坂路  
ノ欄ニ於ケル記載方モ同様トス

十七 橋梁ノ欄記載方ニハ當該區域内ニ於  
ケル橋梁ヲ橋梁番號ニ付シテ番號ニ依リ記  
載スヘシ但兩町村ノ境界ニ在ル橋梁ハ前町村  
ノ部ニ記載スヘシ

十八 沿革或修繕其修考トナルヘキ事項ノ欄ニ  
ハ修繕年月修繕延長、幅、切土、盛土、敷砂  
利等ノ數量工費暗渠ノ修繕、伏換水拔ノ修繕  
取換工費等成ルヘク詳細ニ記載スヘシ但水拔  
及暗渠ハ當該區域内ノ第何號(起點ヨリ第何  
番目)ノ如何ナル部分ヲ修繕シタルカ又ハ何  
號ヲ取換伏換シタルカチ明瞭ナラシムヘシ其  
他工事施行方(直營請負ノ別)里程標指道標ノ  
有無渡船有無等ヲモ記載スヘシ

橋梁番號調製手續  
道路番號調製手續  
項ノ水蓋欄ニ之ヲ準用ス  
木蓋欄ハ一橋一葉ニ調製スヘシ  
木蓋欄ノ計數ニ係ルモノハ總テ數字ヲ以テ記  
入スヘシ

位置ノ欄ニハ兩郡區町村字名ヲ記載スヘシ但  
左右ノ名稱ハ河川ノ下流ニ向ヒ定ムルモノトス  
河川名ノ欄ニハ河川名ヲキモノハ何川ノ支川  
又ハ派川ト記載スヘシ

橋梁名ノ欄ニハ支線ノ番號ニ依リ第何號  
橋ト記載スヘシ但私設ニ係ルモノハ橋梁名ノ  
肩ニ私設ト朱書きスヘシ

形状ノ欄ニハハトワラス、アラットトラス、  
桁橋等其形狀ニ依リ區別シ記載スヘシ

渡長ノ欄記載方ニハ枕木中心間ノ距離ヲ記  
載シ延長ノ部ニハ板ヲ數キタル部分ノ總長ヲ  
記載スヘシ

欄ノ欄記載方ニハ地覆内部ノ距離地覆ナキ  
モノハ兩端中心間ノ距離ヲ記載シ延長ノ部  
ニハ板ノ總長ヲ記載スヘシ

九 平面積ノ欄ニハ渡板長ト幅板長トノ相乘積ヲ  
記載スヘシ

十 上部ノ欄構造ノ部ニハ木造鐵道木造混合等架  
橋材料ニ依リ區別シ記載スヘシ

欄ノ部ニハ取重ノ有無ト記載スヘシ

活重及死重ノ部ニハ橋梁面一平方尺ニ對スル  
標準荷重ヲ記載スヘシ但死重ノ部ニハ地盤ノ  
重量及土橋ニ於ケル土ノ重量ヲモ算入スヘシ

十一 地質ノ部ニハ砂、粘土、泥炭等河底ノ地質  
ニ依リ區別シ記載スヘシ

十二 橋梁ノ欄構造ノ部ニハ木柱、緊緻石垣、炭  
石等ト記載スヘシ但シ左右橋梁ノ異ニヒル  
ノハ左右何ト記載スヘシ

前面及側面ノ長及幅不同ナルトキハ平均數ヲ  
以テ現ハスヘシ

十三 橋脚ノ欄構造ノ部ニハ煉瓦造何基右造何基  
木造何木何列何組等ト記載スヘシ

地盤高ノ部ニハ河底ヨリ橋梁面ニ至ル高ヲ  
記載スヘシ高一定セサルモノハ平均數ヲ以テ  
現ハスヘシ水深ノ欄記載方モ之ニ準ス

十四 徑間ノ欄ニハ何尺何寸ト記載シ徑間ノ不同  
ナルモノハ其長ノ異ルモノヲ別別シテ之ヲ記載  
スヘシ

十五 附屬物ノ欄ニハ流水除及橋梁保護ノ爲メ設  
ケタル木柱等欄ヲ設ケ記載スヘシ

流水除ハ何木打何組トシ木柱ハ(左)岸高何  
尺長何尺トシ記載スヘシ

十六 新設又ハ架換ノ欄設計者監督者檢定者ノ部  
ニハ各官名氏名ノ肩ニ記載シ工費ノ出途ヲ明ニ  
スヘシ

渡船番號調製手續

國縣道名稱

起點 終點

終點 起點

經過地

四十二號線 起點 橋本 終點 橋本

經過地 橋本、龜田、橋本、大中  
山、七飯、藤城、峰下、野邊、森、木、鹿、谷、石、倉、落部、山、越、内、八、雲、黒、岩、國、縫、長、高、部、靜、岡、禮、文、辨、邊、北、田、有、珠、長、流、四、越、東、紋、藏、稀、府、黄、金、葉、千、舞、龍、元、室、蘭、輪、四、鷺、別、帆、別、登、別、敷、生、白、老、社、登、前、覺、生、錦、多、米、小、糸、魚、背、小、牧、植、苗、千、歲、長、都、漁、島、松、月、寒、豐、平、札、幌、苗、穂、鹿、來、對、雁、江、別、幌、向、岩、見、澤、沼、貝、春、井、江、砂、川、空、知、大、瀧、川、普、江、法、華、神、居、内、大、部、神、居、春、志、内、神、居、登、母、夕、原、旭、川、靈、柁、苦、小、牧、勇、拂、厚、真、越、川、佐、瀨、大、門、別、波、惡、慶、能、舞、賀、張、厚、別、大、狩、部、高、江、下、下、方、有、真、網、別、脊、立、被、布、島、舞、後、伏、後、邊、戸、非、零、益、浦、河、後、橋、幌、別、島、菅、榛、似、平、島、冬、島、幌、滿、近、呼、笛、舞、幌、泉、猿

國縣道名稱

起點 終點

經過地

四十三號線 起點 苦小牧 終點 苦小牧

經過地 苦小牧、勇拂、厚真、越、川、佐、瀨、大、門、別、波、惡、慶、能、舞、賀、張、厚、別、大、狩、部、高、江、下、下、方、有、真、網、別、脊、立、被、布、島、舞、後、伏、後、邊、戸、非、零、益、浦、河、後、橋、幌、別、島、菅、榛、似、平、島、冬、島、幌、滿、近、呼、笛、舞、幌、泉、猿

本寮帳調製方ハ大體橋梁番號調製手續ニ準據スル  
ノ外左記各項ニ依ルモノトス

一 番號ハ橋梁ノ番號ヲ逐ヒ記入スヘシ

二 土地ノ欄種類ノ部ニハ宅地、堤防敷地等地理  
目ヲ記入スヘシ

三 張網ノ欄年月ノ部ニハ新調年月ヲ記入スヘシ  
從來ノ張網使用ニ堪ヘシテ新調セシトキハ  
既設次欄ニ記入シ前欄ニハ朱線ヲ施スヘシ  
人渡及馬渡船モ亦同シ

四 本寮帳ノ番號ノ順ヲ逐ヒ橋梁番號ト合致スヘ  
シ

道路番號調製手續  
線路名稱ハ別紙ノ通

本年四月三十日迄ニ可成左記各項ノ取調ヲ了  
シ原簿ヲ製シ本局ニ送付スヘシ

前項期限内ニ取調ヲ了セサル事項ハ漸次取調  
ヲ遂ク本年十月三十一日迄ニ全部完成ヲナス  
ヘシ但取調ヲ遂ケタル事項ハ隨時本局ヘ報告  
ノ事

道路番號調製手續  
道路、路面構造、  
區域字名、敷地幅、造成幅、棧道、陸道、  
水拔、暗渠石積、橋、橋梁ノ各欄及其他調  
査シ得ヘキ事項

橋梁番號調製手續  
橋梁番號調製手續  
調製ノ在リテハ番號、道路、形式、位  
置、河川名、橋梁名、渡長、幅、平面積、  
上部ノ内構造、高欄、橋梁、橋脚、徑間、  
附屬物、新設又ハ架換ノ各欄及其他調査シ  
得ヘキ事項

渡船番號調製手續  
渡船番號調製手續  
全部但河川幅平水幅ハ  
道路實測ノ際共ニ調査報告スルモ差支ナシ

支廳	番號	區域	總長	道		陸		明細	
				造構	高	幅	長延	敷所箇	延下
北海岸線	起點	終點	根	室內	尺	尺	尺	尺	尺
興志内、神基内、赤石、	北線	中央線	南	北線	中央線	南	北線	中央線	南
與志内、神基内、赤石、	旭川、邊別、美咲、上富	旭川、邊別、美咲、上富	旭川、邊別、美咲、上富	旭川、邊別、美咲、上富	旭川、邊別、美咲、上富	旭川、邊別、美咲、上富	旭川、邊別、美咲、上富	旭川、邊別、美咲、上富	旭川、邊別、美咲、上富
與志内、神基内、赤石、	五稜街道	室蘭街道	月形街道	富良野街道	增毛街道	湧別街道	廣尾街道	磯山街道	標茶街道
與志内、神基内、赤石、	五稜街道	室蘭街道	月形街道	富良野街道	增毛街道	湧別街道	廣尾街道	磯山街道	標茶街道
與志内、神基内、赤石、	五稜街道	室蘭街道	月形街道	富良野街道	增毛街道	湧別街道	廣尾街道	磯山街道	標茶街道

支廳	番號	區域	總長	道		陸		明細	
				造構	高	幅	長延	敷所箇	延下
北海岸線	起點	終點	根	室內	尺	尺	尺	尺	尺
興志内、神基内、赤石、	北線	中央線	南	北線	中央線	南	北線	中央線	南
與志内、神基内、赤石、	旭川、邊別、美咲、上富	旭川、邊別、美咲、上富	旭川、邊別、美咲、上富	旭川、邊別、美咲、上富	旭川、邊別、美咲、上富	旭川、邊別、美咲、上富	旭川、邊別、美咲、上富	旭川、邊別、美咲、上富	旭川、邊別、美咲、上富
與志内、神基内、赤石、	五稜街道	室蘭街道	月形街道	富良野街道	增毛街道	湧別街道	廣尾街道	磯山街道	標茶街道
與志内、神基内、赤石、	五稜街道	室蘭街道	月形街道	富良野街道	增毛街道	湧別街道	廣尾街道	磯山街道	標茶街道
與志内、神基内、赤石、	五稜街道	室蘭街道	月形街道	富良野街道	增毛街道	湧別街道	廣尾街道	磯山街道	標茶街道



○明治三十一年五月十八日訓第百九十六號（支廳宛）

治水工事ノ儀ハ一部ノ利益ノミヲ目的トシテ施行スルニ於テハ他ニ反對ノ妨害ヲ與ヘ延テ全川ニ波及スルノ虞アルヲ以テ最優先スヘキ事ニ有之候處近來許可ヲ得シテ私ニ堤防ヲ築キ若クハ堰止等ヲ爲スモノ有之哉ニ相聞不都合ニ付キ自今右等ノ所爲無之様嚴重取締ヲ爲スハ勿論許可ナク設置シタルモノハ之ヲ取拂ハシムヘシ

○明治三十四年七月二十六日訓令第百三十五號區町村土木費補助規程ノ通定ム

區町村土木費補助規程

第一條 區町村土木費ニシテ其工費ノ全部區町村ノ負擔ニ堪ヘサルモノト認定シタルトキハ工費ノ概算ヲ調査シ相當ノ補助金ヲ下付スルトアルヘシ

第二條 補助金ノ下付ヲ請ハントスル者ハ左ノ各號ニ準據シ必要ノ調査ノ圖面ヲ添ヘ申請書ヲ北海道廳長官ニ提出シ爲メ前年度四月三十日迄ノ所轄支廳ニ支廳長ハ之ヲ調査意見書ヲ付シ翌五月二十日迄ニ北海道廳ニ到達セシムヘシ

天災地變ニ因ル土木工事ノ補助申請ハ前項ノ期限ニ拘ハラズ提出スルコトヲ得（三十六年二月廳令第二十八號ヲ以テ本條中改正）

一 區町村會又ハ總代會ノ決議書

二 最近三箇年度區町村費出入決算書（決算ニ至ラサルモノハ豫算ヲ掲ケルヘシ）

三 最近三箇年度區町村賦課額調査書

四 實測平面圖 縮尺六千分ノ一以上

五 實測縱断面圖 縮尺四千分ノ一以上

六 實測橫断面圖 縮尺四百分ノ一以上

七 橋梁、暗渠、隧道其他各種ノ圖 縮尺適宜

八 掘削又ハ盛土土坪計算書

九 單位代價表

十 工費計算書

十一 實地測量調查書

十二 工事計畫說明書及仕様書

十三 一覽圖 縮尺適宜

第十四條 實測平面圖ニハ國、郡、町、村ノ境界、地名、宿驛、市街、村落、人家、山脈、丘陵、水流、沼澤、森林、原野、荒地、耕地、橋梁、堤防其他地形ヲ顯ハスニ必要ナルモノノ及町界線ニ直線ノ長、方向、曲線ノ長、半徑等ヲ詳記スヘシ

第十五條 實測縱断面圖ニハ計測線ノ中心地面ノ高低、各計測點ノ勾配水平距離、掘削、盛土部分ノ高低及長、隧道、橋梁ノ長其他國、郡、町、村ノ境界、市街、村落、地名、水流、溝渠等部ヲ參照シ必要ナルモノヲ詳記スヘシ

第十六條 實測橫断面圖ハ計測線長三町毎ニ之ヲ割リ其餘 實測橫断面圖ハ計測線長三町毎ニ之ヲ割リ計測ノ用ニ供スヘシ

第十七條 橋梁ノ平面圖（橋梁前後河川ノ形狀ヲモ記スヘシ）側面圖其他構造ヲ顯ハスニ必要ナル圖面及橋梁架設スヘキ河川ノ橫断面圖ヲ調製スヘシ但構造ノ同一ナル橋梁ハ一橋分ノ外之ヲ省略スヘシ

第十八條 隧道、暗渠其他其構造ヲ顯ハスニ必要ナル圖面ヲ調製スヘシ但構造ノ同一ナルモノハ一箇分ノ外之ヲ省略スヘシ

第十九條 掘削、盛土土坪計算書ニハ掘削面及掘削ノ高、幅、平積、距離、立積ヲ記シ之ヲ表ニ製シ其計算法ヲ明瞭ニスヘシ

第二十條 工費計算書ニハ各種工事其全部分等ニ其單位價表トナシ之ヲ算出シタル總數ニ單位價代價率ヲ乘シ其計ヲ記スヘシ但橋梁、隧道、暗渠其他諸費ハ別ニ部分ヲ爲シ其工費ノ計算內詳記スヘシ

第二十一條 計畫說明書ニハ新道開闢若クハ路線變更、修繕等ノ必要アル理由、路線選定ニ付テ地形、氣候、土質等ノ酌量シタル理由及建設費及保存費ノ多寡、運搬ノ便否其構造法選定ノ理由等ヲ詳記シ及橋梁、堤防、暗渠等ノ計算ニハ水流、最高水面及流量ヲ記スヘシ又變更路線ニ對シテハ舊道ノ長、幅、勾配等ヲ記スヘシ

第二十二條 一覽圖ニハ國、郡、町、村ノ境界其他地形ヲ顯ハスニ必要ナルモノハ遺漏ナク記入シ道路、橋梁其他施行セントスル土木工事ノ位置ヲ朱線ニテ明示スヘシ

第二十三條 認定ノ期限内ニ工事ヲ著手又ハ竣功セサルトキハ許可ノ指令ヲ取消スコトアルヘシ但天災其他避クヘカウサル正當ノ理由アルモノハ申請ニ依リ相當ノ延期ヲ與フルコトアルヘシ

第二十四條 北海道廳長官又ハ支廳長ニ於テ工事ヲ監督スルニ當リ實地必要ト認メタルトキ又ハ許可ノ設計ニ違背シ不適當ト認メタルトキハ其工部中竣功後タルトキ間ハ土木工事ノ全部又一部ノ變更又ハ改築ヲ命スルコトアルヘシ

區町村ニ於テ工費ノ變更又ハ廢止ノ必要ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シタル認可申請書ヲ添

出スヘシ但變更ニ係ルモノハ新設設計ヲ對照セシ書類ヲ添付スヘシ（三十六年二月廳令第二十八號ヲ以テ本項追加）

第十五條 第十四條ニ依リ工事ノ變更又ハ改築ヲ命セラレタルモノハ施行セサルトキハ補助ノ指令ヲ取消シ或ハ補助金ノ幾分ヲ減スルコトアルヘシ

第十六條 工事著手中又ハ竣功後檢定以前ニ於テ災害等ニ因リ材料又ハ既成工事ノ毀損若クハ滅失シタルトキハ其證據明瞭ナル場合ニ限リ事情ニ依リ更ニ其復舊工費ノ幾分ヲ補助スルコトアルヘシ但復舊工費金額カ當初ノ工費金額ニ對スル十分ノ二以内ナルトキハ此限ニテアラス

第十七條 補助金ハ工事全部竣功シ檢定ヲ了シタル上ニアラサルハ之ヲ下付セズ但止ムヲ得サル

第一號樣式

最近三箇年度區町村費出入決算書

事柄アルトキハ申請ニ依リ出來形五分以上ノ場合同限リ其出來形ニ相當スル補助金ノ五分ノ四以内ノ金額ヲ下付スルコトアルヘシ

第十八條 工事ノ爲メ潰地ヲ要スルトキハ土地收用法ニ依ルモノノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 區町村ニ於テ買取スルモノハ潰地上代價調書ノ外買取契約書（條約ナルトキハ其條本ノ）添付

二 寄付地ニ係ルモノハ寄付地段別調書ノ外寄附人ノ承諾書添付

三 官有地ナルトキハ官有地潰地段別調書

第十九條 潰地トナルヘキ土地官用地又ハ御料地ナルトキハ主管廳衙ノ承諾ヲ得テ其條本ヲ添付スヘシ

第二十條 買上土地寄付地ハ補助ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ三十日以内ニ買取又ハ寄付ノ手續ヲ完了スヘシ

附則

第二十一條 明治三十五年度ニ於テ補助ヲ受ケントスル申請書ニ限リ本規程第二條ノ申請期限ヲ十月三十一日迄トス

第二十二條 本規程ニ掲ケタル各種工事ノ申請書ヲ添付スヘキ調査、圖面等ハ本規程各條ニ準シテ調製スヘシ

○明治三十四年七月二十六日訓令第百三十五號（區役所町村役場長宛）

明治三十四年（七月）北海道廳令第百三十五號區町村土木費補助規程第二條第三號第八號乃至第十一號ノ樣式左ノ通相定ム

最近三箇年度區町村費出入決算書						何何町					
年度			年度			年度			年度		
何	年	度	何	年	度	何	年	度	何	年	度
計	賦課	補助	其他	計	賦課	補助	其他	計	賦課	補助	其他
土	木	工	其	土	木	工	其	土	木	工	其

第十一類 土功營繕

計

第二號様式

最近三箇年度區町村役賦課額調

名 稱	年 度 別	何 年 度	前年ニ對シ		何 年 度	前年ニ對シ		何 何 年 度
			増 減	歩 合		増 減	歩 合	
戶 數	何 千 戶	同	増	何 歩	同	増	何 歩	同 年 度
人 口	何 千 人	同	同	何 歩	同	同	何 歩	
區 費 賦 課 額	何 千 圓	同	同	何 歩	同	同	何 歩	
一 戶 當 最 高 額	何 百 圓	同	同	何 歩	同	同	何 歩	
一 戶 當 最 低 額	何 十 圓	同	同	何 歩	同	同	何 歩	
一 戶 當 平 均 額	何 十 圓	同	同	何 歩	同	同	何 歩	

備考

一 補助申請ノ年度ヨリ前三箇年ヲ取調ヘシ

第三號様式

堀割及盛土土坪等計算表

番 號	工 事 種 類	高	幅	距 離	平 積	立 積	何 何 區 町	
							何 何 區 町	何 何 區 町
至 何 號	甲 土 砂 掘 割							
自 何 號	乙 土 砂 掘 割							
間	甲 盛 土							
同	乙 盛 土							
同	同							

同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同	同	同	同

備考

一 橋梁暗渠隧道ハ別ニ内譯書ヲ要スルヲ以テ本表ヘハ之ヲ除クヘシ  
 一 同種類ニシテ單價ヲ異ニスルモノハ甲乙又ハイロハ等適宜符號ヲ朱記スヘシ  
 尤單價表ト符合スルモノヲ要ス

第四號様式

何何工事費概算書

一 金 何 程	内 譯	種 類	數 量	單 價	計 金	工 費 總 高	
						何 何 區 町	何 何 區 町
土 砂 掘 割	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町
岩 石 掘 割	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町
盛 土	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町
掘 平	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町
板 枮 高 六 尺	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町	何 何 區 町

第十一類 土功營繕





備考

一段別ノ欄内ニハ段別又ハ坪數單價ノ欄ニハ買收地ハ其段金又ハ一坪ノ代價寄付地ハ評價ノ段金又ハ一坪ノ價格ヲ記入シ御料地...

前項以外ノ工事費 計金何程 剩餘金又ハ翌年度へ繰越金...

河港

明治三十六年三月十四日廳令第三十六號 河川取締規則左ノ通相定ム...

河港道路

受ノ部 一金何程 村費收入 何工事ノ爲メ北海道廳ヨリ補助...

河川取締規則 第一條 本規則ニ於テ河川ト稱スルハ河身並ニ官有ニ屬スル堤防敷地ヲ謂フ...

第二條 堤防敷地トシテ除地スヘキ官有地ハ河幅八十間未満ハ兩岸各河幅ニ準シ河幅八十間以上...

但シ其處分ニ付町村ニアリテハ管轄支區 區ニアリテハ北海道廳ノ認可ヲ受ケハシ...

第十一條 左ノ各款ニ該當スルモノト認メタルト キハ北海道廳又ハ管轄支區町村行政廳ハ許可...

第十五條 橋梁ヲ距ル上下流トモ五十間以内ノ箇 所ニ於テ土石砂石礫竹木其他雜產物ヲ採取シ又ハ...

(別紙)  
 (第一號書式)  
 工事施行願  
 國郡區町村字名川名  
 一 工事名稱  
 一 施行期限 (許可ヲ受ケタル日ヨリ何日以内ニ著手シ何日間ニ竣功ス)  
 前項ノ通河川取締規則ヲ遵守シ(何何ノ爲メ)工事施行致候條許可相成度此段奉願候也  
 年月日 住所職業 出願人氏名印

宛名  
 本署ニハ詳細ナル工事計畫書工事方法書工費豫算書實測圖設計圖管理方法書ヲ添附スヘシ  
 工事施行ト河川使用トチ合セテ必要ナルトキハ第三號書式事項ヲ併記スルモトス  
 (第二號書式)  
 土砂石礫、竹木採取願  
 國郡區町村字名川名  
 一 種類數量  
 一 代價 (單當代價)  
 一 區域 (平均深幅)  
 一 採取期限 (許可ヲ受ケタル日ヨリ何日以内ニ著手シ何日間ニ終了ス)  
 前記ノ通河川取締規則ヲ遵守シ(何何ノ爲メ)採取致候條許可相成度此段奉願候也  
 住所職業 出願人氏名印  
 年月日 宛名  
 本署ニハ採取區域ヲ明示スル圖面及採取方法書ヲ添附スヘシ  
 (第三號書式)  
 河川使用願

國郡區町村字名川名  
 一 區域長 幅  
 一 使用期限 許可ヲ受ケタル日ヨリ何年間  
 前記ノ通河川取締規則ヲ遵守シ(何何ノ爲メ)使用致候條許可相成度此段奉願候也  
 住所職業 出願人氏名印  
 年月日 宛名  
 本署ニハ使用區域ヲ明示スル圖面及使用方法書ヲ添附スヘシ  
 (第四號書式)  
 木材流送願  
 國郡區町村字名川名  
 一 流送ノ始點 終點  
 一 種類 大小 數量  
 一 流送期限 許可ヲ受ケタル日ヨリ何日間  
 前記ノ通河川取締規則ヲ遵守シ(何何ノ爲メ)木材流送致候條許可相成度此段奉願候也  
 住所職業 出願人氏名印  
 年月日 宛名  
 本署ニハ流送區域ヲ明示スル圖面及流送費ニ陸揚方法書ヲ添附スヘシ  
 (第五號書式)  
 明治三十六年(三月)北海道廳令第三十六號河川取締規則ニ依ル河川左ノ通り指定ス  
 河川名 區 城 名  
 石狩川 石狩川 石狩川  
 天鹽川 天鹽川 天鹽川  
 十勝川 十勝川 十勝川  
 大津川 大津川 大津川  
 川別川 川別川 川別川  
 後志國禮部

○明治三十五年六月三日告示第二百三十九號  
 明治三十四年七月北海道廳令第二百二十五號第三條  
 但書ニ依ル河川左ノ通り指定ス  
 一 豐平川  
 ○明治三十年十一月二十五日廳令第七十號  
 運河取締規則左ノ通り相定ム  
 但シ明治二十九年(三月)當廳令第十三號同年(十二月)當廳令第六十五號ハ廢止ス  
 (十二)當廳令第六十五號ハ廢止ス  
 運河取締規則  
 第一條 運河ヲ通航セントスル船ハ左ノ制限ヲ越セハカラス但シ汽船ハ通行ヲ禁ス  
 馬追及幌向運河ハ  
 長四十二尺 吃水二尺五寸以内  
 札幌及幌向運河ハ  
 長五十尺 吃水三尺以内  
 花野及幌向運河ハ  
 長五十尺 吃水二尺五寸以内  
 (當分ノ内)  
 第二條 運河ノ通航ハ日出ロリ日没迄トス但シ特ニ許可ヲ受ケタルモノハ此限ニアラス  
 第三條 運河通航船ハ船溜場ノ外ニ於テハ碇ヲニ碇スルヲ得ス  
 第四條 開門ノ昇降ハ到着船ノ順ニ依ルヘシ  
 第五條 開門ヲ通過スルトキハ總テ開門番人ノ指探ニ從フモノトス  
 第六條 通行ノトキハ河川ノ中央ヲ取ルヘシ  
 第七條 二船以上並行スヘカラス  
 第八條 通行船ノ行速ノトキハ右方ニ避ケヘシ  
 第九條 前記ノ航行ヲ乘越サントスルトキハ相當ノ合圖ヲ爲シ前記ノ航行ノ之ニ應シタル後乗越スヘシ

第十條 曳船ヲ爲サントスルトキハ船首ニ高サ五尺以上ノ竿ヲ建テ竿頭ニ牽綱ヲ結ビ曳クヘシ但シ馬道峴向及札幌茨戸間運河ハ此限ニアラス  
 第十一條 特ニ許可ヲ受ケタル場合ノ外ハ物揚場ニ二十四時間以上物品ヲ留置クヘカラス  
 第十二條 河岸堤防船曳道又ハ開門其他ノ工作物ヲ毀損シ又ハ濫リニ開門洗堰等ヲ開閉シ其他惡戯ヲ爲スヘカラス  
 第十三條 運河流身河岸堤防又ハ船曳道ニ竹木ヲ挿入シ又ハ杭柵ヲ建設シ又ハ木石土砂ヲ集積シ若クハ河岸ヨリ築出ヲ爲スヘカラス  
 第十四條 運河河岸堤防又ハ船曳道ニ瓦礫塵芥又ハ鳥獸ノ死屍其他汚穢物ヲ投棄スヘカラス  
 第十五條 運河ニ木材薪木其他ノ物品ヲ投流スヘカラス  
 第十六條 許可ヲ得シテ運河ノ流水ヲ引用スヘカラス  
 第十七條 許可ヲ得シテ運河ニ橋梁棧橋階段其他ノ工作ヲ爲スヘカラス  
 第十八條 許可ヲ得シテ運河ニ排水溝渠ノ流水ヲ放流スヘカラス  
 第十九條 運河ニ於テ魚介ヲ捕獲スヘカラス  
 第二十條 運河ニ於テ遊泳スヘカラス  
 第二十一條 木則各條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス  
 ○明治三十年一月十日訓第二百五十號(內務部、殖民部、財務部、警察部、鐵道部、土木部、監獄署宛)  
 後志國高島郡高島村字麻ニ小樽築港事務所ヲ置キ土木部ニ屬セシム(三十年十二月訓第二百七十二號ヲ以テ但書刪除三十四年四月訓第三百五十二號ヲ以テ本文中改正)  
 築港事務所處務細則ハ所長之ヲ定メ長官ノ認可ヲ受クヘシ(三十年十二月訓第二百七十二號ヲ以テ但書追加)  
 ○明治三十年十一月二十五日訓第二百六十號(土木部築港課長宛)  
 小樽築港ニ關スル會計事務中左ノ事項ハ長官ノ決裁ヲ請フヘシ  
 一 見積價格一口金三千圓以上ノ工事請負及人夫供給若クハ運搬等ニ係ル契約ヲ締結スル事  
 二 同上一口金三千圓以上ノ物品購買ニ係ル契約ヲ締結スル事  
 三 外國人ト直接契約ヲ締結スル事  
 四 他官廳ヨリ物品ヲ購買借入スル事  
 五 土地建物ノ購買若クハ借入ノ契約ヲ締結スル事  
 六 但シ借入一時限リノモノハ此限ニアラス  
 豫算各目ノ流用ニ關スル事  
 七 (三十二年六月訓第三百五十二號ヲ以テ本項削除)  
 八 賠償金ヲ支出スル事  
 九 訴訟費用ヲ支出スル事  
 十 (三十二年六月訓第三百五十二號ヲ以テ本項削除)  
 十一 物品ノ貸借及保管轉換ノ事  
 十二 其他異例ト認ムルモノ  
 ○明治三十年十二月八日訓第二百七十四號(小樽築港事務所宛)  
 本年(十一月)當廳訓第二百六十號訓令ハ其所ニ於テ繼續遵守スヘシ  
 ○明治三十一年三月二十二日訓第九十三號(小樽築港事務所宛)

小樽築港ニ關シ會計規則第六十七條ノ檢查事務ハ小樽築港事務所長限リ處分スヘシ  
 ○明治三十二年七月二十四日訓第四百二十五號(小樽築港事務所宛)  
 小樽築港事務所常備職工常備人夫等給料支給規程左ノ通定ム  
 小樽築港事務所職工常備人夫等給料  
 支給規程  
 第一條 常備職工常備人夫等ノ給料ハ日給トシ毎月二十八日(前月二十六日)ヨリ當月二十五日マテ(分)支給ス  
 但シ解雇死亡等ハ其際支給ス  
 第二條 増給減給ハ發令ノ翌日ヨリ支給ス  
 第三條 日給ハ勤務日數ヲ計算支給ス  
 第四條 常備職工常備人夫等ニシテ一定ノ時間外公務ニ從事シタルトキハ一時間ニ對シ日給十分ノ一ノ割合ニテ増賃ヲ支給ス  
 但時間外公務ニ從事シタル者ト雖モ一時間以内ハ増賃ヲ給セズ  
 第五條 常備職工常備人夫等ニシテ公務ノ爲メ傷病ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタル者ノ給料ハ日給ノ半額以内ヲ給スルモノトス

● 道路  
 ○明治十六年一月十七日札幌縣甲第二號布達  
 本縣管内道路等級左ノ通假定候條比旨布達候事  
 國道(國道等級及線路ハ十八年一月大政官第一號布達及同年二月內務省第六號告示ニ依リ消滅)  
 縣道三等  
 從石狩國札幌郡札幌  
 至後志國岩内郡岩内  
 從同國岩内郡岩内

至後志國古宇郡古宇  
 從同國余市郡余市  
 至同國岩木郡岩木  
 從同國虻田郡虻田  
 至同國虻田郡虻田  
 從同國虻田郡虻田  
 至同國虻田郡虻田  
 從同國虻田郡虻田  
 至同國虻田郡虻田  
 從同國虻田郡虻田  
 至同國虻田郡虻田  
 從同國虻田郡虻田  
 至同國虻田郡虻田

管内縣道線中左ノ通過變更ス  
 一 假定縣道石狩國札幌ヨリ幌内ニ進スル線路中  
 札幌對雁兩隣間ハ雁來村ヨリ左ニ折レ對雁村  
 ニ至ルヲ以テ本道トシ里程左ノ通之ヲ改ム  
 (札幌對雁)里程四十六町五十間  
 假定縣道後志國余市ヨリ積丹ニ進スル線路中  
 吉平積丹兩隣間ハ美園郡積丹村ヨリ字「ニシ  
 イ」澤ヲ經テ積丹郡野塚村字「ウ」エント「澤」  
 出ルヲ以テ本道トス  
 但里程ハ別ニ之ヲ定ム  
 假定縣道根室國標津北見國斜里兩隣間ハ標津  
 郡伊奈村ヨリ道路斜里村ニ至ルヲ以テ本道  
 トシ里程左ノ通之ヲ定ム  
 (標津斜里)里程十四里三十三町十四間  
 右告示  
 ○明治二十一年一月六日告示  
 當縣下石狩國空知郡市來知村ヨリ同國樺戸郡月形  
 村ニ連絡スル線路ヲ縣道ニ假定ス  
 但里程ノ義ハ明治二十年(十月)當縣告示第四百  
 十五號ノ通(告示四百四十五號)市來知月形間五  
 里十五町下里程ヲ定メシ件ナリ  
 ○明治二十八年三月二十三日廳令第二十九號  
 當縣管内假定縣道ニ左ノ六路線ヲ增加シ石狩國札  
 幌ヨリ北見國枝幸ニ進スル線路中札幌石狩町左ノ  
 通過變更ス  
 札幌ヨリ室蘭ニ進スル線路  
 石狩國札幌ヨリ廳振國幌別郡別村迄ハ  
 國道第四十二號線ヲ別村ヨリ分岐シ室蘭郡輪  
 田村字別村ヨリ室蘭港ニ至ル  
 札幌ヨリ上川ヲ經テ網走ニ進スル線路  
 石狩國札幌ヨリ空知郡若見澤村迄ハ札幌  
 ヨリ幌内ニ進スル假定縣道路若見澤村ヨリ分岐  
 ヨリ幌内ニ進スル假定縣道路若見澤村ヨリ分岐

岐ノ同郡泰井江空知太音江法帶上川郡神居古丹  
 旭川伊香牛越路中越及北見國枝幸郡上流ノ  
 下野上音呂郡佐路間留邊榮相ノ内堀野網走郡越  
 後ヲ經テ網走ニ至ル  
 札幌ヨリ室蘭ニ進スル線路  
 石狩國札幌ヨリ豐平村迄ハ國道第四十二  
 號線ヲ豐平村ヨリ分岐シ同郡定山溪中山及鷹  
 岡山郡岩別郡洞爺ヲ經テ虻田ニ至ル  
 札幌ヨリ室蘭ニ進スル線路  
 石狩國札幌ヨリ空知郡空知太音江ハ札幌ヨ  
 リ上川ヲ經テ網走ニ進スル假定縣道路空知太  
 コリ分岐シ南龍郡尾自利加樺戸郡惠倍別及尾  
 國増毛郡尾自利加樺戸郡惠倍別及尾國  
 網走ヨリ網走ニ進スル線路  
 網走國網走郡網走ヨリ川上郡標茶郡子風  
 黃山及北見國斜里郡野川小清水ヲ經テ網走ニ至  
 ル  
 厚岸ヨリ標茶ニ進スル線路  
 網走國厚岸郡厚岸ヨリ太田村ヲ經テ川上郡標茶  
 ニ至ル  
 札幌ヨリ枝幸ニ進スル假定縣道路線中札幌石狩町  
 改正路線  
 札幌ヨリ樺路村字奈戸太ヲ經テ石狩ニ至ル  
 ○明治三十四年七月十八日告示第三百一號  
 明治三十四年(七月)北海道廳令第三百二十五號第  
 二條ニ依リ線路線左ノ通指定ス  
 第一項 左記ノ國道ハ當分里道ニ進ス  
 一 國道四十三號線ノ内側路濱中間(仙鳳趾野  
 村經)  
 第二項 左記ノ假定縣道ハ當分里道ニ進ス  
 一 網走網走間ノ内側路濱中間(國道四十三  
 號線ニ接続ス)

二 厚岸標茶間ノ内厚岸片無去間(前二同シ)  
 三 札幌幌内間(内札幌若見澤間(札幌ヨリ第  
 七師團所在地ニ接続ス)  
 四 札幌網走間ノ内若見澤旭川間(前二同シ)  
 第三項 左記ノ假定縣道ハ當分里道ニ進ス  
 一 上磯標茶間ノ内(上磯大野間平田内太樞間)  
 二 石狩志別間ノ内石狩當別  
 三 札幌幌内間ノ内市來知幌内間  
 第四項 左記ノ里道線ハ當分里道ニ進ス  
 一 旭川標茶間(札幌ヨリ接続ス)  
 二 厚岸濱中間(風洞樺子經)(國道第四十三號  
 ニ接続ス)  
 三 遠野片無去間(前二同シ)  
 第五項 左記ノ里道線ハ當分里道ニ進ス  
 一 龜田大野間(龜田浦都間假定縣道ニ接続ス)  
 二 平田内大樞間(前二同シ)  
 三 國繼標茶間(國道第四十二號ヨリ分岐龜田  
 浦都間假定縣道ニ接続ス)  
 四 旭川大津間(札幌標茶間準國道ヨリ分岐國  
 道第四十三號ニ接続ス)  
 五 空知太下宮野間(札幌標茶間準國道ヨリ  
 分岐旭川大津間準假定縣道ニ接続ス)  
 六 對雁當別村間(札幌標茶間準國道ヨリ分岐  
 石狩志別間假定縣道ニ接続ス)  
 七 帶廣廣尾間(旭川大津間準假定縣道ヨリ分  
 岐國道第四十三號ニ接続ス)  
 八 野上浦別間(札幌網走間假定縣道ヨリ分岐  
 根室標茶間假定縣道ニ接続ス)  
 九 内保紗那間(年爾ヲ經)

○明治二十五年十月二十九日告示第五十七號  
 後志國小樽郡淡町ヨリ同國高島郡手宮町ニ至ル街  
 路中央(幅四間)ヲ車馬道其兩側(幅各九尺)ヲ人道

乙號

本年四月九日附送甲第五八〇號ヲ以テ參謀本部測
陸軍大臣伯耆大山 巖
內務大臣伯耆大山 巖
陸軍大臣伯耆大山 巖
內務大臣伯耆大山 巖
陸軍大臣伯耆大山 巖
內務大臣伯耆大山 巖
陸軍大臣伯耆大山 巖
內務大臣伯耆大山 巖
陸軍大臣伯耆大山 巖
內務大臣伯耆大山 巖
陸軍大臣伯耆大山 巖
內務大臣伯耆大山 巖
陸軍大臣伯耆大山 巖
內務大臣伯耆大山 巖
陸軍大臣伯耆大山 巖
內務大臣伯耆大山 巖
陸軍大臣伯耆大山 巖
內務大臣伯耆大山 巖
陸軍大臣伯耆大山 巖
內務大臣伯耆大山 巖
陸軍大臣伯耆大山 巖
內務大臣伯耆大山 巖

陸軍大臣 伯耆大山 巖

內務大臣 伯耆大山 巖



中(一)般) 北海道鐵道部ニ關スル從前ノ規程ハ總テ北海道鐵道部ニ適用ス

○明治三十五年四月一日訓第三百三十七號(北海道鐵道部宛)

其部建設工事監督規程左ノ通り相定ム

但明治三十一年(四月)訓第五百九十九號北海道鐵道建設工事監督規程ハ廢止ス

第一條 北海道鐵道建設工事監督規程

第二條 北海道鐵道建設工事監督ハ特別ノ規程アルモノノ外此規程ニ據ルヘシ

第三條 北海道鐵道建設工事監督區ノ監督長ヲ定ム

第四條 監督長ニ左ノ職員ヲ置ク

監督長 一人

監督 若干人

監督補 一人

理事 一人(理事主任ヲ置ク場合ハ若千人)(三十五年四月訓第四百三十一號ヲ以テ本項中改正)

事務補 若干人

各種工夫 同

同見習 同

但必要ニ應ジ監督主任理事主任各種工夫長各一人及定夫ヲ置クコトヲ得

第四條 監督長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

監督主任理事技師技師補補ハ技師手續業事理事主任理事ハ書記理事ハ事務手續業事又ハ職員ヲ以テ之ニ充ツ

理事補 若千人

同 同

同見習 同

但必要ニ應ジ監督主任理事主任各種工夫長各一人及定夫ヲ置クコトヲ得

第五條 監督長ハ建設課長ノ指揮ヲ承ケ監督區内ノ業務ヲ掌理ス

監督主任ハ監督長

監督補ハ監督長監督主任監督主任ノ指揮ヲ承ケ監督主任ノ職務ニ從事ス

理事主任ハ監督長

理事主任ハ監督長監督主任ノ職務ニ從事ス

理事補ハ監督長監督主任ノ職務ニ從事ス

事務補ハ監督長監督主任ノ職務ニ從事ス

第六條 監督長事務アルトキハ監督主任監督若クハ理事主任理事ヲ以テ代理シセムルコトヲ得

第七條 監督長ハ左ノ事項ヲ專決スルコトヲ得

但即時課長ニ報告スヘシ

一 職員及職工ノ夫ヲ罷免スルコト(三十五年五月訓第五百九十九號三十五年六月訓第六百三十三號ヲ以テ本項中改正)

二 職員及職工ノ夫ヲ供給スルトノ契約上ニ於テ監督主任ノ職權ニ屬セシメタル事項ヲ處分スルコト

三 職工人夫供給人ヲ選定スルコト

但選定ニ於テ特ニ指名シタルモノハ此限ヌルコト

四 購買契約ニ依リ購買人ニ工事用物件ヲ貸付スルコト

五 工部部分又ハ五百圓未満ノ工事竣功ノ検査ヲ爲スコト但五百圓未満ノ工事竣功検査ヲ爲ス場合ニ於テ其工事力購買契約ニ係ルモノナルトキハ併セテ其引渡ヲ爲スコトヲ得(三十五年七月訓第七百五十八號ヲ以テ本項改正)

第六條 項改正)

六 部下職員ノ業務分擔ヲ命スルコト

七 部下ノ職員ヲ其區内ニ派遣スルコト

八 各事務所等ノ請求ニ依リ必要ニ應ジテ職員ヲ派遣スルコト(三十五年七月訓第七百五十八號ヲ以テ本項追加)

第八條 鐵路監督長ニ關シ左ノ事項ヲ專決スルコトヲ得

一 物品購買修繕及運搬請求ニ關スルコト

二 鐵路線内ニ部下職員ヲ出張セシムルコト

三 代理事項

四 見積價格一口金五百圓未満ノ工事購買若クハ職工人夫供給購買ニ關スルコト

五 施行中ニ係ル工事豫算額一口金五百圓未満ノ課程及設計變更ニ關スルコト

六 一口金五百圓未満ノ土地家屋及物件借入ニ關スルコト

七 一口金五百圓未満ノ工事契約保證金免除ニ關スルコト

八 一月以内ノ期日ニ於テル工事中止延期ニ關スルコト

九 前項ノ場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添へ即時課長ニ報告スヘシ

一 專決事項第一號第三號ノ場合ハ其要領書

二 代理事項第一號第二號ノ場合ハ決議書設計書圖面檢算書(豫算價格書決定價格內譯書)契約書其他關係書類ノ原本

三 代理事項第三號第四號ノ場合ハ決議書原本

四 代理事項第五號ノ場合ハ決議書及引渡期限延長申請書又ハ申請書ノ原本(三十五年

四月訓第四百三十一號向五月訓第五百九十九號同年七月訓第七百五十八號ヲ以テ本項中改正)

○明治三十五年四月九日訓第三百七十七號(北海道鐵道部宛)

明治三十四年十月訓第八百六十三號運輸事務所處務規程別冊ノ通り改正ス

(別冊)

運輸事務所處務規程

第一條 運輸事務所ノ所長ヲ置キ鐵道書記ヲ以テ之ニ充ツ

第二條 運輸事務所所長ハ運輸課長ノ指揮ヲ承ケ其所管内ニ於ケル運輸及電氣通信並ニ信號ニ關スル事務ヲ掌理ス

第三條 運輸事務所ニ左ノ掛ヲ置キ事務ヲ分掌セシメ各掛ニ主任一名ヲ置ク

第四條 庶務掛ハ左ノ事務ヲ分掌ス

一 所印所長印管守ニ關スル事項

二 職員ニ關スル事項

三 文書ノ收受及發送ニ關スル事項

四 文書ノ編纂及保存ニ關スル事項

五 統計及報告ニ關スル事項

六 物品ニ關スル事項

七 經費及豫算ニ關スル事項

八 無賃乘車券ニ關スル事項

九 停車場橋内ノ諸營業及廣告類ニ關スル事項

十 所屬諸建物ニ關スル事項

十一 旅客及貨主ノ申告ニ關スル事項

十二 天災事變其他ノ場合ニ於テ旅客ノ手當ニ關スル事項

十三 貨物ノ紛失毀損及延滞賠償ニ關スル事項

第十二類 職員及處務規程

工夫長以下ハ職員ヲ以テ之ニ充ツ

第五條 監督長ハ建設課長ノ指揮ヲ承ケ監督區内ノ業務ヲ掌理ス

監督主任ハ監督長

監督補ハ監督長監督主任監督主任ノ指揮ヲ承ケ監督主任ノ職務ニ從事ス

理事主任ハ監督長

理事主任ハ監督長監督主任ノ職務ニ從事ス

理事補ハ監督長監督主任ノ職務ニ從事ス

事務補ハ監督長監督主任ノ職務ニ從事ス

第六條 監督長事務アルトキハ監督主任監督若クハ理事主任理事ヲ以テ代理シセムルコトヲ得

第七條 監督長ハ左ノ事項ヲ專決スルコトヲ得

但即時課長ニ報告スヘシ

一 職員及職工ノ夫ヲ罷免スルコト(三十五年五月訓第五百九十九號三十五年六月訓第六百三十三號ヲ以テ本項中改正)

二 職員及職工ノ夫ヲ供給スルトノ契約上ニ於テ監督主任ノ職權ニ屬セシメタル事項ヲ處分スルコト

三 職工人夫供給人ヲ選定スルコト

但選定ニ於テ特ニ指名シタルモノハ此限ヌルコト

四 購買契約ニ依リ購買人ニ工事用物件ヲ貸付スルコト

五 工部部分又ハ五百圓未満ノ工事竣功ノ検査ヲ爲スコト但五百圓未満ノ工事竣功検査ヲ爲ス場合ニ於テ其工事力購買契約ニ係ルモノナルトキハ併セテ其引渡ヲ爲スコトヲ得(三十五年七月訓第七百五十八號ヲ以テ本項改正)

第六條 項改正)

六 部下職員ノ業務分擔ヲ命スルコト

七 部下ノ職員ヲ其區内ニ派遣スルコト

八 各事務所等ノ請求ニ依リ必要ニ應ジテ職員ヲ派遣スルコト(三十五年七月訓第七百五十八號ヲ以テ本項追加)

第八條 鐵路監督長ニ關シ左ノ事項ヲ專決スルコトヲ得

一 物品購買修繕及運搬請求ニ關スルコト

二 鐵路線内ニ部下職員ヲ出張セシムルコト

三 代理事項

四 見積價格一口金五百圓未満ノ工事購買若クハ職工人夫供給購買ニ關スルコト

五 施行中ニ係ル工事豫算額一口金五百圓未満ノ課程及設計變更ニ關スルコト

六 一口金五百圓未満ノ土地家屋及物件借入ニ關スルコト

七 一口金五百圓未満ノ工事契約保證金免除ニ關スルコト

八 一月以内ノ期日ニ於テル工事中止延期ニ關スルコト

九 前項ノ場合ニ於テハ左ノ書類ヲ添へ即時課長ニ報告スヘシ

一 專決事項第一號第三號ノ場合ハ其要領書

二 代理事項第一號第二號ノ場合ハ決議書設計書圖面檢算書(豫算價格書決定價格內譯書)契約書其他關係書類ノ原本

三 代理事項第三號第四號ノ場合ハ決議書原本

四 代理事項第五號ノ場合ハ決議書及引渡期限延長申請書又ハ申請書ノ原本(三十五年



**工場處務規程**  
 第一條 工場主任置キ鐵道技師又ハ鐵道技師ヲ以テ之ニ充ツ  
 第二條 工場長ハ車輛課長ノ指揮ヲ承ケ工作ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス  
 第三條 工場ニ左ノ掛ヲ置キ事務ヲ分掌セシメ各掛ニ主任一名ヲ置ク(三十五年六月調第六百二十五號ヲ以テ本條中改正)  
 第四條 庶務掛 工事掛  
 一 掛印局長印保管ニ關スル事項  
 二 職員ニ關スル事項  
 三 文書ノ收受及發送ニ關スル事項  
 四 文書ノ編纂及保存ニ關スル事項  
 五 統計及報告ニ關スル事項  
 六 官有財產及物品ニ關スル事項  
 七 經費及豫算ノ整理ニ關スル事項  
 八 製修品代價清算ニ關スル事項  
 九 製修品ニ要スル材料調製ニ關スル事項  
 十 製修工事ニ要スル材料調製ニ關スル事項  
 十一 他掛ノ分掌ニ關セサル事項  
 第五條 製修工事施行ニ關スル事項  
 一 製修工事ノ概算書調製ニ關スル事項  
 二 各製修品ノ工費及材料費調定ニ關スル事項  
 三 場內器具器械ノ保管ニ關スル事項  
 四 事務ノ繁閑ニ依リ職工ノ多寡調査ニ關スル事項  
 五 工場小頭以下諸職工技師及給料査定ニ關スル事項  
 六 工場取給小頭以下諸職工ノ指揮監督ニ關スル事項

**製造局**  
 八 製造局材料品質査定ニ關スル事項  
 九 製造局試験ニ關スル事項  
 十 製造局ノ會計及圖面ノ調製及保管ニ關スル事項(三十五年六月調第六百二十五號ヲ以テ本項追加)  
 十一 製鐵用器具器械ノ保管ニ關スル事項(三十五年六月二十五號ヲ以テ本項追加)  
 第十二條 工場事務分掌ノ命スル事  
 一 主任ハ此限リニアラス  
 二 主任ハ此限リニテニテアラス  
 三 主任ハ此限リニテニテアラス  
 四 主任ハ此限リニテニテアラス  
 五 主任ハ此限リニテニテアラス  
 六 主任ハ此限リニテニテアラス  
 ○明治三十四年十月二十五日調第八百七十六號(北海鐵道部宛)  
 鐵道運輸事務所規則左ノ通り定ム  
 但シ明治三十三年(六月)調第三百三十九號鐵道運輸事務所規則ハ廢止ス

**鐵道運輸事務所規則**  
 第一章 總則  
 第一條 本所ハ鐵道運輸事務從事員ヲ養成セシメ且テ運輸事務及電氣通信ニ關スル一般事務ヲ教授シ併セテ運輸職員ヲ教育スルヲ以テ目的トス  
 第二條 傳習生ノ修業期限ハ一箇年トス  
 第三條 運輸課長ハ現在運輸職員中ヨリ選拔シ在學中ナル者ニ限リ傳習生ヲ命スルコトヲ得  
 第四條 傳習生ニハ在學中手當金ヲ支給シ且テ課業ニ必要ナル書籍及器具器械ヲ貸與シ若クハ用品ヲ給與スルコトアルヘシ但シ前條ノ在學者ニハ手當金ヲ支給セス  
 第五條 學科課目ハ左ノ如シ  
 甲 算術  
 一 算術及鐵道用算術(珠算算算)代數幾何簿記電氣通信鐵道法規(三十五年四月調第三百八十號ヲ以テ本項中改正)  
 二 算術商法簿記統計運輸營業貨物電氣通信及技術鐵道法規電信法規(三十五年四月調第三百八十號ヲ以テ本項中改正)  
 第六條 授業時間ハ一週四十時間以上トス  
 第七條 學期ハ豫科修業期間六箇月本科修業期間六箇月トス  
 第八條 傳習生ニ在學中ニ於テ手當金ハ日額金拾錢以上貳拾五錢以下トス但シ手當金支給方ハ明治二十六年三月調令第十三號ニ依リ  
 第九條 傳習生ニシテ修業中ニ退學シ若クハ退學ヲ命セラルヘシ又ハ卒業後就職セザルトキハ既ニ

**支給シタル手當金ノ全額及學費トシテ一箇月金貳圓ノ割合ヲ以テ在學月數ニ應ジ還納セシムルモノトス**  
 但シ一箇月未滿ノ日數ニ對シテ學費ハ日割ヲ以テ計算ス  
 第十條 傳習生ハ卒業後滿二箇年開北海鐵道部ニ奉職シ運輸事務ニ從事スル義務アルモノトス  
 第十一條 前條義務年限中ニ辭職スルガ若クハ免職セラルル者ハ一週間以内ニ左ノ割合ヲ以テ第九條ニ依リ手當金及學費ヲ還納スヘキモノトス  
 一 在職一年未滿 在學中ノ手當金及學費ノ全額  
 二 在職二年未滿 同上  
 三 在職三年未滿 同上  
 第十條 左ノ場合ニ於テハ第九條第十一條ヲ適用セス  
 一 官ノ都合ニ依リ免官退職又ハ退學ヲ命シタルトキ  
 二 兵役ノ爲メ辭職又ハ退學シタルトキ  
 三 死亡シタルトキ  
 第十條 第三條ニ依リ運輸職員ニハ入學ノ爲メ要スル普通旅費ヲ支給ス

**第四章 試驗及休業**  
 第十四條 試驗ナシテ學期試驗及卒業試驗トス  
 第十五條 學期試驗ハ學期ノ終リニ於テ之ヲ行ヒ卒業試驗ハ全期修業ノ後之ヲ行フ但シ本科學期試驗ハ之ヲ施行セス  
 第十六條 試驗評點ハ百點ヲ以テ滿點トシ一科目四十點以上平均六十點以上及第トシ一科目四十點未滿平均六十點未滿ヲ落第トス  
 第十七條 卒業試驗ニ落第シタル者ハ退學ヲ命ス但シ病氣ノ爲メ試験ヲ受ケルコト能ハサルガ將來卒業ノ見込アルモノハ鐵道部長ニ於テ 檢入

**學シメ三月十日以内ニ再試験ナラスコトアルヘシ**  
 第十八條 休業ハ官廳ノ例ニ依リ但シ冬期休業ハ十二月二十五日ヨリ翌年一月十日マテトス  
 第十九條 入退學  
 一 入退學 傳習生トナスヘキ者ハ入學試驗ニ及第シ左ノ各號ニ該當スル者ヨリ採用ス  
 一 年齡滿十六年以上二十二年未滿ノ男子  
 二 品行端正ナル者  
 三 身體強壯ナル者  
 第二十條 入學試驗ヲ分テ體格試驗學術試驗及技術試驗トス  
 第二十一條 學術試驗ハ體格検査ニ合格シタル者ニ限リ之ヲ施行シ技術試驗ハ學術試驗ニ及第シタル者ニ限リ之ヲ施行ス  
 第二十二條 學術試驗ノ程度ハ左ノ如シ  
 英語 ナショナル第二リド  
 讀書 漢字交リ文  
 作文 普通往復文  
 算術 四則比例  
 書法 楷行  
 代數 加減乘除  
 第二十三條 技術試験ハ電氣通信技術ニ堪ヘキヤ否ヤヲ十日以内ノ期間試験スルモノトス  
 第二十四條 入學試驗ヲ受ケント欲スル者ハ甲號書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ本所ニ提出スヘシ  
 第二十五條 入學試驗ヲ受ケ入學ヲ許サレタル者ハ其當日ヨリ三日以内ニ乙號書式ニ依リ身元保證人連署ノ上入學約書ヲ本所ニ提出スヘシ  
 第二十六條 傳習生ニシテ學術進步セザルガ又ハ身體虛弱若クハ品行不良ニシテ卒業ノ上就職ノ見込ナシト認ムルトキハ退學ヲ命ス

**第二十七條 身元保證人ハ一名以上トシ** 札帳若クハ其附近ニ於テ一家ノ生計ヲ立ツル丁年以上ノ男子ニシテ生徒ノ身元ニ關シ一切ノ事ヲ引受け且第九條第十一條ノ場合ニ於ケル賠償ノ義務ヲ負擔スルニ足ルヘキ者ニ限ル  
 第二十八條 本人及身元保證人住所ヲ轉シ又ハ改印シタルトキハ一週間以内ニ本人及身元保證人連署ヲ以テ届ケ出ツヘシ  
 第二十九條 身元保證人死亡又ハ他ニ轉移スル等實際保證人ノ義務ヲ盡ス能ハサル事情ヲ生シタルトキハ直ニ第二十七條ニ合格スル身元保證人ヲ以テ之ニ代ヘ届ケ出ツヘシ  
 第三十條 傳習生病氣或ハ已ムテ得ザル事故アリテ遲刻若クハ缺席スルトキハ直ニ届ケ出ツヘシ但シ病氣ノ爲メ一週間以上引續キ缺席スルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添フルコトヲ要ス  
 甲號書式  
**入學願 (川紙美濃紙)**  
 本所就職業(月主ニアラサル者)何某子弟) 氏 名 年 月 日 生  
 私儀今般鐵道運輸事務所ニ入學在學志願ニ付御試驗相成度履歷書相添ヘ此段願上様也  
 年 月 日 住所 氏 名 職  
 乙號書式  
 北海鐵道鐵道部長宛 氏 名 職  
 丙號書式  
 入學約書 (川紙美濃紙)  
 今般鐵道運輸事務所傳習生ニ御採用相成候ニ付テハ









運賃ノ仕拂ヲ受ケ之ニ對シ引渡切符ヲ發行スヘシ  
 第四條 託送貨物ハ貨車ニ積込ミノ手續ヲ爲シ  
 運送通知書ト共ニ車掌ニ引渡シ爲シ受領ノ證明  
 ナ受ケヘシ  
 貨物積載車ニハ車票ヲ附スヘシ  
 第五條 有蓋積載貨車ニハ封印ヲ爲シ鎖錠ヲ要  
 スルモノハ之ヲ施スヘシ  
 第六條 貨物掛ハ貨車票記ノ重量噸數以上ニ貨  
 物ヲ積載スヘカラス  
 第七條 貨物ハ積載ヲ爲サズ又運轉中激動崩落  
 等ナキ積載セシ且無蓋車ニ覆布網ヲ使用スルト  
 キハ其掛方ヲ完全ニスヘシ  
 第八條 貨物掛ハ貨物積込ノ際檢査スヘシ  
 第九條 貨物掛ハ車掌ニ貨物受授ノ際其引渡チ  
 完了スルトコト能ハサル場合ニ於テ其掛員乗車ノ  
 上車中ニテ引渡チ爲スコトヲ得  
 第十條 貨物掛ハ發送貨物ニ必要ナル貨車準備  
 ノ手續ヲ爲シ且成規ニ依リ貨車發送ノ順序ヲ定  
 ムヘシ  
 第十一條 貨物積載車被損其他ノ事故ニ依リ途  
 中積換ノ必要アルトキハ其積換貨物掛ニ於テ之カ  
 手續ヲ爲シ積荷ノ數量目等運送通知書ト對照  
 調査シ通知書ニ積換ノ車號ヲ記入シ且積換ニ  
 通知スヘシ  
 積荷方運送通知書ト伴ハサルカ爲メ運送通知書  
 ニ前項ノ記入ヲナス能ハサルトキハ品名數量  
 目等可成詳細取調積換車號ハ運送ナク積換ニ  
 通知スヘシ  
 第十二條 貨物掛ハ貨物積載車到着驛ニ送シタ  
 ルトキハ之ニ立合ヒ鎖錠封印等ヲ檢査シ貨物ハ  
 貨車受取ノ後運送ノ通知書ト對照スヘシ  
 緩急車積貨物ハ運送通知書ト對照調査シ通知書  
 ト共ニ其交付ヲ受ケヘシ  
 第十三條 貨物掛ハ發送途保管ノ爲メ貨物ノ引  
 渡チ受ケタルトキハ特約ノ條件ヲ運送狀ニ明記  
 セシムヘシ  
 荷送人ノ責任ヲ以テ停車場其他積込地内ニ一時  
 貨物ノ留置ヲ許シタルトキハ成規ニ依リ留置料  
 ナ請求スヘシ  
 貨物ノ到着後荷送人ノ責任ヲ以テ留置キテ諸シ  
 タルトキ亦同シ  
 第十四條 貨物掛ハ成規ニ依リ器具使用料保管  
 料留置料及手数料等ノ徴收ヲ爲スヘシ  
 第十五條 到着貨物ニシテ過積混積積若クハ紛失  
 毀損減量等其運送通知書ト相違アリタル場合  
 ニハ積込發驛ニ通知シ同時ニ詳細運輸課長及運  
 輸事務所長ヘ報告スヘシ  
 但減量ノ場合ニハ殘餘ノ貨物ニ就キ斤量ヲ檢  
 査スヘシ  
 第十六條 貨物掛ハ荷受人ヨリ差出シタル引渡  
 切符若クハ引換切符ト對照シ相違ナキモノ  
 ハ之ヲ引換ニ貨物ヲ引渡スヘシ  
 但荷受人ニ於テ引渡切符又ハ引換切符紛失等ノ  
 場合ニハ成規ノ手續ニ依リニアラサレハ引渡  
 チ爲スコトヲ得ス  
 第十七條 中繼貨物ニ付テ第四條乃至第九  
 條第八條第九條第十條ノ規程ヲ準用ス  
 第十八條 緩急車積貨物ハ停車場留置車ニ  
 積込シ積置スヘシ  
 但車掌ノ保管中ニ係ルトキハ此限ニアラス  
 第十九條 貨物掛ハ貨物到着シタルトキハ速ニ  
 之ヲ荷送人ニ通知シ若シ貨物ノ紛失毀損又ハ減  
 量アリタルコトヲ發見シタルトキハ速ニ調査チ

ナ收受シ小荷物切符ヲ發行スヘシ  
 但小荷物又ハ小動物ニシテ旅客ト同一列車チ  
 以テ輸送スヘキモノニ係ルトキハ乘車券ヲ查  
 四ニ到着驛名ヲ確認スヘシ  
 死體又ハ貴物品ノ託送ヲ受ケルトキハ前項ニ準  
 シ取扱フヘシ  
 第三十一條 小荷物死體小動物及貴重品ハ手  
 小荷物切符又ハ運送通知書ト共ニ車掌ニ交付シ  
 荷物受渡簿ニ受領ノ證明ヲ受ケ左ノ區別ニ依リ  
 運送スヘシ  
 一 手荷物及旅客附屬ノ小荷物並ニ小動物ニシ  
 テ列車出發時刻ヨリ五分前ニ受付ケタルモノ  
 ノハ其列車  
 二 旅客ニ附屬セザル小荷物及小動物ニシテ列  
 車出發時刻ヨリ二十分前ニ受付ケタルモノハ  
 其列車  
 三 死體ハ成規ノ時限迄ニ運送ノ申込ヲ受ケタ  
 ルトキハ其指示列車  
 四 貴重品ハ貴重品塔載列車  
 五 第一號及第二號ノ場合ニ於テ其列車カ荷物  
 ノ送先驛ニ直送セザルトキハ運送セザル場  
 合ニ限リ送先驛ニ直送スル最近列車  
 前項ノ時間ヲ經過シ受付タルトキト雖モ成規ノ  
 手續ヲ履行スヘキ餘裕アルトキハ塔載運送スヘ  
 シ  
 第三十二條 手小荷物ノ受付ニ際シ其鎖錠若ク  
 ハ緊束等ノ不充分ナルトキハ話送入ナシテ其荷  
 造ヲ改造セシムヘシ  
 貴重品ノ包装封印不充分ナルトキ亦同シ  
 第三十三條 手小荷物死體小動物及貴重品ハ到  
 着驛ニ於テハ手小荷物切符又ハ運送通知書ト對  
 照シテ車掌ヨリ交付ヲ受ケ積置ト引換ニ引渡チ  
 爲スヘシ  
 手荷物又ハ旅客附屬ノ小荷物小動物ニシテ途中  
 驛ニ於テ引渡チ爲スコト亦同シ  
 第三十四條 中繼貨物ニ就テハ第三十一條第  
 三十三條ノ規定ヲ準用ス  
 第三十五條 到着貨物ニ就テハ成規ノ通知ヲ爲  
 シ若シ斤量超過品名相違若クハ紛失毀損減量等  
 アリタル場合ニ於テ積換切符又ハ積換通知書ト  
 定テ準用ス  
 第三十六條 留置貨物ハ鎖錠アル場所ニ積置シ  
 積置ニ保管スヘシ  
 第三十七條 手荷物又ハ貴重品到着後成規ノ  
 期間内ニ引取チ取ササルトキハ保管料ヲ徵收ス  
 ヘシ  
 第三十八條 小荷物ハ託送入ノ請求アルトキハ  
 成規ノ配區域内ニ限リ配送貨チ收受シ配送ノ  
 手續ヲ爲スヘシ  
 第三十九條 第六十三條第九十八條第九十九條  
 第一百條第九十九條第一百六條第九十九條第百二  
 十一條第百二十四條ノ規定ハ小荷物掛ニ之ヲ準  
 用ス  
 第十章 電信掛  
 第四十條 電信掛ハ停車場ニ於ケル電氣通信ヲ  
 取扱ヒ電信ニ關スル報告表等ヲ製スルモノト  
 ス  
 第四十一條 電信掛ハ文字不明ニシテ誤譯チ生  
 シ易キ處アルモノ又ハ一定ノ用紙ニ記載セザル  
 モノ及「モールス」字號ニ表ハシ難キモノハ發  
 信者ニ對シ訂正ヲ請求スヘシ  
 第四十二條 電信掛ハ驛長又ハ其代務者ノ認印  
 ナキ驛ニ發送電報ヲ取扱フコトヲ得ス  
 第四十三條 著信ハ用紙ニ明瞭ニ記載シ電報配  
 送ケ荷送人及荷受人ニ通知ノ手續ヲ爲スヘシ  
 第二十條 貨物掛ハ貨物引渡ノ際數量ノ檢査若  
 クハ貨物ノ狀態ニ付證明ヲ請求セラントキハ  
 ハ速ニ之レカ證明ヲ與ル手續ヲ爲スヘシ  
 第二十一條 貨物掛ハ荷送人ノ請求アルトキハ  
 貨物引換證又ハ運送狀ノ原本ヲ交付スヘシ  
 第二十二條 貨物掛ハ常ニ貨物庫及貨物積込地  
 觀シ中繼貨車延滞セシメサル様注意スヘシ  
 第二十三條 貨物掛ハ貨車ノ完済及積込ニ就ク  
 ハ特ニ注意スヘシ  
 第二十四條 秤量器ハ毎朝之ヲ檢査シ且清掃方  
 ナ應ルヘカラス  
 第二十五條 覆布網ハ常ニ濕氣ヲ帯ビサル様注  
 意シ且一定ノ場所ニ置キ散置セシムヘカラス  
 第二十六條 貨物掛ハ馬運車用踏板戶口繩等散  
 置セサル様注意スヘシ  
 第二十七條 留置中繼貨物ハ積置ニ保管スヘシ  
 第九章 小荷物掛  
 第二十八條 小荷物掛ハ手小荷物ノ受授及保管  
 ノ責任ヲシ小荷物死體小動物及貴重品等ニ關  
 スル諸事項ノ記入計算ヲ爲スコトヲ得  
 第二十九條 手荷物ノ託送ヲ受ケルトキハ乘車  
 券ヲ查閱シ其等級及到着驛名ヲ確認シ且品名性  
 質數量及荷造ヲ左ノ區別ニ依リ取扱フヘシ  
 一 無賃制限内ノ手荷物ニ對シテハ「チホツキ」  
 又ハ引換合符ノ一片ヲ旅客ニ交付シ他ノ一  
 片ヲ該荷物ニ付シテハ成規ノ手續ヲ履行スヘシ  
 二 手荷物切符ニ對シテハ成規ノ貨金チ收受シ  
 手荷物切符ヲ發行スヘシ  
 第三十條 小荷物又ハ小動物ノ託送ヲ受ケタルト  
 キハ其品名稱數量及荷造等ヲ檢査シ「斤量」  
 依ラサル特定物品ハ檢査ヲ要セス」成規ノ貨金

第百五十五條 中間停車場ニ解放スヘキ車輛ノ可成入換ノ手續ヲ省ク積順序能ク聯結スヘシ

第百五十六條 機車掛ハ列車出發前聯結器及貫通制動機等ノ聯結方完全ナルコトヲ確認スヘシ

第百五十七條 貨物ヲ積載シタル無蓋貨車ヲ聯結スルトキハ貨物積載方及覆布ノ掛方等ニ注意シ若シ不完全ナルトキハ貨物掛ニ通知スヘシ

第十二章 車號掛

第百五十八條 車號掛ハ驛長ノ指揮ヲ受ケ發着又ハ通過ニ係ル客貨車及覆布、綱索ニ關スル事項ノ取調ヲ爲シ之ニ關スル報告表ヲ調製シ爲スモノトス

第百五十九條 車號掛ハ成規ニ依リ通過又ハ發着客、貨車ニ關スル事項ヲ驛長ニ報告スヘシ

第百六十條 車號掛ハ毎日終列車發着後及破損車ノ現在數ヲ取調ヘ之ヲ驛長ニ報告スヘシ

第百六十一條 車號掛ハ貨物掛ヲ補助シ成規ニ依リ貨車發送順序ヲ定ムヘキモノトス

第百六十二條 車號掛ハ空貨車ヲ發送スルトキハ車號掛附スヘシ

第百六十三條 車號掛ハ空貨車發着ノ際車内ヲ検査スヘシ

第百六十四條 車號掛ハ貨物掛ヲ補助シ無蓋貨車ノ積載方及覆布、綱ノ掛方其他貨車ノ封鎖等ニ注意シ若シ成規ニ違反シタル事實ヲ發見シタルトキハ直ニ貨物掛ニ報告スヘシ

第百六十五條 車號掛ハ貨車覆布、綱ノ破損セルヲ認メタルトキハ其事由ヲ詳細ニ直ニ貨物掛ニ報告スヘシ

第百六十六條 車號掛ハ常ニ貨物庫及貨物線ヲ巡視シ中繼貨車ノ延滞ヲ認メタルトキハ貨物掛ニ報告スヘシ

第百六十七條 車票ノ破損落失シアル場合ハ貨物運送通知書ニ款目名稱其他必要ノ事項ヲ知得シ且少貨物掛ニ報告スヘシ

第十三章 車掌見習

第百六十八條 車掌見習ハ車掌ノ指揮ヲ承ケ其事ヲ見習フモノトス

第十四章 電信掛見習

第百六十九條 電信掛見習ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ電信掛ノ事務ヲ見習フモノトス

第十五章 信號手

第百七十條 信號手ハ信號ニ依リ列車又ハ機關車ニ對シ進行及停車ノ合圖ヲ爲スモノトス

第百七十一條 信號手ハ常ニ信號機ノ作用完全ナルコトヲ確認スヘシ若シ不完全ナルトキハ之ヲ驛長ニ報告スヘシ

第百七十二條 信號手ハ信號機ヲ裝置シ及成規ノ時刻ニ點火又ハ消火ヲ爲スヘシ

第百七十三條 嚴霜降雪ノ際ハ差支ナキ時ヲ見計シ點火ノ裝置及反射器ハ常ニ之ヲ掃除シ充分ノ火光ヲ保タシムヘシ

第百七十四條 信號手ハ必要ナル手合圖器及信號機ノ檢査ノ作用ヲ検査スヘシ

第百七十五條 信號手ハ限リニ信號機及閉塞器ニ關シシムヘカラス

第百七十六條 信號手ハ詰所ニ備付ノ時計ヲ運速ノ生セザル極當ニ注意スヘシ

第十六章 轉轍手

第百七十七條 轉轍手ハ車輛ノ線路分岐點ノ通過スルニ當リ轉轍器ヲ取扱フモノトス

第百七十八條 轉轍手ハ列車通過時刻十分前ニ受持ノ場所ニ出務シ轉轍器ヲ検査スヘシ

第百七十九條 轉轍手ハ常ニ轉轍器ヲ掃除シ其作用ヲ完全ナラシメ且降雪ノ際ニハ防護ノ注意ヲ爲スヘシ

第一百八十條 轉轍器ハ假令其他不完全ナルコトアルトキハ直ニ驛長ニ報告スヘシ

第一百八十一條 轉轍手ハ轉轍器ノ取柄ヲ支持スルニ當リ尖端軌條ノ尖端カニストククレールニ密着スルコトヲ確認スヘシ

第一百八十二條 轉轍手ハ常ニ必要ナル手合圖器ヲ整備維持スヘシ

第一百八十三條 轉轍手ハ常ニ手合圖器及轉轍器標識ノ火光鮮明ナルコトニ注意スヘシ

第一百八十四條 轉轍手ハ限リニ轉轍器ニ關シシムヘカラス

第十七章 制動手

第百八十五條 制動手ハ車掌ノ指揮ヲ承ケ列車運轉中制動機ヲ取扱フモノトス

第百八十六條 制動手ハ列車出發前制動機ノ使用ニ適スルヤ否ヤヲ検査スヘシ

第十八章 警手

第百八十七條 警手ハ驛長ノ指揮ヲ承ケ客車庫貨物庫其他停車場内ノ取柄ヲ爲スモノトス

第百八十八條 警手ハ出入口又ハ改札口ニ於ケル混雜ヲ防止スル爲メ相當ノ取締ヲ爲スヘシ

第百八十九條 警手ハ旅客及送迎者ノ外限リニ待合所ニ立入ラシメザル極當ニ注意スヘシ

第百九十條 警手ハ車掌ヲ補助シ乘降場ニ於テ旅客ノ適當ノ車輛ニ乗車セシメ又ハ下車ノ旅客ヲ持ノ場所ニ出務シ轉轍器ヲ検査スヘシ

第百九十一條 轉轍器ハ假令其他不完全ナルコトアルトキハ直ニ驛長ニ報告スヘシ

ルトキハ直ニ車庫開披シ且旅客及送迎人ヲシテ列車ニ接近セシメザル極當ニ注意スヘシ

第百九十一條 警手ハ案内ナル旅客又ハ公衆ニ對シ懇切ニ指導スヘシ

第百九十二條 警手ハ旅客列車終着後ニ於テハ旅客下車後直ニ客車内ヲ點檢シ遺失物アルトキハ驛長ニ申告スヘシ

前項ノ點檢終了スルニ非サレハ客車内ノ掃除ニ從事セシムヘカラス

第百九十三條 警手ハ待合所乗降場橋及便所等ノ掃除整頓セルヤ否ヤヲ視察スヘシ

第十九章 驛夫

第百九十四條 驛夫ハ貨物ノ積卸運搬停車場構内及車輛ノ掃除其他ノ雜務ニ從事スルモノトス

第百九十五條 驛夫ハ貨物ノ積卸運搬ヲ爲ストキハ第六十三條ノ規定ヲ準用ス

第百九十六條 驛夫ハ旅客列車出發四分前ニ鈴ヲ鳴ラシ又ハ口頭ヲ以テ旅客ニ注意ヲナスヘシ

第百九十七條 驛夫ハ第七十六條第一項ヲ適用ス

第百九十八條 驛夫ハ待合所乗降場橋貨物庫客車庫事務室便所及線路等ノ掃除ヲ爲スヘシ

待合所乗降場橋等ハ旅客又ハ公衆ノ迷惑トナラサル場合ヲ見計ヒ塵埃ノ飛散セザル様叮嚀ニ掃除シ且必要ニ應ジ撒水スヘシ

第百九十九條 驛夫ハ客貨車ノ掃除洗濯ヲ爲スヘシ

第二百條 驛夫ハ各種ノ「ランプ」ヲ整裝配置シ且少點消火ヲ爲スヘシ

第二百一條 驛夫ハ列車ニ乗務スルトキハ運轉中ハ乘務車掌停車中ハ其驛長ノ指揮ヲ受ケヘシ

第二百二條 驛夫ハ秤量器ノ注油及掃除ヲ爲スヘシ

第二百三條 驛夫ハ左ノ雜務ニ從事スヘシ  
一 公用書類物品電報及大小貨物到着通知書ノ配達  
二 客車貯水器及待合所乗降場ノ飲料品ノ給水  
三 車輛ノ手押入換  
四 列車行先驛名札及列車終着驛名札ノ掛外シ  
五 車輛解結ノ際ニ於ケル貫通制動機及連結機等ノ掛外シ  
六 通過驛揭示當該列車直ニ次列車終着驛名掲示ノ整理  
七 列車出發者ヲ到着ノ際ニ於ケル客車内備品ノ備付又ハ取卸  
八 雜務ニ從事スヘシ

第三章 車輛  
第一節 車輛長

第二百五條 車輛ノ修理保管及運轉ニ關スル事務ヲ掌理シ所部ノ係員ヲ監督ス

第二章 機關事務所長

第二百六條 機關事務所長ハ車輛長ヲ補佐シ別ニ定メタル規程ニ依リ車輛ノ修理保管及運轉ニ關スル事務ヲ掌理ス

第三章 機關主任

第二百七條 機關主任ハ所屬係員ヲ指揮監督シテ機關庫ニ屬スル一切ノ事務ヲ處理シ其ノ責任ス

第二百八條 機關主任ハ常ニ機關庫内外ヲ巡視シ其ノ秩序及清潔ヲ保持シ整備ノ整理ニ注意スヘシ

第二百九條 機關主任ハ時列列車ニ乘組ミ車輛ノ完否運轉ノ狀況ヲ監督シ機關事務所長ヲ經テ車輛課長ニ報告スヘシ

第二百十條 機關主任ハ非常急送ノ場合ニハ臨時應急ノ措置ヲナシ機關事務所長ニ報告シ尙ホ關係當務者ニ通知スヘシ

第二百十一條 機關主任ハ他機關庫所管ノ機關車及乘組員ト雖モ其所管區域内ニアルモノニ對シシテハ之ヲ監視シ相當ノ便宜ヲ與フヘシ

第二百十二條 機關主任ハ常ニ車輛ノ安全及保存ニ注意シ時時其ノ諸部ヲ検査シ不完全ノ箇所アルトキハ直ニ修理ノ手續ヲナスヘシ

機關主任ハ他鐵道所屬ノ車輛ト雖モ不完全ナルモノアル時ハ相當ノ手續ヲナスヘシ

機關主任ハ始發及終着車輛ハ特ニ注意シテ検査スヘシ

第二百十三條 機關主任ハ所屬係員ヨリ車輛ノ損傷等アルコトヲ申出タルトキハ自ら之ヲ検査シ必要ナル措置ヲナスヘシ他鐵道所屬ノ車輛ニ對シテモ亦同シ

第二百十四條 機關主任ハ修理ノ爲メ車輛ノ運送ヲ命セラレタルトキハ不完全ノ箇所ヲ詳細機關事務所長ニ報告スヘシ

第二百十五條 機關主任ハ成規ニ依リ車輛ノ定期検査ヲ行フヘシ

第二百十六條 機關主任ハ左ニ列記スル車輛ノ修理ヲ適宜執行スヘシ  
一 原形ヲ變更セザル修理  
二 長時日ヲ要セザル修理  
三 重要ナル部分ノ修理

前各號ニ該當セザル部分ノ修理  
第二百十七條 機關主任ハ車輛ノ検査及修理ニ關スル諸報告ヲ成規ニ依リ運轉課機關事務所長ヲ經テ車輛課長ニ提出スヘシ



第二十七三條 機關手ハ車輛入レ換ノ際ハ必ス操車掛又ハ車掌ノ指導ニ依リ進退スヘシ但シ前途ノ注視ヲ怠ルヘカラズ機關手入レ換ノ際前途見透シ難キ場合ニハ入レ換務者ニ其距離ヲ確メ進退スヘシ如何ナル場合ニ在リテモ手合圖ノ現示ヲ認メサレハ機關手進退スヘカラス

第二十七四條 車輛入レ換ノ際ハ急進ノ場合ノ外手用制動機ノミニ依リ徐徐停車スヘシ

第二十七五條 機關手ハ出發ノ際機長若クハ車掌ヨリ交付サレタル通票又ハ通券ハ其進退セメントスル區域及列車ニ相當スルモノナルコトヲ確認スヘシ

第二十七六條 通票又ハ通券ニシテ自己ノ列車ニ相當セサルノ疑ヒアルトキハ機長若クハ車掌ニ札シテ其ノ相違ナキコトヲ確答ヲ得テ受領スヘシ

第二十七七條 機關手ハ通券ヲ受領スル場合ニハ當該區間ノ通票ノ其驛ニ現在スルコトヲ確認スヘシ

機關手ハ通票又ハ通券ノ受領シタルトキハ之ヲ機關室内ノ通票受取ムヘシ

第二十七七條 信號ノ注視ハ進退上機關手ノ最も注意スヘキモノナリトス荷モ其現示ヲ見タルトキハ自己ノ爲メニ現示サレタルモノナルヲ否テ識別シ自己ノ從フヘキモノナリト認メタルトキハ之ヲ遵守スヘシ

第二十七八條 機關手ハ危急ヲ現示スル違方信號ヲ通過スルトキハ必要ニ應ジ停止シ得ヘキ用意ヲ以テ進退シ隨所アル箇所又ハ場内信號ノ防護區域迄進行スヘシ

第二十七九條 機關手ハ雷管ノ爆發ヲ聞キタルトキハ直ニ其列車ノ速度ヲ減シ何時ニテモ停止シ得ルノ準備ヲ以テ進退スヘシ又ハ危急場合ニ遇シタルトキハ直ニ停車シ其事由ヲ札スヘシ

第二十八十條 列車運轉中事故發生シタル場合ニハ列車ノ進行停止若クハ退行等ハ事故ノ性質程度ニ依リ決スヘキモノナレハ機關手ハ列車ノ安全ニ重キテ置キ應機ノ處理ヲナスヘシ

第二十八一條 停車場外ニ於テ事故發生シ進退繼續ノ危険ト認メタルトキハ機關手ハ列車ノ速度重積線路ノ勾配曲度其他ノ狀況ヲ斟酌シテ停車ノ手配ヲナスト同時ニ汽笛ヲ吹鳴シテ保險係員ヲ召集シ車掌ト協議ノ上相當防護及善後ノ手段ヲ盡スヘシ

第二十八二條 事故發生ノ場合ニ救援列車ニ乘務スル機關手ハナルヘク其救援ヲ請求シ來タリタル者ト同乗シ前途ニ注意シテ進退スヘシ

第二十八三條 運轉中機關手ニ事故發生シ長距離ノ運轉ニ堪ヘスト認メタルトキハ便宜ノ機關庫ニ電報其他ノ方法ヲ以テ修理ノ手配又ハ突換第二八八四條 機關手ハ出發前及停車中能カ機關庫各部分ヲ検査シ異常アリタルトキハ之ヲ機關庫主任ニ申告スヘシ又運轉中異常異狀アリト認メタルトキハ異常ヲ聞キタルトキハ停車シテ其原因ヲ札シ相當處理スヘシ

第二十八五條 出發前機關手ハ検査ハ先ツ「キヤツプ」ニ入り蒸氣ノ壓力ヲ視驗ス水活噴ヲ試シ火室内各部筒ノ狀況ヲ検査スヘシ前項「キヤツプ」内ノ検査ヲ終レハ機關手ハ機關庫ノ後部ヨリ灰坑ニ入り聯絡器ヲ始メトシテ車輪廻轉機軸制動機ノ各部ヲ點檢シテ「二附屬スル」ナツト」或ハ「スプリットヒン」等ノ弛緩又ハ

トキハ直ニ其列車ノ速度ヲ減シ何時ニテモ停止シ得ルノ準備ヲ以テ進退スヘシ又ハ危急場合ニ遇シタルトキハ直ニ停車シ其事由ヲ札スヘシ

第二十八十條 列車運轉中事故發生シタル場合ニハ列車ノ進行停止若クハ退行等ハ事故ノ性質程度ニ依リ決スヘキモノナレハ機關手ハ列車ノ安全ニ重キテ置キ應機ノ處理ヲナスヘシ

第二十八一條 停車場外ニ於テ事故發生シ進退繼續ノ危険ト認メタルトキハ機關手ハ列車ノ速度重積線路ノ勾配曲度其他ノ狀況ヲ斟酌シテ停車ノ手配ヲナスト同時ニ汽笛ヲ吹鳴シテ保險係員ヲ召集シ車掌ト協議ノ上相當防護及善後ノ手段ヲ盡スヘシ

第二十八二條 事故發生ノ場合ニ救援列車ニ乘務スル機關手ハナルヘク其救援ヲ請求シ來タリタル者ト同乗シ前途ニ注意シテ進退スヘシ

第二十八三條 運轉中機關手ニ事故發生シ長距離ノ運轉ニ堪ヘスト認メタルトキハ便宜ノ機關庫ニ電報其他ノ方法ヲ以テ修理ノ手配又ハ突換第二八八四條 機關手ハ出發前及停車中能カ機關庫各部分ヲ検査シ異常アリタルトキハ之ヲ機關庫主任ニ申告スヘシ又運轉中異常異狀アリト認メタルトキハ異常ヲ聞キタルトキハ停車シテ其原因ヲ札シ相當處理スヘシ

第二十八五條 出發前機關手ハ検査ハ先ツ「キヤツプ」ニ入り蒸氣ノ壓力ヲ視驗ス水活噴ヲ試シ火室内各部筒ノ狀況ヲ検査スヘシ前項「キヤツプ」内ノ検査ヲ終レハ機關手ハ機關庫ノ後部ヨリ灰坑ニ入り聯絡器ヲ始メトシテ車輪廻轉機軸制動機ノ各部ヲ點檢シテ「二附屬スル」ナツト」或ハ「スプリットヒン」等ノ弛緩又ハ

スル際ニ打音ヲ生スルニ至レハ「ウエツッ」ノ發直シテ要ス但シ「アヨリナル」ノ際ニ依リ打音ヲ生シタル場合ニハ該「アス」ノ條ヲ遵守ス

第二十八九條 車輛ト「ボツス」ノ間又ハ「ダイヤ」ト「ホイール」ノ間ヨリ油類ヲ漏出シタルトキハ弛緩ノ徵候トス其他車輛機及其附屬物ハ殊ニ注意シテ検査スヘシ總テ是等ハ鐵道ヲ以テ打音タルトキ潤音ヲ發スルモノハ不完全ノ箇所アリトス

第二十九十條 各部ニ注油スルトキハ其部分ノ検査ヲナシ油孔及油溝ヲ疏通シ含油料ノ適當ナルコトヲ確認スヘシ

第二十九一條 總テ摩擦部ニハ變色ナキヤニ注意シ時時手ヲ觸レテ發熱ノ徵候ナキヤヲ検査スヘシ

第二十九二條 機關手ハ制輪ノ子ノ磨耗ニ注意シ且車輪トノ間隙過不足ナキ様維持スヘシ

第二十九三條 機關手ハ「サイド」ノ燃氣管接合部「バルブ」或ハ活噴ヨリ蒸氣又ハ熱水ノ漏洩ヲ認メタルトキハ速ニ修理ノ手續ヲナスヘシ

第二十九四條 安全瓣ハ實用壓力ニテ蒸氣ヲ噴出スルコトヲ確認スヘシ

第二九五條 機關手ハ出發前ニハ必ス廢水噴子管ノ底部排水活噴ヲ開キ殘留セル泥砂ノ類ヲ除去シ上下ノ活噴ハ一様ニ開放シアルコトヲ認ムヘシ

第二九六條 又「テスト」コック」ハ時時之ヲ試驗スヘシ

第二九七條 機關手ハ真空制動機ノ機關車ヲ

第二九八條 急激ニ汽鐘ヲ熱シ又ハ冷却スルハ汽

第二九九條 急激ニ汽鐘ヲ熱シ又ハ冷却スルハ汽

第三十十條 急激ニ汽鐘ヲ熱シ又ハ冷却スルハ汽

第三十十一條 急激ニ汽鐘ヲ熱シ又ハ冷却スルハ汽

第三十十二條 急激ニ汽鐘ヲ熱シ又ハ冷却スルハ汽

第三十十三條 急激ニ汽鐘ヲ熱シ又ハ冷却スルハ汽

第三十十四條 急激ニ汽鐘ヲ熱シ又ハ冷却スルハ汽

第三十十五條 急激ニ汽鐘ヲ熱シ又ハ冷却スルハ汽

第三十十六條 急激ニ汽鐘ヲ熱シ又ハ冷却スルハ汽

第三十十七條 急激ニ汽鐘ヲ熱シ又ハ冷却スルハ汽

第三十十八條 急激ニ汽鐘ヲ熱シ又ハ冷却スルハ汽

第三十十九條 急激ニ汽鐘ヲ熱シ又ハ冷却スルハ汽

第三二十十條 急激ニ汽鐘ヲ熱シ又ハ冷却スルハ汽

二 鍾水排水後五時間以上経過スルニアラザルハ冷水ヲ鍾内ニ注入スルコトヲ得ス  
 三 「アラカ」ハ番替取外シ各洗滌孔ヨリ水ヲ注射シ掃除ヲ挿入シテ掃除スヘシ  
 四 鍾内ニ於ケル「スケール」ノ状況ハ各洗滌孔ヨリ覗キテ之ヲ検査スヘシ  
 五 「アラカ」ニハ隙隙ヲ塗り且螺旋山遊ヒナキヤニ注意シテ之ヲ掃除スヘシ  
 六 汽鐘ニ冷水ヲ注入スルトキハ節氣弁及汽筒活嘴ヲ開放シ置キ噴水硝子管ノ中央ヲ程度トスヘシ  
 七 「パツキン」ガ含油料及油吸等ハ精細ニ検査シ必要アラハ之ヲ取換ユヘシ  
 八 汽鐘ノ各部煙室ノ内部及其他ノ機械部ハ鐵掃除ノ節ニ充分ノ検査ヲ行フヘシ  
 第三百一十條 庫内勤務ヲ命セラレタル機關手ハ機關車ノ點火及機關車庫線内ニ於ケル機關車ノ入換ヲ併セテ機關車及機關庫内外掃除ノ監督ニ従事ス  
 第三百一十一條 庫内勤務機關手ハ機關車ニ點火セントスルトキハ鍾内ニ適當ノ水量アルコトヲ確認スヘシ且「フアイヤバー」「ブリックグアッチ」及火粉止器ニ毀損ノ箇所ナキヲ點檢スヘシ  
 第三百一十二條 庫内勤務機關手ハ機關車ニ點火セントスルトキハ點檢ノ後ニ點檢スヘシ  
 第三百一十三條 庫内勤務機關手ハ庫内ニ停止スル機關車ノ節氣弁ヲ閉シ轉向機ヲ中央ニ置キ汽筒活嘴ヲ閉シ且手用制動機ノ緊締シアルコトヲ確認スヘシ  
 第三百一十四條 庫内勤務機關手ハ急速ニ蒸氣ヲ昇臨セシムヘカラス又點火ノ際火室内石油ヲ瀧キ或ハ油氣ヲ含ム糸屑ヲ多量ニ投入スヘカラス  
 第三百一十五條 庫内勤務機關手ハ機關車ノ出發一時間前ニ蒸氣ヲ一平方時ニ付約五十封度マテ昇臨セシムヘカラス又當務機關手ニ引渡スヘシ  
 第三百一十六條 庫内勤務機關手ハ機關車ヲ動かサントスルトキハ必ス汽筒吹鳴スヘシ  
 第三百一十七條 庫内勤務機關手ハ蒸氣ヲ有セサル機關車ヲ掃除シ入レ換スルトキハ其機關車ニ上級掃除夫ヲ乘込マシメ轉向器及手用制動機ヲ取扱ハシムヘシ  
 第三百一十八條 庫内勤務機關手ハ機關車入レ換ノ際真空制動機ヲ使用スヘカラス  
 第三百一十九條 庫内勤務機關手ハ掃除夫ヲ付働シ常ニ機關車ノ清潔ヲ保持セシムヘシ又後進ノ掃除夫ニハ掃除ノ順序方法等ヲ懇切ニ教示スヘシ  
 第三百二十條 庫内勤務機關手ハ機關車ニ異常ヲ發見シタルトキハ直ニ機關庫主任ニ申告スヘシ  
 第七章 火夫  
 第三百二十一條 火夫ハ機關庫主任ノ指示ヲ奉ケ機關車運轉ヲ補助ス  
 第三百二十二條 火夫ハ常ニ機關車ノ種類線路ノ狀況引車數ノ多寡列車ノ速度天候ノ模様及石炭ノ種類ニ注意シ節氣弁轉向機ノ位置及「エキゾースト」ノ強弱ヲ視察シ節氣弁節約ノ方法ニ依リ石炭ヲ投入シ蒸氣ノ實用壓力ヲ保持スルコトニ努ムヘシ  
 第三百二十三條 火夫ハ其乘務スル列車出發時刻一時間前ニ出發シ指示ニ注目シテ後出發ノ準備ヲナスヘシ又火夫ハ當日ノ業務ヲ終リタルトキハ之ヲ機關手ニ告ケテ後退出スヘシ  
 第三百二十四條 火夫ハ運轉中手用制動機ヲ取扱フヘシ  
 第三百二十五條 火夫ハ乘務中機關手ノ許可ナクシテ機關車ヲ離去スルコトヲ得ス  
 第三百二十六條 火夫ハ特ニ定メラレタル場合ノ外節氣弁ヲ閉閉スルコトヲ得ス  
 第三百二十七條 火夫ハ列車運轉中機關手ヲ補氣其他ノ事故ノ爲メ職務スルコト能ハサルニ至リタルトキハ直ニ機關手ニ代リテ停車シ他ノ機關手ヲ迎フルノ手配ヲナスヘシ  
 第三百二十八條 火夫ハ機關手ヲ補助シテ機關車ノ諸部ニ注油スヘシ注油ノ際ハ一定ノ順序ヲ遵テ施行シ油量ニ過不足ナキ様注意スヘシ  
 第三百二十九條 火夫ハ機關手ノ命ヲ奉ケテ機關車ノ掃除ヲナスヘシ  
 第三百三十條 火夫ハ火室内ヲ掃除スル際ハ必ス「クレーンカー」シヨベル」ヲ以テ灰燼ヲ火出口ヨリ拂ヒ出スヘシ  
 但シ特殊ノ設備アル機關車ニアリテハ此限ニアラズ  
 第三百三十一條 火夫ハ降雨ノ際ハ「ハンドレール」其他ノ腐キ器具ヲ油氣アル糸屑ニテ拭ヒ置クヘシ  
 第三百三十二條 火夫ハ待合セ中必要ノ場合ニハ機關車ノ始發及終到ノ掃除ヲ行フヘシ  
 第三百三十三條 火夫ハ機關車ニ附屬スル燈ノ掃除給油及點火ヲナスヘシ  
 第三百三十四條 機關手ノ心得ヲ命セラレタル火夫ニシテ機關手ノ職務ヲ執ルトキハ機關手ノ規程ヲ遵守スヘシ  
 第三百三十五條 機關手職務ノ見習ヲ命セラレタル火夫ハ指定サレタル機關車ニ附屬シ機關車ニ乘込テ機關手ノ職務ヲ練習スヘシ  
 第三百三十六條 機關手心得及見習ヲ命セラレタル火夫ハ第六條ノ場合ニ於テハ機關手ニ代リテ次ノ機關庫主任ニ報告スヘシ

第八章 車輛検査部  
 第三百三十七條 車輛検査部ハ客車貨車ノ検査ニ従事シ必要アルトキハ修理ヲナスヘシ  
 第三百三十八條 下級車輛検査部ハ上級車輛検査部ノ指揮ヲ受ケヘシ  
 第三百三十九條 車輛検査部ハ列車到着前適當ノ位置ニ入りテ其進入ヲ待受ケ停止前車輛ニ注視シ停止後更ニ各部ニ就キ細密ニ検査スヘシ  
 第三百四十條 車輛検査部ハ列車出發ニ際シ車輛ノ故障ヲ發見シ進行危險ナリト認めタルトキハ直ニ機關手及車掌ニ危害合圖ヲ示シ相當ノ手配ヲナスヘシ  
 第三百四十一條 車輛検査部ハ列車發着ノ間合ニハ其際ニ留置セル車輛ノ検査ヲナスヘシ  
 第三百四十二條 車輛検査部ハ其際ニ於テ仕立ル列車ハ歸著ヨリ出發迄ノ時間内ニ充分ノ検査ヲ遂クヘシ  
 第三百四十三條 車輛検査部ハ夜間車輛ノ検査ニハ必ス角燈ヲ用フヘシ  
 第三百四十四條 車輛検査部ハ車輛ニ不完全ナル箇所ヲ發見シタルトキハ速ニ修理ノ手配ヲナスヘシ若シ停止ノ時間内ニ修理ノ見込ナシト認めタルトキハ隊長ニ通知シ且直ニ機關庫主任ニ報告シ其指揮ヲ受ケヘシ  
 第三百四十五條 車輛検査部ハ列車停止時間内一時應急ノ修理ヲ施シ次ノ機關庫主任ニ報告シテ安全ニ運轉シ得ヘキ見込アルモノハ相當修理ヲ加フヘシ  
 但重要ナル部分ニ保ルモノハ直ニ機關庫主任ニ届出スヘシ  
 第三百四十六條 車輛検査部ハ左ノ各號ニ相當スル車輛ヲ發見シタルトキハ機關庫主任ノ指揮ニ從ヒ見易キ所ニ規定ノ青票ヲ釘付シテ發送スヘシ  
 一 修理ノタメ工場ニ廻送スヘキモノ  
 二 定期検査ノ爲メ機關庫又ハ工場ニ廻送スヘキモノ  
 一 時應急ノ修理ヲナシタルモノ又ハ一小部分ノ破損ニシテ運轉ニ支障ナキモノモ亦青票ヲ釘付シ其局部ニ白票ヲ捺付シテ發送スヘシ  
 前項ノ車輛ニ對シテハ速ニ修理ヲ加ヘ完全ニ造シタルトキハ白票ヲ消シ青票ハ之ヲ剥去リテ機關庫主任ニ提出スヘシ  
 第三百四十七條 車輛検査部ハ左ノ各號ニ相當スル車輛ヲ發見シタルトキハ機關庫主任ノ指揮ニ從ヒ見易キ所ニ規定ノ赤票ヲ釘付シテ運轉ヲ禁止スヘシ  
 一 修理或ハ定期検査ノ爲メ列車ヨリ解放ヲ要スルモノ  
 二 前條第一項ノ車輛到着シタルトキ  
 第三號ノ場合ハ機關庫主任ニ届出ツルト同時ニ青票ヲ提出スヘシ  
 第三百四十八條 車輛検査部ハ車輛中特ニ左ノ各部ニ毀損ナキヤナク注意スヘシ  
 一 諸部機  
 一 聯結器  
 一 制動器  
 一 車輪、輪鐵、車軸、及車軸套  
 一 屋根、車體、塗料、及附屬金具  
 第三百四十九條 車輛検査部ハ真空制動機附列車著降ノ際必要ニ應シ放氣弁ヲ開放スヘシ  
 第三百五十條 他處道所屬ノ車輛ニシテ故障アルヲ發見シタルトキハ直ニ機關庫主任ニ届出其指



- 置ニアリテ其進入ヲ待受ケ列車停止ノ後直ニ車軸等ニ就キ順次検査ノ上注油シ乗務側ニハ特ニ注意スヘシ
  - 第三百五十九條 注油夫ハ其隣ニ於テ仕立ル列車ニハ特ニ充分注油スヘシ
  - 第三百六十條 注油夫ハ注油ノ際車輛發熱又ハ其他車輛ノ異常ヲ發見シタルトキハ直ニ車輛検査番ニ通知シ其指揮ヲ受ケヘシ
  - 第三百六十一條 注油夫ハ各車輛ノ緩衝器、聯結器及制動器ノ螺絲ヲ掃除スヘシ
  - 第三百六十二條 注油夫ハ夜間ノ注油ニハ角燈ヲ用フヘシ
- 第十章 掃除夫
- 第三百六十三條 掃除夫ハ機關庫主任ノ指揮ヲ受ケ機關車(炭水車ヲ含ム以下同シ)ノ掃除及機關庫裏層内ニ於ケル合圖及轉轍ノ取扱ニ従事ス
  - 掃除夫ニハ機關車ノ點火機關掃除及職工ノ補助ヲサシムルコトアルヘシ
  - 第三百六十四條 掃除夫機關車掃除ニ際シ不都合ノ箇所ヲ發見シタルトキハ直ニ機關庫主任ニ申出ツヘシ
  - 第三百六十五條 掃除夫機關車掃除ノ際ハ左ノ各事項ヲ嚴禁ス
    - 「レギユレール」ノハンドル及「リバース」ノハンドル「リバース」ノ位置ヲ變スルコト
    - 「ピストン」ノ位置ヲ「コック」ノ位置ニ取外スコト
    - 汽缸ヲ冷却セシメシカ爲メ又ハ灰承ヲ洗滌セシカ爲メ火室内ニ冷水ヲ注スルコト
    - 汽缸ヲ冷却セシメシカ爲メ火室ノ灰承ヲ洗滌ス
- 第十一章 轉車夫
- 第三百六十六條 點火シタル機關車ノ位置ヲ移動スル必要アルトキハ其掛員ニ申出ツヘシ
  - 第三百六十七條 機關車掃除ノ順序及方法ハ別ニ定ムル所ノ規定ニ依ルヘシ
  - 第三百六十八條 合圖及轉轍ニ従事スル掃除夫ハ左ノ各號ヲ遵守スヘシ
    - 一 旗及燈ハ常に清潔ニ保ツヘシ
    - 二 合圖ハ旗又ハ燈ヲ以テ機關手ニ見易キ場所ニ停止シテ之ヲ示スヘシ車ニ回頭ノミヲ以テ爲スヘカラス
    - 三 合圖ヲ示ス際ハ線路ノ安全ナルコトヲ確認シ特ニ機關車ノ轉車番ニ到ルニハ前轉車臺ノ方向及「キヤッチ」ニツク「ノ」ヲ挿入正當ナルコトヲ確認スヘシ
    - 四 操車掛ノ正當ナル合圖ヲ認メタル後ニアラサレハ機關庫裏層線路外ニ轉ケヘカラス
    - 五 轉轍ノ際ハ轉轍器ノ取柄ヲ確實ニ保持シ尖端軌條ト「ストック」トヲ密着セシムルコトニ注意スヘシ
    - 六 機關庫裏層線路内ノ轉轍器ハ常に檢查シ其作用ヲ完全ナラシメ且ツ能ク之ヲ掃除スヘシ
  - 第三百六十九條 轉車夫ハ機關庫主任ノ指揮ヲ受ケ機關車ノ轉向ニ従事ス
- 第十二章 炭水夫
- 第三百七十條 轉車夫ハ機關庫裏層線路内ニ於ケル合圖及轉轍ヲサシムコトアルヘシ
  - 第三百七十一條 轉車夫ハ各自受持ノ場所ノ掃除ヲ擔當シ且ツ諸機ノ螺絲ニ監視スヘシ
  - 第三百七十二條 轉車夫ハ轉車臺ヲ轉向シタルトキハ直ニ「キヤッチ」ヲ挿入スヘシ
  - 第三百七十三條 轉車夫ハ機關車轉車臺上ニ至リ正當ノ位置ニ停止シタルトキハ機關手ニ告ケシ轉車始ムヘシ
  - 第三百七十四條 轉車夫ハ常に轉車臺ノ滑動部ニ油垢塵埃等附著セシラニ注意シ且時時注油ヲ施スヘシ
  - 第三百七十五條 轉車夫ハ機關庫裏層内ヲ掃除ノ際灰燼其他ノ塵埃ハ各一定ノ場所ノ外設置スヘカラス
  - 第三百七十六條 炭水夫ハ機關庫主任ノ指揮ヲ受ケ機關車用燃料ノ搭載及用水ノ供給ニ従事ス
  - 第三百七十七條 炭水夫ハ其機關庫ヘ燃料ヲ運入シタルトキハ操車掛及合圖擔當ヲ掃除夫ニ告ケ搭載車ヲ適當ノ位置ニ運送シ取卸ヲナスヘシ
  - 第三百七十八條 炭水夫ハ燃料搭載車力適當ノ位置ニ到着シタルトキハ必ス該車ノ制動器ヲ連結シ又ハ「ストック」ヲ以テ自動セシムル手配スヘシ
  - 第三百七十九條 炭水夫ハ所要ノ燃料ヲ機關庫主任ノ指揮ニ從ヒ轉車ニ檢査シテ指定ノ場所ニ備ヘ置クヘシ

- 機關車ニ搭載シタル燃料ハ其數量ヲ機關庫主任ニ通知スヘシ
- 第三百八十條 炭水夫ハ石炭室石炭貯藏場及唧筒其他給水器具等毀損若クハ不完全ノ箇所アルヲ發見シタルトキハ直ニ機關庫主任ニ申出ツヘシ
  - 第三百八十一條 炭水夫ハ機關車給水ノ程度貯水器ニ補給シ常に之ヲ清水セシムヘシ
  - 第三百八十二條 炭水夫ハ給水用唧筒ノ油垢塵埃等附著セシラニ掃除シ必要ニ注油ヲ施シ且ツ作用ヲ完全ナラシムヘシ
  - 第三百八十三條 第二百六十八條第二百六十九條
  - 第三百八十四條 職工ハ機關庫主任ノ指揮ヲ受ケ車輛ノ修理ニ従事シ必要アルトキハ検査ヲ爲スヘシ
  - 第三百八十五條 職工ハ其工場ヲ常に清潔ナラシメ修理物品ハ能ク之ヲ整理スヘシ
  - 第三百八十六條 職工ハ止ムテ得サル場合ノ外機關庫主任ノ命ニテアラサレハ修理ヲ行フコトヲ得ス
  - 第三百八十七條 職工ハ修理ヲ完了シタルトキハ直ニ機關庫主任ニ報告スヘシ
  - 第三百八十八條 職工ハ一部修理ノ爲メ他部ヲ取外シタルトキハ併セテ之ヲ検査スヘシ
  - 第三百八十九條 職工ハ検査ニ際シ不都合ノ箇所ヲ發見シタルトキハ直ニ機關庫主任ニ申出ツヘシ
  - 第三百九十條 職工ハ車輛定期検査ヲナストキハ別ニ定メラレタル規定ニ依ルヘシ
  - 第三百九十一條 職工ニハ必要ノ場合ニ車輛検査番ノ職務ヲ行ハシムルコトアルヘシ
- 第十三章 保線手
- 第三百九十二條 保線手ハ工場及職工ノ就業區間ヲ指定スヘシ
  - 第三百九十七條 保線手ハ第一番列車出發前及終列車後所定ノ時間ニ於テ各區間一同工夫ヲシテ線路ヲ巡檢セシメ其狀況ヲ隊長ニ報シ且各區間發着時間ヲ發着簿ニ記シ隊長ノ檢印ヲ受ケシムヘシ
  - 第三百九十八條 諸番人執務シ居ラサルトキハ直ニ巡檢手擔當區内ヲ巡視ノ際ハ各區間ニ於ケル工夫檢査簿ヲ點檢シ且時時記シ檢印スヘシ
  - 第三百九十九條 諸番人執務シ居ラサルトキハ直ニ
- 第十四章 保線事務
- 第三百九十四條 保線手ハ所屬區間ヲ指定シ且線路ノ修理保存ノ事務ヲ處理シ其責ニ任ス
  - 第三百九十五條 保線手ハ常に擔當區内ヲ巡視シ且保線助手ヲシテ總ニス擔當區内ヲ巡視セシメ各丁場出務ノ係員其他諸備人ノ姓名及臨時備出職工人夫ノ人員就業時間工率ノ種類線路ノ狀態等ヲ取調ヘ之ヲ日報用紙ニ記入シ提出シムヘシ
  - 第三百九十六條 保線手ハ工夫及職工ノ就業區間ヲ指定スヘシ
  - 第三百九十七條 保線手ハ第一番列車出發前及終列車後所定ノ時間ニ於テ各區間一同工夫ヲシテ線路ヲ巡檢セシメ其狀況ヲ隊長ニ報シ且各區間發着時間ヲ發着簿ニ記シ隊長ノ檢印ヲ受ケシムヘシ
  - 第三百九十八條 諸番人執務シ居ラサルトキハ直ニ巡檢手擔當區内ヲ巡視ノ際ハ各區間ニ於ケル工夫檢査簿ヲ點檢シ且時時記シ檢印スヘシ
  - 第三百九十九條 諸番人執務シ居ラサルトキハ直ニ
- 第十五章 工率
- 第四百一條 工率上軌道ヲ切斷シ若クハ位置又ハ高度ヲ變シ其他假支材ヲ設ケ之ヲ保持スルノ必要ヲ認メタルトキハ其施行期日ヲ定メ保線事務所長ニ申立テ認可ヲ得自ラ之ヲ監督施工スヘシ
  - 第四百二條 工率中列車ノ徐行運轉ヲ要スルトキハ其日數及區域ヲ定メ保線事務所長ニ申出ツヘシ
  - 第四百三條 保線臨時列車運轉ニ就クハ左ノ各事項ヲ遵守スヘシ
    - 一 臨時列車運轉ヲ要スルトキハ其既開日數及時刻ヲ定メ七日前ニ保線事務所長ニ申出ツヘシ
    - 一 臨時列車ニ連結スル土運車ハ保線事務所長ニ請求シ其使用ヲラハ直ニ返納スヘシ
    - 一 臨時列車ニハ保線助手ニ乘務ヲ命シ積込取卸等ヲ管理セシメ且自ラ時時之ニ乘込過誤ヲキ核對スヘシ
    - 一 臨時列車ノ停止要スル場所ハ出發前乘務者ヨリ車掌ニ通知シ且現場ニハ工夫ヲシテ手合圖ヲ現示セシムヘシ
    - 一 積込取卸ハ必ス豫定ノ時刻内ニ終了シ列車發着ヲ遅延セシムヘカラス



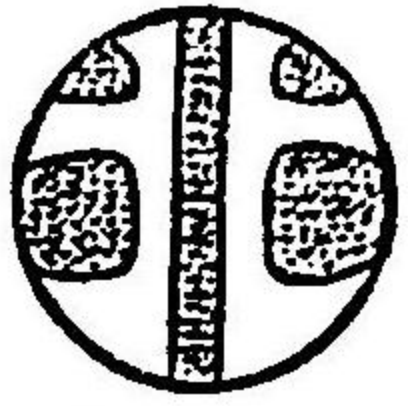
詳細ノ事故ヲ記シ之ヲ届出ツヘシ  
但至急ヲ要スルトキハ線路工夫長ノ承認ヲ受ケ  
退場スルコトヲ得此場合ハ線路工夫長ハ保線手  
ニ届出ツヘシ  
第四百四十四條 線路工夫長ハ軌道用材並ニ消耗  
品ノ受授ヲ明カニシテ用スヘカラス  
但道拂ハ保線手巡回ノ節届出ヘシ  
第七章 建築工夫長 建築工夫  
第四百四十六條 建築工夫長ハ建築工夫、建築工  
夫見習ハ工事掛員ノ指揮ヲ受ケ鐵道線路内附屬  
建築物及橋梁工事ノ業務ニ従事スルモノトス  
第四百四十七條 建築工夫長ハ工事ノ實施ニ該リ  
現場ヲ巡回シ工夫以下ノ業務ヲ監視スヘシ  
第八章 營繕工夫長 營繕工夫  
第四百四十八條 營繕工夫長ハ營繕工夫、營繕工  
夫見習ハ工事掛員ノ指揮ヲ受ケ家屋其他諸建物ノ建  
築及修繕ノ業務ニ従事スルモノトス  
第四百四十九條 營繕工夫長ハ常ニ受持區内ノ諸  
建物ニ注意シ修繕ノ必要アルトキハ工事係ニ申  
出テ工事實施ノ際ハ工夫以下ノ業務ヲ指示シ又  
ハ監視スルモノトス  
第九章 電信工夫長 電信工夫  
第四百五十條 電信工夫長ハ電信工夫、電信工  
夫見習ハ電信線路ノ架設修繕及保存並ニ器械ノ修  
理及掃除ニ従事シ電信通信ノ安全ヲ保持スルモ  
ノトス  
第四百五十一條 電信工夫長ハ工夫以下ノ業務ヲ  
指示スルモノトス  
第四百五十二條 電信工夫以下ハ常ニ擔當區内ノ  
電信電話線路及各種配置ノ電池ヲ監視スヘシ  
第四百五十三條 前條ノ巡回ニ際シテハ詳細ニ其  
線路障害ノ有無ニ注意シ若シ障害アルトキ又ハ  
障害ノ虞アルトキハ直ニ修理除却シ得ルモノハ  
速ニ之ヲ執行シテ直ニ修理除却シ難キモノハ  
其旨所屬保線手ニ報告スヘシ  
第四百五十四條 前條ニ依リ直ニ電信電話線路ノ  
障害ヲ修理除却シタルトキハ其實況及日時ヲ記  
載シ速ニ之ヲ所屬保線手ニ報告スヘシ  
第四百五十五條 電信工夫及見習ハ就業時間外ト  
雖トモ出火並其其他非常ノ場合ハ現場ニ駐付ケ  
線路ノ保護ニ從事スヘシ  
第四百五十六條 電信工夫ハ少クモ隔日一回電池  
ヲ掃除シ備蓄ノ結晶モシモノハ之ヲ除キ去リ内  
外學ノ破損電池板ノ腐蝕等アルトキハ直ニ之ヲ  
取替ヘ不通、漏電、水氣等シカワシムル様注意  
スヘシ  
第十章 隧道番人 橋梁番人及踏切番人  
第四百五十七條 隧道番人、橋梁番人、踏切番人  
ハ保線手又ハ保線助手ノ指揮ヲ受ケ其受持區内  
又ハ橋梁ニ於テ列車ニ不慮ノ災害ナキ様之ヲ看  
守シ踏切道ニ於テハ列車及ヒ往來ノ安全ヲ看守  
スルモノトス  
第四百五十八條 隧道番人及橋梁番人ハ列車通行  
前受持場所ヲ巡檢シ指定ノ場所ニ立テ看守スヘ  
シ  
第四百五十九條 踏切番人ハ列車踏切コリ約四十  
鐘ノ距離ニ進行シ來ルトキハ之ヲ閉鎖シ軌道外  
側ロリ四呎以上ヲ距リ機關手ヨリ見易キ位置ニ  
立テ看守シ列車全ク通過シ了ルヲ待テ之ヲ開  
通スヘシ  
第四百六十條 第三百五十六條第三百五十七條ノ  
場合ニ於テハ列車ニ對シ警報ハ白色夜間ハ白色  
燈ヲ現示スヘシ  
第四百六十一條 線路ニ障礙アリテ列車通行シ能  
ハサル場合ニハ規定ノ合圖ヲ現示シ線路工夫ニ  
急報スヘシ  
第四百六十二條 受持外ト雖モ線路ニ事故アルコ  
トヲ知ルトキハ速カニ線路工夫ニ通知スヘシ  
第四百六十三條 番所及其ノ近傍ハ時時掃除シ清  
潔ニナスヘシ  
第四百六十四條 番所及門扉等ニ破損ナシタル  
トキハ速カニ保線手ニ届出ツヘシ  
第四百六十五條 病氣其他ノ事故ニ依リ出勤シ能  
ハサル場合ハ保線手ニ届出ツヘシ若シ至急ヲ要  
スルトキハ保線工夫長ニ通知シ代務者ヲ請求ス  
ヘシ  
明治三十三年十二月十九日訓第七百九十八號  
(北海道鐵道部宛)  
署長其他職員左ノ通り相定ム  
但明治三十一年(五月)訓第六百八十七號以下  
規則ハ之ヲ廢止ス

職名	職分	上		衣		靴	
		夏	冬	夏	冬	夏	冬
		質	式	質	式	質	式
驛長	助役	背廣堅襪ニシテ 分懸物入口線ニ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	夏 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	冬 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	夏 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	冬 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各
車掌監督	車掌	背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	夏 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	冬 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	夏 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	冬 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各
出札掛、改札掛 貨物掛、小荷物掛 電信掛、操車掛	車掌見習	背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	夏 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	冬 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	夏 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	冬 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各
機關手取 機關手	制動手	背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	夏 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	冬 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	夏 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	冬 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各
火檢査夫 水檢査夫 除雪夫	車檢査夫 水檢査夫 除雪夫	背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	夏 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	冬 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	夏 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各	冬 背廣堅襪ニシテ 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各 分懸物ニ付テ各

驛長 色金

東園監督 色金

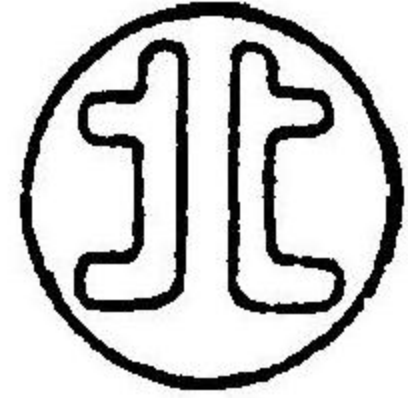
車掌 色金



驛夫 色銀

北 色銀

色銀 色金



掛	職名		同	職名	同
	製式	地質			
普通製給	紺	木綿	建設課所屬電信工夫	同	建設課所屬電信工夫
	普通製給	紺			
普通製給	紺	木綿	建設課所屬電信工夫	同	建設課所屬電信工夫
	普通製給	紺			

衣	職名		同	職名	同
	製式	地質			
單製其他外套ノ製ニ同シ	紺	大羅ノ紗	同	同	同
	單製其他外套ノ製ニ同シ	紺			
同	紺	大羅ノ紗	同	同	同
	同	紺			
同	紺	大羅ノ紗	同	同	同
	同	紺			
同	紺	大羅ノ紗	同	同	同
	同	紺			

第十二類 職員及處務規程

〇明治三十一年六月九日告示第百二十七號  
北海道鐵道書記試驗規則左ノ通り相定ム  
北海道鐵道書記試驗規則  
第一條 北海道鐵道局長官ハ試驗ヲ補助セシムル爲メ委員及書記ヲ命ス(三十一年六月告示第百三十一號ヲ以テ本條中改正)  
第二條 試驗ノ期日及場所ハ少クとも十五日目前ニ公告スヘシ  
第三條 試驗ヲ受ケントスル者ハ試驗願書(一號書式)ニ履歷書(二號書式)ヲ添ヘ試験期日五日目前ニ差出スヘシ  
第四條 試験委員ハ受驗人名簿ヲ調製シ受驗人ノ番號ヲ定メテ受驗人ニ通知スヘシ  
受驗人ハ試驗中自己ノ姓名ニ代ヘ前項ノ番號ヲ用フヘシ  
第五條 試驗ハ分テ筆記試驗及口述試驗トス筆記試驗ニ合格シタル者ニアラザレバ口述試驗ヲ受クルコトヲ得ス  
試驗ハ兼テ實務ニ當ルノ能力アルヲ否ヲモ考察スルモノトス  
第六條 筆記試驗ハ受驗人ナ一室又ハ數室ニ入りテ五時間以内ヲ限リ同時ニ之ヲ行ヒ口述試驗ハ各受驗人毎ニ之ヲ行フモノトス  
第七條 試驗室ハ定時刻十分前ニ之ヲ開キ受驗人ヲ入ラシメ定時刻ニ於テ閉鎖ス  
第八條 試驗ハ參觀又ハ傍聽ヲ許サズ但シ北海道鐵道部列任官以上ノモノニ許テ試驗委員ノ許可ヲ受ケタルトキハ此限ニテアラズ  
第九條 受驗人ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ之ニ違フ者ハ退室ヲ命ジ又ハ其答案ヲ無効トスルコトアルヘシ  
一 試驗ニ關スル規程及試驗委員ノ指命ニ違フ  
一 試驗開始時刻三十分前ニ試驗場ニ集シ當日ノ試験了リタルトキハ直ニ退室スヘシ  
三 書類ヲ携帶シ試験室ニ入ルコトヲ得ス  
四 試験室ニ在リテハ靜謐ヲ旨トシ五ニ交談スルコトヲ得ス  
五 試驗委員ノ許可ナクシテ試験時間中退室スルコトヲ得ス  
六 試験問題ニ就キ質問スルコトヲ得ス  
七 試験了リタル者ハ未ダ試験了リサル者ト交談スルコトヲ得ス  
八 試験ノ答案ハ階書又ハ行書ヲ以テ明瞭ニ記載スヘシ又各自番號ノ外氏名ヲ記入スルコトヲ得ス  
九 受驗人ハ洋服又ハ袴ヲ着用スヘシ  
第十條 筆記試験ハ一科目四十點以上平均點數六十點以上ヲ得ル者ヲ以テ合格トス  
平均點數ハ各科目ノ得點ヲ合計シ科目ノ數ヲ以テ之ヲ除シタルモノトス  
第十一條 試験合格者ハ試驗ノ成績ニ依リ北海道局長官又ハ其委任ヲ受ケタル北海道總務官之ヲ定ム  
第十二條 試験合格者ノ氏名ハ試験終了後五週間以内ニ官報ヲ以テ公告ス  
第十三條 試験ハ試驗ノ期日ニ出席セザルトキハ當期ノ試験ヲ受クルコトヲ得ス  
第九條ニ依リ退室ヲ命ジ又ハ其答案ヲ無効トシタル者及試驗時間中委員ノ許可ヲ得ズシテ退室シタル者亦同シ  
(一號書式) 川紙美濃紙  
北海道鐵道書記試驗願

印紙  
私儀北海道鐵道書記試驗規則ニ依リ試験相受度別紙履歷書相添ヘ此段相願候也  
年月日 現住所 名印  
北海道局長官宛  
道ヲ試驗ニ關スル通知書ハ現住所(又ハ札幌區何所何某方へ御送附相成候也  
(二號書式) 同紙美濃紙  
履歷書  
北海道府縣華士族平民  
(位勳功爵) 氏  
名  
北海道府縣郡區町村番地戶主(又ハ某男兄弟伯叔父等)  
現住所  
北海道府縣郡區町村番地(某方) 寄留(本籍地ニ現在スルトキハ本項ノ記載ヲ「本籍地ニ同シ」トスヘシ)  
學 事  
一 何年何月ヨリ何地何業ニ就キ又ハ官(公)私立何學校ニ於テ何學ヲ修メ何年何月ニ至ル所修ノ書籍大略何何  
一 何年何月ヨリ何地官(公)私立何學校ニ入り何學科ヲ修業シ何年何月卒業ス其證書ノ寫別紙ノ如シ  
修業何年何月間ニシテ其科目ハ何何  
一 何年何月何地何學校若クハ何地ニ於テ何何ノ試験ヲ受ケ及第ス其證書若クハ免狀ノ寫別紙ノ如シ

紙ノ如シ受驗科目ハ何何  
官位職業  
一 何年何月何地官(公)私立何學校何科何教員トナリ何何ノ教授ニ從事シ何年何月解職其間何何ヲ兼勤シ何何ノ事務ニ從事ス以上ノ辭令寫別紙ノ如シ(辭令ハ在職中ニ受ケタルモノヲ郡ヲ添附スヘシ又私立學校等ニテ辭令ナキモノハ其給料等ヲ本文ニ詳記スヘシ)  
一 何年何月鐵道作業局ニ於テ何何何何何年何月マテ何何ノ事務ニ從事シ何年何月辭職以上ノ辭令寫別紙ノ如シ(本文ニハ任免非職休職復職及擔當ノ事務官廳廢置官等改正等ヲ悉數シ辭令寫別紙ノ右添附ニ關シ受ケタルモノヲ郡ヲ添附スヘシ)  
一 何年何月何位(勳何等功何級)ニ就セラレ以上ノ辭令寫別紙ノ如シ  
一 何年何月ヨリ何地何鐵道會社ニ雇ハレ(給料月何圓)何何ノ職務ニ從事シ何年何月ニ至テ解雇其間給料ノ増減  
(辭令アルモノハ官職ノ例ニ依リ其辭令書寫ヲ別紙ニ添附スヘシ)  
一 何年何月ヨリ何年何月マテ何業ニ從事ス  
一 何年何月ヨリ何何ノ著書ニ從事シ何年何月ニ至ル著書ノ所ノ著者名左ノ如シ  
(著書名ヲ掲ク但シ洋書ハ其原名ヲモ記スヘシ)  
賞 罰  
一 何年何月何所ニ於テ何何ノ事由ノタメ賞ヲ受ケ其辭令寫別紙ノ如シ  
(辭令ナキモノハ本文中ニ受賞ノ事由ヲ詳記スヘシ)  
一 何年何月何所ニ於テ何何ノ事由ノ爲メ罰ヲ受ケ  
紙ノ如シ

其辭令寫別紙ノ如シ  
(辭令ナキモノハ本文中ニ其事由ヲ詳記シ又裁判所ノ宣告書ハ其要ヲ記スヘシ總テ罰ハ其受罰ノ日數過料罰金額等ヲ記スヘシ)  
一 破産者ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ又ハ身代限ノ處分ヲ受ケタルコトヲ示シ  
一 兵籍  
一 何年何月何兵第何番(大隊)ニ入營何年何月現役滿期何年何月豫備役ニ編入セラル(又ハ現役及豫備(後備)ノ兵籍ニ無之)  
右之通ニ候也

備考  
犯罪ノ項固事犯ニシテ後據シタル者ハ其事故ヲ掲記スヘシ破産者若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケタル者及身代限ノ處分ヲ受ケタル者ト雖モ既ニ復職シ又ハ債務ノ弁償了リタル者ハ其事故ヲ掲記スヘシ  
〇明治三十一年十二月二十二日訓第七百二十五號  
(北海道鐵道部宛)  
北海道鐵道部發行規程左ノ通り定メ明治三十三年一月ヨリ之ヲ施行ス  
北海道鐵道部發行規程  
第一條 北海道鐵道部ニ關スル諸規程ヲ部員ニ周知セシメ及其支部局ニ發スル公文ヲ謄寫ニ代用スル爲メ發行スルモノトス  
第二條 北海道鐵道部員ハ特ニ公文ヲ以テ通達ヲ受クルカ若クハ他ノ規定アルモノヲ除クノ外部報到者ノ日ヨリ遵守ノ義務ヲ有スルモノトス  
第三條 部報ハ每週一回發行スルモノトス

但必要ト認ムルトキハ臨時發行スルコトアルヘシ  
第四條 部報ハ左ノ項目ニ分テ發給スヘシ  
一 法規  
二 指令問答  
三 諸判定  
四 責任辭令(事業主以上)  
五 貸借(備人以上)  
六 統計  
七 諸報告及復命  
八 彙報  
存ノ外鐵道部長ニ於テ必要ト認ムル事項  
第五條 部報彙報及部報發行ニ關スル手續ハ鐵道部長之ヲ定ム  
〇明治三十三年三月二十日訓第百四十三號(北海道鐵道部宛)  
北海道官設鐵道年報編製規程左ノ通り相定ム  
第一條 北海道官設鐵道年報編製規程  
一 北海道官設鐵道部ハ毎年一箇年度内ニ於ケル鐵道事業及鐵道事務ノ狀況ヲ詳述シタル鐵道年報ヲ編製スヘシ  
第二條 前條ノ報告材料蒐集ニ關スル規則ハ鐵道部長之ヲ定ム  
〇明治三十三年十二月十七日訓第七百九十四號  
(北海道鐵道部宛)  
本年(二月)訓第五十七號北海道鐵道部事故報告規程左ノ通り改正ス  
本年二月十五日訓第五十七號ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス  
北海道鐵道部事故報告規程  
第一章 鐵道事故  
第一條 本規程ニ於テ鐵道事故ト稱スルハ諸車ノ

第十二類 職員及處務規程

但シ停車場構内ニ生シタル事故ハ總務課長ニ於テ前項ノ手續ヲ爲スヘシ

前項ノ電信報告ヲ受ケタル事務所長ハ其事故ニ關係アル他ノ事務所長へ即時報告スヘシ(三十四年六月訓第五百十六號ヲ以テ本條改正)

第五條 事故報告書ハ列車ノ運輸中發生シタル事故又ハ停車場ノ火災或ハ停車場ノ逸走等ノ場合ハ運輸事務所長ニ於テ(機關車ノ運行又ハ停止中若クハノ車輛不意ヨリ生シタル事故ハ機關事務所長ニ於テ)線路ノ故障ヨリ生シタル事故ハ保險事務所長ニ於テ之ヲ作製スヘシ(三十四年六月訓第五百十六號ヲ以テ本條改正)

第六條 原因ノ取調等ニ據リ本規程第一條ノ報告書ヲ提出スル期限ヲ超過セントストキハ凡ソ之レカ取調了ラシ得ヘキ期限ヲ付シ其旨報告書ノ原因欄ニ揭載シ先該報告書ヲ提出スヘシ

第七條 車輛、車輪、輪軸等ノ破損ニ關スル事故報告書ニハ之レカ(圖面二葉)及ヒ製造所名、材質並ニ破損ノ狀態ヲ詳記セル說明書ヲ添付スヘシ

但シ運輸事務所長或ハ保險事務所長ニ於テ作製スル報告書ノ前項ノ圖面及ヒ說明書ヲ添付スルノ要アルトキハ機關事務所長ニ於テ之ヲ製シ各該事務所長ニ回付スヘシ(三十四年六月訓第五百十六號ヲ以テ本條改正)

第八條 衝突、顛覆、機關車ノ汽缸破裂、死傷者生シタル線路上及ヒ運輸上ノ事故其他重大ナル事故又ハ複雜ナル事故ノ報告書ハ各該事務所長ニ於テ現場圖(二葉)ヲ製シ必ス之ニ添付スヘシ

第九條 他ノ事務所ニ關スル事故アルトキハ其關係事務所長ト連署ノ上報告スヘシ若シ其原因等

ニ付意見ノ區ハサルトキハ主管事務所長ハ其旨副報スヘシ

主管事務所長ノ主張スル原因等ノ報告ニ反對ナル意見ヲ有スル事務所長ハ各別ニ意見書ヲ作シ直ニ所屬課長へ提出スヘシ

所屬課長前項ノ意見書ヲ收受シタルトキハ二日以内ニ之レカ當否ヲ檢定シ主記課長へ回付スヘシ

第十條 各課長ニ於テ事故報告書ヲ收受シタルトキハ其日ヨリ二日以内ニ主記課長へ回付スヘシ

主記課長ハ直ニ之レヲ部長ニ提出シ同時ニ電信書へ報告ノ手續ヲ爲スヘシ(主記課長ハ其事故他課ニ關スルモノト認メタルトキハ部長へ提出スル以前ニ其關係アル課長へ回付スヘシ)關係アル課長ハ此場合ニ於テ其報告書ノ一部又ハ全部不當ト認メタルトキハ其不當ナル理由ヲ附記シ主記課長へ返附スヘシ

第十一條 主記課長ハ前條ノ理由ヲ附記シタル報告書又ハ第九條ニ據リテ提出シタル事務所長ノ意見書ヲ收受シタルトキハ直ニ部長ノ列決ヲ得テ電信書へ報告ノ手續ヲ爲スヘシ

前項部長列決ノ結果ハ主記課長ヨリ主管課長若クハ關係課長ノ備考ニ供スヘシ

第十二條 當務者ノ過失又ハ懈怠等ヨリ生シタル事故アルトキハ其當務者ノ所屬課長ニ於テ之レカ處分ノ額末ヲ該報告書ニ記載スヘシ

但シ報告書ヲ部長へ提出ノ後ニ決定シタル處分ハ別ニ其額末ヲ主記課長へ通報スヘシ

第十三條 主記課長ハ毎月一回末日訓ヲ以テ線路事故回数表ヲ對シ關係課長及ヒ部長ノ閱覽ニ供スヘシ

第十四條 第五條第七條第八條ニ於ケル書類及ヒ

圖面ニシテ鋼路線ニ關スルモノハ總務課出張所長ニ於テ之レヲ作製スヘシ

(別紙様式)

事故ノ種別	事故報告
發生日時	何年何月何日何時何分
場所	何處何哩何鎮(或ハ何哩何分)ノ何處至何處(或ハ何處)ノ何處
當該列車又ハ機關車若クハ車輛ノ現場ノ狀況及損害ノ有無	本列車何處ヲ定時ニ出發セシ處其前送ニ於テ大石ノ墜落シアリシヲ認メタルニ付直ニ停車ヲ排除ノ上發車セリ列車及ヒ線路ニ被害ナシ
死傷者	ナン
進行停止時間	自何時至何時、何時間
事故ノ原因	遠因、前日來ノ降雨激烈ナリシニ因ル 近因、大石ノ墜落シ在リシニ因ル
當時ノ處置	線路工夫其他ナシヲ排除セシメ附近ノ崖壁ヨリ土石ノ墜落スルカキコトナキヲ確メシメタリ
當務者處分ノ額末	原因天然ニ屬スルヲ以テ當務者ヲ處分ス
其他ノ記事	天候、牽引車數、車輛ノ盈空、列車ノ速力、事故發生ノ爲メ待ニ當務者ノ配付ナシタルトキハ其配付數其他ノ摘要ヲ記スヘシ

右報告候也

明治何年何月何日

鐵道部長 宛

主管事務所長 (關係事務所長) (關係事務所長)

官 官 官  
氏 氏 氏  
名 名 名  
印 印 印

○明治三十五年四月二十八日訓第四百四十九號

○明治三十一年(六月)訓第二百四十二號ヲ左ノ通り改ム

鐵道部運輸事務分掌セシムル爲メ石狩國土川郡旭川町ニ運輸事務所ヲ設ケ

第十二類 職員及處務規程

第十二類 停車場取締

○明治三十五年三月三十一日訓第三百十一號(北海道鐵道部宛)  
鐵道部運輸、保線、機關、出納ノ事務ヲ分掌セシムル爲メ鐵道部運輸部出納事務所ヲ置ク  
線事務所、機關事務所、出納事務所ヲ置ク  
○明治三十五年十一月二十八日訓第七百二十四號(北海道鐵道部宛)  
石狩國空知郡下富良野ニ保線課保線事務所ヲ置キ下富良野保線事務所ト稱シ其管轄區域左ノ通り定ム  
十勝線美瑛鹿越間  
○明治三十三年十一月二十八日訓第七百二十六號(北海道鐵道部宛)  
保線課旭川保線事務所管轄區域左ノ通り定ム  
上川線  
天鹽線士別驛迄  
十勝線美瑛驛迄  
○明治三十五年五月十六日訓第五百二十一號(北海道鐵道部宛)  
旭川、釧路出納事務所管轄區域左ノ通り定ム  
一 旭川出納事務所所管區域  
天鹽線  
十勝線  
釧路出納事務所所管區域  
釧路線  
根室線  
網走線  
○明治三十五年四月十日訓第三百九十七號(北海道鐵道部宛)  
其部鐵路機關事務所ニ於テハ當分ノ内工場處務規程ニ準據シ工場ノ業務ヲ取扱フヘシ(三十五年八月七日訓第七百九十三號ヲ以テ假令削除)

●停車場取締

○明治三十一年四月二日訓令第二十五號  
當處所管鐵道停車場構内符合茶屋規程左ノ通相定ム  
第一條 停車場構内符合茶屋規程  
第一條 停車場構内ニ於テ符合茶屋營業ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ノ願書ヲ提出シ許可ヲ受ケルヘシ  
第二條 符合茶屋營業ノ許可ヲ受ケ用地ヲ指定セラレタルトキハ營業人ハ其用地ノ實測圖ヲ作リ記名調印ノ上提出スヘシ  
第三條 符合茶屋ノ用地ハ五十坪以内トス(三十二年四月訓令第二十九號ヲ以テ本條改正)  
第四條 建物ノ増築又ハ模範替ヲ爲シ又ハ用地ノ變更ヲ受ケントスル者ハ第二號書式ノ願書ヲ提出シ許可ヲ受ケルヘシ  
前項ノ許可ヲ受ケタル場合第二條ノ實測圖ニ異動ヲ生ズルトキハ更ニ實測圖ヲ作リ提出スヘシ  
第五條 建物ノ工事ハ用地ノ指定又ハ前四條ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ竣工スヘシ  
天災地變其他已ムナリ得サル事由ニ因リ前項ノ期限内ニ竣工シ難キトキハ第四號書式ノ願書ヲ提出シ許可ヲ受ケルヘシ  
第六條 建物ノ工事竣工シタルトキハ五日以内ニ届出検査ヲ請ヒ開業ノ承認ヲ受ケルヘシ  
但竣工検査ノ上改造又ハ變更ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期限内ニ其工事ヲ終ヘ更ニ本條ノ手續ヲナスヘシ  
第七條 符合茶屋營業ノ期限ハ開業ノ日ヨリ滿三年以内トス

年以内トス

繼續營業ヲ爲サントスル者ハ滿期前第三號書式ノ願書ヲ提出シ許可ヲ受ケルヘシ  
第八條 符合茶屋營業人ハ鐵道ニ關スル法律規則ヲ遵守スヘキハ勿論尙ホ左ノ各項ニ遵背スヘカラス(三十五年五月訓令第七十一號ヲ以テ第三號願書以下順次繰上ク)  
一 營業場ノ取締取締等凡テ其營業上ニ關シテハ所屬局長ノ指揮ニ從フヘシ  
二 停車場構内火災其他ノ事變ニ遭シタルトキハ救護ニ盡力スヘキハ勿論特ニ旅客貨物等ノ安全ヲ保ツコトニ注意スヘシ  
三 販賣品代ハ定價アルモノハ其定價ニ定價ナキモノハ其地方一般ノ平均價格ヲ超過スヘカラス  
四 販賣品中主要品ノ代價表ヲ製シ旅客ノ見易キ場所ニ掲示スヘシ  
五 旅客ニ對シ呼聲押賣其他不都合ノ所業ヲ爲スヘカラス  
第九條 符合茶屋營業料ハ左ノ標準ニ依リ徴收ス(三十二年四月訓令第二十九號ヲ以テ假書トモ改正)  
但營業地ノ等級ハ土地ノ狀況ニ應シ鐵道部長隨時之ヲ定ム  
一等用地五坪毎ニ五坪未満ノ坪數一月間  
二等同 金六十錢  
三等同 金五十錢  
四等同 金四十錢  
五等同 金三十錢  
第十條 營業料ハ毎月末ニ其翌月分ヲ前納スヘシ(三十二年四月訓令第二十九號ヲ以テ假書トモ改正)

改正)

但初テ許可ヲ受ケタルトキハ即時其當月分ヲ納ムヘシ  
第十一條 官ノ都合ニ依リ廢業又ハ場所ノ變更ヲ命ジタルトキハ其廢業ヲ命ジタル日以後及場所變更ヲ命ジタルトキハ其休業ノ日數ニ該當スル營業料ハ日割ヲ以テ還付ス(三十二年四月訓令第二十九號ヲ以テ本條改正)  
天災地變等ニ由リ營業ヲ爲サ得サル場合亦同シ  
第十二條 符合茶屋營業人此規程ニ違背シ其他不都合ノ所爲アリタルトキハ其營業ヲ停止シ若クハ廢業ヲ命スルコトアルヘシ但此場合ニ於テハ未納營業料ハ追徴シ既納ノ分ハ還付セス(三十二年四月訓令第二十九號ヲ以テ本條改正)  
第十三條 左ノ場合ニ於テハ營業人ハ六十日以内ニ其建物ノ取拂又ハ移轉ヲ爲スヘシ之カ爲メニ生ジタル損失ハ營業人ノ負擔トス  
一 第十二條ノ處分ヲ受ケタルトキ  
二 營業滿期ノトキ  
三 營業人任意ニ廢業シタルトキ  
第十四條 營業人前條ノ期限内ニ建物ノ取拂又ハ移轉ヲ爲ササルトキハ當處ニ於テ取毀ノ處分ヲ爲シ營業人ヲシテ十日以内ニ其費用ヲ償却シ材料品ノ取片付ヲ爲サシム  
營業人ニ於テ前項ノ期限内ニ費用ノ償却ヲナサス又材料品ノ取片付ヲ爲ササルトキハ其材料品ヲ公賣シ償却金及公賣其他ノ費用ニ充テ尙ホ殘餘アルトキハ營業人ニ還付シ不足ストキハ之ヲ追徴スヘシ  
第十五條 此規程ニヨリ提出スル願書ハ凡テ所屬局長ヲ經由スヘシ

附則

第十六條 本令改正前許可ヲ受ケタル者ノ營業等級ハ營業滿期迄既定ノ率ヲ超過スルヲ得ス(三十二年四月訓令第二十號ヲ以テ本條改正)  
第十七條 本令ハ發令ノ日ヨリ施行ス(三十二年四月訓令第二十九號ヲ以テ本條追加)  
第一號書式(三十二年四月訓令第二十九號ヲ以テ本條改正)  
營業額  
一 停車場構内符合茶屋營業  
但開業ノ日ヨリ何年何箇月間  
私儀何何停車場構内ニ於テ建物建設ノ上前記ノ營業在度候間御許可被成下度別紙建物化検査及繪圖面取覽品目錄相添ヘ此段相願候也  
年月日 住所 氏名 印  
北海道廳長官宛  
販賣品目錄  
一 何何 (品名又ハ品類)  
第二號書式  
建物増築(模範替)又ハ改造(願)何何  
右ハ年月日御許可ヲ得建物建設致居候處(或ハ地所御指定相成候處)何何(増築、模範替變更又ハ改造)要スル理由(二)付今同増築(模範替)又ハ改造(模範替)住度候間御許可被成下度別紙建物化検査繪圖面相添ヘ此段相願候也  
年月日 住所 氏名 印

北海道廳長官宛

第三號書式  
私儀從來何停車場構内ニ於テ符合茶屋營業規程在候處令檢定期ニ付更ニ何年何箇月迄營業在度候間御許可被成下度此段相願候也  
年月日 住所 氏名 印  
北海道廳長官宛  
工事竣工期限相願  
私儀何何停車場ニ於テ符合茶屋營業規程許可相成候ニ付建物工事何月何日限リ竣工可仕苦クモ何理由ニ因リ不得已竣工難仕候間何月何日迄御相願度然ル上ハ決シテ右期限ヲ越ラス竣工可仕候此段相願候也  
年月日 住所 氏名 印  
北海道廳長官宛  
○明治三十一年四月二日訓第三百十一號(鐵道部宛)  
當處所管鐵道停車場構内符合茶屋規程取扱手續左ノ通相定ム  
停車場構内符合茶屋規程取扱手續  
第一條 規程第一條ノ願書ヲ受理シタルトキハ該置ノ要否其構造設備ノ體裁火災其他危險ノ有無等ヲ調査シ許可スヘキモノト認メタルトキハ監理課ニ合議シ業務ニ妨ナキ區域ニ於テ其用地ヲ選定スヘシ  
前項ノ場合ニ於テ許可スヘカラスト認ムルトキハ其理由ヲ詳具スヘシ  
第二條 用地ヲ選定シタルトキハ營業ノ期間ヲ指定シ許可ノ手續ヲシ營業人ニ對シ其用地ヲ指

第十二類 停車場取締

第十二類 停車場取締

定スヘシ  
 第三條 規程第二條ニ依リ營業人ヨリ用地賃測圖ヲ提出セハ其寫ヲ添ヘ監理課ニ通知スヘシ  
 第四條 規程第四條ノ出願ヲ許可スル場合及賃測圖ヲ受理シタルトキハ前條ニ準シ處理スヘシ  
 第五條 規程第五條第二項及第七條第二項ノ願書ヲ受理シタルトキハ相當ノ期限ヲ定メ許可ノ手續ヲナスヘシ其許可スヘカラスト認ムルモノハ第一條第二項ノ例ニ依ルヘシ  
 但第一條第二項ノ願書ニ對シ許可ヲ與ヘントスルトキハ監理課ニ合議スヘシ  
 第六條 建築物工屑ヲ受理シタルトキハ之カ檢査ヲナシ其不都合ナキモノハ開業ヲ承認スヘシ建築物ノ工事其設計ニ適合セス不都合アリト認ムルトキハ相當ノ期間ヲ指定シ建築物ノ改造又ハ變更ヲ爲サシメタル上更ニ前項ノ手續ヲナスヘシ  
 第七條 營業料ノ徵收又ハ返付ヲ要スルトキハ計理課ニ通知スヘシ  
 第八條 待合茶屋ニ關スル願書ハ凡テ所屬局長ニ於テ意見ヲ付シ進達スヘシ  
 第九條 待合茶屋營業ニ關スル事件ハ鐵道部長限リ處分スルコトヲ得  
 ○明治三十一年四月二日廳令第二十四號  
 當廳所管鐵道停車場内出店及呼賣營業人規則左ノ通相定ム  
 第一條 停車場内出店及呼賣營業人規則  
 ナサントスル者ハ左ノ書式ノ願書ヲ提出スヘシ  
 第一種 出店業(停車場内ニ小店ヲ設ケ物品ノ小賣ヲナスモノ)  
 第二種 呼賣業(停車場内ニ出店ヲ設ケ物品ノ小賣ヲナスモノ)  
 一類 小間物類  
 二類 餅乾、糖、茶及氷類  
 三類 菓子、藥物、糞、寸燧及二類ニ屬セザル飲食物  
 四類 新聞、雜誌、小說類  
 第二條 前條各種業ハ第一種第二種第一類及四類ハ各階毎ニ各一人第二種二類及三類ハ各階毎ニ各二人トス但鐵道部長ハ各階ノ狀況ニ依リ各一人ヲ增加スルコトヲ得(三十三年八月廳令第七十二號ヲ以テ本條改正)  
 第三條 營業ノ期限ハ滿一箇年トス  
 但繼續營業ヲ許可スルコトアルヘシ  
 第四條 第二種業ハ營業人ハ二人以下其他ノ營業人ハ一營業毎ニ一人ヲ限リ十六歳以上ノ男子ヲ賣子トシテ停車場ニ出スルコトヲ得  
 第五條 前條ノ賣子ヲ出サントスルトキハ所屬局長ニ届出テ賣子一人毎ニ入場摺札ヲ受ケヘシ入場摺札ヲ携提セスシテ營業ノ爲メ停車場内ニ立入ラシムルヲ得ス  
 第六條 營業人ノ賣品ハ局長臨時檢査ノ上不都合ト認ムルモノハ其販賣ヲ禁止スルコトアルヘシ  
 第七條 營業人ハ左ノ各項ヲ遵守スヘシ  
 一 鐵道ニ關スル法律規則ヲ遵守スヘキハ勿論  
 取捨掃除等凡テ其營業ニ關スル事件ハ所屬局長ノ指揮ニ從フヘシ  
 二 出店ノ位置及構造方ハ局長ノ指揮スル所ニ依ル  
 三 鐵道部ノ認可ヲ經サル物品ハ一切販賣スルヲ得ス  
 四 販賣品ノ價格ハ定價アルモノハ其定價ニ依リ定價ナキモノハ市中一般ノ平均價格ヲ超過スルヲ得ス  
 五 火鉢其他火氣ヲ使用スルトキハ嚴シク火ノ元ヲ用心スヘシ  
 第八條 鐵道業上ノ都合アルカ又ハ營業人此規則ニ違背シ其他不都合ノ所爲アルトキハ其營業ヲ停止シ又ハ廢業ヲ命スルコトアルヘシ  
 第九條 營業人ハ毎月左ノ營業料ヲ納ムヘシ  
 營業人ノ等級ハ營業料ノ納ムヘシ  
 第一種 金四圓  
 第二種 金三圓  
 第三種 金二圓  
 第一類 金一圓  
 第二類 金七角  
 第三類 金五角  
 第四類 金四角  
 第一等 金七十錢  
 第二等 金五十錢  
 第三等 金三十錢  
 第十條 營業人二種以上ノ營業ヲ兼ムルトキハ一營業毎ニ前條ノ營業料ヲ納ムヘシ  
 第十一條 營業料ハ毎月末ニ其翌月分ヲ前納スヘシ

但初メテ許可ヲ受ケタルトキハ即時其當月分ヲ納ムヘシ  
 第十二條 三十日以上引續キ營業ヲ停止シタルトキハ三十日ヲ以テ一箇月ノ計算トシ其營業料ヲ徵收セス  
 第十三條 鐵道業上ノ都合ニヨリ廢業ヲ命シタルトキハ廢業ノ當月分ハ日割計算ヲ以テ前納ニ係ル營業料ヲ返付ス  
 第十四條 營業人此規則ニ違背シ其他不都合ノ所爲アリタル爲メ廢業ヲ命シタルトキハ既納ノ營業料ヲ返付セス  
 第十五條 此規則ニ依リ提出スル願書ハ凡テ所屬局長ヲ經由スヘシ  
 營業願  
 一出店(又ハ呼賣)營業(種類ヲ記スヘシ)  
 私儀今般何停車場ニ於テ前記ノ營業仕度御規則ノ趣ハ堅ク相守可申候間御許可被成下度此段相願候也  
 年 月 日 住所 氏 名 印  
 北海通局長官宛  
 ○明治三十一年四月二日廳令第二十號(鐵道部宛)  
 停車場内出店及呼賣營業人規則取扱手續  
 第一條 營業願書ヲ提出スル者ハ左ノ書式ヲ提出スヘシ  
 業務上支障ノ有無及許可ノ要否ニ關シ意見ヲ付シテ進達スヘシ  
 第二條 營業願ニシテ許可スヘシト認ムルモノハ規則第九條ニ依リ相當ノ等級ヲ指定シテ許可ノ手續ヲナシ許可スヘカラスト認ムルモノハ其理由ヲ詳具スヘシ  
 第三條 營業料ノ許可セシトキハ運輸課長ハ其種類等級期限人名營業料額及營業人ノ住所ヲ計理課長ニ通知スヘシ  
 第四條 願書ハ規則第六條ノ處分ヲ爲シタルトキ及第八條ノ處分ヲ要スヘキモノト認ムルトキハ理由ヲ記シテ運輸課長ニ報告スヘシ  
 第五條 廢業又ハ停車場ヲ命シタル爲メ營業料ヲ徵收セス又ハ其返付ヲ要スルトキハ運輸課長ハ計理課長ニ通知スヘシ  
 理課長ニ通知スヘシ  
 第六條 營業願其他營業ニ關スル事件ハ鐵道部長限リ處分スルコトヲ得  
 ○明治三十四年九月二十一日廳令第五十號  
 當廳所管鐵道停車場内出店及呼賣營業人規則左ノ通相定ム  
 停車場内出店及呼賣營業人規則  
 第一條 停車場内ニ營業ノ廣告掲示ヲ爲サントスルモノハ別紙書式ニ據リ所屬局長ヲ經由シテ出願許可ヲ受ケヘシ  
 第二條 掲示品ノ取附取捨ハ所屬局長ノ指揮ニ從ヒ掲示人ニ於テ之ヲ爲スヘシ  
 但北海道鐵道部ハ掲示品保管ノ責ニ任セス  
 第三條 掲示ノ期間ハ許可ノ日ヨリ滿一年以内トス  
 但繼續掲示ヲ爲サントスルモノハ期間滿了前更ニ願出スヘシ  
 第四條 掲示料ハ左ノ標準ニ據リ北海道鐵道部ヘ前納スヘシ

種別等級	屋 内 年 額			屋 外 年 額		
	一 等	二 等	三 等	一 等	二 等	三 等
面積	一 尺 平 方 迄	一 尺 平 方 迄	一 尺 平 方 迄	一 尺 平 方 迄	一 尺 平 方 迄	一 尺 平 方 迄
以上一尺平方又一尺平方未滿ヲ増ス毎ニ	三〇〇〇	二〇〇〇	一五〇〇	二〇〇〇	一五〇〇	一〇〇〇
	六〇〇	四〇〇	三〇〇	四〇〇	三〇〇	二〇〇





第十二類 運轉及合圖

一五七〇

但シ特殊ノ目的ニ供スル場 及車庫ノ外方ニ  
開カサルモノヲ入換スルトキハ此限ニテアラス  
第十二條 車輪直徑二呎四輪貨車ヲ旅客列車ニ連  
結スルトキハ其軸一軸ニ換算スルモノトス  
第十三條 列車ノ連結車數ハ所定ノ機關車牽引定  
數表ニ依ルヘシ  
但機關手ニ於テ列車ノ重量異常ナルカ又ハ機  
關車不工合若ハ天候ノ模様ニ依リ減車ノ必要  
アリト認めルトキハ驛長ニ之ヲ請求スルコト  
ヲ得  
第十四條 列車前後ノ緩急車ニハ特ニ指定セラレ  
タル場合ノ外左ノ物品ヲ備付クルモノトス  
一 聯結環  
一 「ピン」  
一 「スブラック」  
一 「ハンドスッコ」  
一 赤色信號燈  
第十五條 列車停車場へ到着ノ際車掌ハ手用制動  
機ヲ緊結シ出發ノ際ニ之ヲ緩解スヘシ  
但通過列車ニ在テハ此限リニアラス  
第十六條 勾配アル線路ニ於テ列車停止中ハ機關  
車ヲ聯結シタルトキト雖モ手用制動機ヲ緊結ス  
ヘシ  
第十七條 列車勾配アル線路ヲ下ルトキハ適宜ニ  
制動機ヲ緊結スヘシ  
但シ車側制動機ハ特ニ定メラレタル箇所ニ於  
テ之ヲ緊結スヘシ  
第十八條 鐵道列車保安規程第十條第二號ノ條件  
ヲ省略スルコトヲ得サル停車場ニ於テハ閉塞信  
號ニ對シ承認ヲ與ヘタル後ハ線路ヲ支障(車輛  
入換等ノ如キ)スヘカラス  
前項以外ノ停車場ニ於テハ特ニ指定スル場合ノ

外列車到着ノ十分前ヨリ線路ヲ支障(車輛入換  
等ノ如キ)スヘカラス  
第十九條 列車ハ運轉時刻表ニ示サレタル時刻前  
ニ出發セシムヘカラス  
但貨物列車ニ限リ必要ニ應ジ五分以内早發セ  
シムコトヲ得  
第二十條 列車乗務員ハ列車出發ノ際ハ勿論運轉  
中應列車並ニ其前後兩方面ヲ注視スヘシ  
第二十一條 貨物列車ハ必要ニ應ジ時刻表ニ停止  
ヲ示ササル停車場ニ停止セシムルコトヲ得  
但發列車ノ到着時間ニ對シ鐵道運轉規程第  
二十一條第三項ノ隔離時間ヲ保ツニアラサレ  
ハ停車場セシムルコトヲ得  
第二十二條 貨物列車ハ運送ノ場合ニ限リ時刻表  
ニ停止ヲ示スモ必要ナキトキハ通過セシムルコ  
トヲ得  
但列力四分一以上ノ勾配アル線路ニ  
依リ進入スルトキハ此限ニアラス  
前項ノ場合ニ於テハ百三十三條ノ手合圖ヲナス  
ヘシ  
第二十三條 列車運送ヲ爲スルトキハ必ス停車場  
ニ停止スヘキモノトス  
但シ特別ノ命令アル場合ニ於テ一方ノ列車ニ  
限り停止セサルコトヲ得  
通過列車ニ在リテモ臨時ニ他ノ列車ト行違ハ  
ストキハ亦前項ノ同シ此場合ニ於テハ第三十八  
條ニ準據スヘシ  
第二十四條 二列車以上到着ノ際シ相互運轉規  
程ヲ支障スルハ支障スル處アル場合ニハ同時ニ  
進入セシムヘカラス  
第二十五條 橫行列車力鐵道運轉規程第二十一條  
第三項ノ最少隔離時間内ニ其通過スヘキ停車場

ニ進入スルトキハ先著列車未ダ發車セサル間  
ニ橫行列車到着シ該列車ヲ先著列車ノ後部ニ進  
入セシムル必要アルトキハ一旦場内信號ノ防護  
區域外ニ停止シ其要旨ヲ乗務員ニ通告シタル上  
該信號ニ無難ヲ現示シ進入セシムヘシ  
列車到着ノ際他ノ線路ニ進入セシメントスルト  
キハ亦前項ノ同シ  
第二十六條 不定期列車運轉セシムルトキハ始  
發停車場ノ驛長ハ豫メ關係ノ箇所ニ通知シ且該  
列車ノ乗務員ニ通知スヘシ  
第二十七條 鐵道運轉規程第十三條ノ場合ニ於テ  
列車ヲ推進スルトキハ前部ノ車輛ニ車掌若クハ  
適任者ヲ乘込マシムヘシ  
第二十八條 鐵道運轉規程第二十五條第二項第二  
號ニ對シテハ制動手若ハ適任者ヲ附スヘシ  
第二十九條 途中橫行列車力先發列車ニ接近シタ  
ルトキハ相互ノ機關手ハ短急汽笛數聲ノ合圖ヲ  
ナシ橫行列車ハ停止シテ鐵道運轉規程第二十一  
條第三項ノ最少隔離時間ヲ經過シタル後進行ス  
ヘシ  
第三十條 列車停車場へ進入ノ際其停止位置ヲ誤  
リ前進シタルトキハ後部車掌退却ヲ要スルト  
キハ前部車掌ニ於テ機關手ニ向テ鐵道信號規程  
第二十一條ノ合圖ヲ爲スヘシ  
但列車力對向機關器ヲ經過シ停車場タルトキ  
ハ前部車掌ハ該器ノ正當ナルコトヲ確認シタ  
ル上合圖ヲ爲スヘシ  
第三十一條 列車運轉整理ノ爲メ列車ヲ特設シ行  
違ハ變更シ又ハ發車運轉ヲ爲シ若クハ次列車ニ接  
續セシムル等ノ場合ニハ驛長ハ別ニ定ムル所ノ  
手續ニ依リ乗務員ニ之ヲ通知スヘシ  
第三十二條 列車カ停車場外ニ於ケル往來乘客ヲ

ル踏切ニ近ツキタルトキ線路ノ狀態若ハ四端風  
雲等ニ依リ約四十鎖ノ箇所ヨリ之ヲ見送シ能ハ  
サルトキハ長緩汽笛一聲ノ合圖ヲ爲スヘシ  
第三十三條 停車場及線路ニ從事スル鐵道係員ニ  
於テ列車通過ノ際危險ノ狀態ヲ認めタルトキハ  
列車ヲ停止シ其旨乘務員ニ通告スヘシ  
第三十四條 列車中出火アリタルトキハ直ニ停車  
シ出火ノ車輛ヲ其次位ノ車輛ヨリ解放シ少ク  
モ百五十尺ノ距離ニ進メタル後前部ヨリ解放シ  
消防ノ手段ヲ盡クスヘシ  
第三十五條 車輛發熱其他運輸上危險ヲ生スル虞  
アリト認めルトキハ列車ヨリ該車輛ヲ解放スヘ  
シ  
第三十六條 列車定時間ヲ過クルモ到着セシメテ  
他ニ其理由ヲ確知スルノ途ナキトキハ適任者ヲ  
派遣シ同時ニ後方ノ停車場ニ之レヲ通知スヘシ  
此場合ニ於テハ後方ノ停車場ニ於テモ亦適任者  
ヲ派遣スヘシ  
第三十七條 列車カ場内信號ノ防護區域外ニ停止  
セシメントスルトキハ場内信號及遠方信號ニ危  
害ヲ現示シ尙ホ百一十一條ニ依リ危害合圖ヲ現  
示スヘシ  
第三十八條 通過列車カ停車場ニ停止セシメント  
スルトキハ一旦場内信號ノ防護區域外ニ停止セ  
シメ其要旨ヲ乘務員ニ通告シタル上該信號ニ無  
難ヲ現示シ進入セシムヘシ  
第三十九條 列車カ場内信號ノ防護區域外ニ停止  
シタルトキハ該信號ニ危害ヲ現示スヘシ而シテ  
橫行列車アル場合ニハ後部車掌(後部車掌職務  
ヲ能ハサルトキハ前部車掌以下同シ)ハ適任者  
ヲシテ停止ノ箇所ヨリ後方二十鎖(必要ニ應ジ  
四十鎖以内)ノ距離ニ於テ發信信號(雷管二箇

ヲ相互約四十尺ヲ隔テ軌條上ニ附著ス以下同  
シ)ヲ裝置シ危害各箇ヲ現示セシムヘシ  
第四十條 列車進入ノ際危險信號ニ依リ停止シタ  
ルトキハ長緩汽笛一聲ノ合圖ヲナスヘシ而シテ  
尙ホ無難信號ヲ現示セサルトキハ前部車掌ハ停  
車場ニ至リ其理由ヲ述スヘシ  
第四十一條 車掌ニ於テ運轉中列車ヲ停止セシメ  
ントスルトキハ警報裝置ニ依リ之ヲ機關手ニ通  
報シ手用制動機ヲ緊結スヘシ若シ其裝置ナキ時  
ハ手用制動機ヲ數回解舒シテ機關手ノ注意ヲ促  
シ且機關手ニ向テ危害合圖ヲ現示スヘシ  
第四十二條 列車運轉中線路上ニ人畜ノ死傷アリ  
タルトキハ乘務員ハ列車ヲ停止シ保護係員ヲ招  
集シ之ヲ引渡スヘシ  
但保護係員ヲ招集スル能ハサルトキハ機關相  
當ノ處置ヲナスヘシ  
第四十三條 故障ノ爲メ途中ニ列車ヲ停止シ若ハ  
車輛ヲ留置スルトキハ鐵道信號規程第十七條ニ  
依リ後部車掌ハ適任者ヲシテ停車場ノ位置ヨリ前  
後四分ノ三哩ノ距離(該箇所踏切若ハ橋梁ニ該  
當スルトキハ其以上相當ノ箇所)ニ於テ發信信  
號ヲ裝置シ危害合圖ヲ現示セシムヘシ此場合ニ  
於テ適任者アルトキハ同時ニ前後停車場ニ通報  
スヘシ  
但機關車運轉ニ堪ニルトキハ前停車場ニ進  
行(推進ノ場合)ハ後方停車場ニ逆行尤モ通報  
攜帶ノ時ニ限リ)シテ通報セシムルコトヲ  
得此場合ニ於テハ牽引シ得ヘキ車輛ヲ機關車  
ニ連結セシムルコトヲ得  
前項ノ場合ニ於テ四分ノ三哩ノ距離カ超過其他  
線路ノ狀態ニ依リ列車ヨリ明瞭ニ見送シ能サル  
トキハ尙ホ其以上相當ノ箇所ニ電雷管ヲ附著ス

鐵道信號第十七條規程ニ於ケル事故若クハ必要ニ  
ヨリ一時線路ヲ閉塞スル場合ニハ保護係員ハ第  
一項及第二項ニ依リ防護ヲ爲スヘシ  
第四十四條 前項ノ場合ニ於テ橫行列車到着シタ  
ルトキハ該列車ニ於テ後方ノ防護ヲ爲スヘシ而  
シテ前部車掌ハ之ヲ認メタルトキハ其場  
所ヲ退クコトヲ得  
第四十五條 故障ノ爲メ途中ニ停止シタル列車運  
轉ヲ始メントスルトキハ機關手ハ長緩汽笛數聲  
ノ合圖ヲ爲スヘシ此場合ニ於テ橫行列車アルト  
キハ防護者ハ其防護ヲ繼續シ橫行列車ニ對シ其  
旨通告シ該列車ニ乘込マシ前停車場ニ至ルコト  
ヲ得  
但尙ホ第二項橫行列車アルトキハ第一項橫行列車  
第三項橫行列車アルトキハ第二項橫行列車ノ後部  
車掌ニ於テ其防護ノ責ニ當ルヘシ以下同シ  
前項ノ場合ニ於テ橫行列車カキトキハ防護者ハ  
直ニ雷管ヲ撤去シ列車ニ附著スヘシ  
但防護者カ乘務員以外ノモノナルトキハ防護者  
スルヲ要ス  
第四十六條 列車ニ故障アリテ普通速度ヲ以テ運  
轉シ能ハサルトキハ橫行列車アル場合ニハ防護ノ  
方法ハ第四十三條第一項及第二項及前條ニ依ルヘ  
シ  
但四分ノ三哩以内ニ停車場アリテ之ニ通知シ  
タルトキハ其以外ニ反走スルヲ要セス此場合  
ニ於テ通知ヲ受ケタル停車場ハ橫行列車ヲ停  
止シ其旨乘務員ヲ通告スヘシ  
第四十七條 發信信號ヲ裝置スルニ電雷管ヲ受給  
ノ順序ニ依リ使用シ其凸面ヲ上ニ向ケ軌條ノ中  
央ニ之ヲ置キ斜片ヲ曲ケテ固著セシムヘシ

第十二類 運轉及合圖

一五七一



ス此場合ニ於テハ先發列車ノ機關手ハ通券ヲ最  
後ニ授クル列車ノ機關手ハ通券ヲ授受スヘシ  
第八十二條 通票又ハ通券ノ授受ニ關シテハ機關  
手ハ自己ノ責任ヲ以テ大任ヲシテ之ヲ授受セシ  
メ驛長ハ通過列車ニ限り自己ノ責任ヲ以テ他ノ  
係員ヲシテ之ヲ授受セシムルコトヲ得  
第八十三條 後部ニ補助機關車ヲ連結スルトキハ  
前部機關手ハ通券ヲ後部機關手ハ通券ヲ授受ス  
ヘシ  
但同一方向ニ運轉スル列車アリテ之ニ先發ス  
ル場合ニハ後部機關手モ亦通券ヲ授受スヘシ  
第八十四條 列車ノ前部ニ補助機關車ヲ連結ス  
ルキハ第一機關手ハ通券又ハ通券ヲ授受スヘシ  
此場合ニ於テ補助機關車ノ機關手ハ之ヲ授受ス  
ルコトヲ得  
第八十五條 列車行進ノ場合ニ於テ驛長ハ反對列  
車ノ全部無事到着シ線路ニ支障ナキコトヲ確  
認スルニ非サルハ列車ニ通票又ハ通券ヲ授受ス  
ヘカラス  
第八十六條 通票ハ所定以外ノ場所ニ之ヲ授受ス  
ヘカラス  
第八十七條 驛長ハ受領シタル通票ノ所定ノ場所  
ニ授受スルニ非ラサルハ次區間ニ屬スル通票ヲ授受  
スヘカラス  
但通過列車ノ場合ハ此ノ限リニアラス  
第八十八條 紙製ノ通票ハ使用後直ニ之ヲ捨棄ス  
ヘシ  
第八十九條 通票又ハ通券ハ驛長ニ於テ列車出發  
ノ準備整ヒタル後前部車掌ニ授受シ前部車掌ハ  
驛長ノ認め得ル場所ニ於テ後部車掌ニ示シテ機  
關手ニ授受スヘシ  
後部補助機關車ヲ連結スルトキハ前部機關手ニ  
通券ヲ授受シタル後驛長ハ通票又ハ通券ヲ後部  
車掌ニ授受シ後部車掌ハ前項ニ依リ後部機關手  
ニ之ヲ授受スヘシ  
列車通過ノ場合ニハ驛長ニ於テ通票又ハ通券ヲ  
但驛長ハ前區間ノ通票又ハ通券ヲ授受スルニ  
非ラサルハ次區間ノ通票又ハ通券ヲ授受スヘ  
カラス  
機關手ハ通票又ハ通券ヲ當該區間ノ終端停車場  
ノ驛長ニ授受スヘシ  
第九十條 驛長ヨリ車掌ニ又ハ驛長若ハ車掌ヨリ  
機關手ニ通票ヲ授受スルトキハ驛長ハ同時ニ當  
該區間ノ通票ヲ授受スルニ示スヘシ  
第九十一條 故障ノ爲メ列車途中ニ停止シ救援列  
車ヲ要スルトキハ通票ヲ授受スル列車ニ於テハ  
後部車掌ハ火夫若ハ前部車掌ヲシテ速ニ救援列  
車ヲ要スルコトヲ指示スヘシ  
前項ノ列車力通票ヲ授受スルトキハ後部車掌ハ  
直ニ通票存在ノ停車場ニ之ヲ通報スヘシ此場合  
ニ於テ驛長ハ反對ノ停車場ヨリ速ニ救援列車ヲ  
發シ得ヘキ見込ミアルトキハ通票ヲ救援停車場ニ  
送付スヘシ  
第九十二條 票券式施行ノ線路ニ於テ故障ノ爲メ  
列車ヲ運轉中斷シタルトキハ當該區間ノ一時  
ニ區二分テ通票存在ノ區間ニ於テハ票券式ヲ其  
他ノ區間ニ於テハ指導法ヲ施行スヘシ  
前項ノ場合及全區間指導法施行ノ場合ニ於テ線  
路開通スル迄ハ其始發列車ハ通票ヲ授受シ指  
導者ヲ乘込マシムルニ非ラサルハ指導法ノ施行  
ノ停車場ニ到着スルニ非ラサルハ指導法ノ施行  
ヲ停止スヘカラス  
但前項ノ場合ニ於テハ指導者ハ閉塞ノ場所ヨ  
リ乘車スルコトヲ得  
第九十三條 票券式施行ノ線路ニ於テ故障ヲ施  
行スルニ當リ前條第一項ヲ除クノ外ハ當該區間  
ノ通票ハ錠鎖アル場所ニ之ヲ保管スヘシ  
第九十四條 機關手カ區域遠ノ通票若ハ通券ヲ授  
受シタルトキハ列車ヲ停止シ後部車掌ハ火夫若  
クハ前部車掌ヲシテ後方停車場ニ到リ之ヲ交換  
セシメ若ハ前部車掌ニ適任者ヲ派遣シ同部停車  
場ヨリ後方停車場ニ正當ノ通票若ハ通券ヲ現場  
ニ送達スヘキ旨電報セシムル等障礙ノ處置ヲナ  
スヘシ  
第九十五條 機關手カ通券ヲ授受スル場合ニ通  
票ヲ授受シタルトキハ通票ヲ授受スヘキ場合ニ通  
券ヲ授受シタルトキハ後部車掌ハ火夫若ハ前部車掌  
ヲシテ後方停車場ニ至リ之ヲ交換セシムルカ若ハ  
其進行ヲ繼續セシムル等便宜障礙ノ處置ヲナ  
スヘシ  
第九十六條 前區間ニ屬スル通票ヲ授受シタルト  
キハ後部車掌ハ適任者ヲシテ之ヲ授受スル後  
方停車場ニ送付セシムヘシ  
但通過列車ノ場合ニ於テハ前項ノ停車場ノ驛長ニ之  
ヲ授受スヘシ  
第九十七條 前項ノ場合ニ於テ反對列車ニ依リ之ヲ送付スル  
モノ列車ニ影響ヲ與ヘス若ハ反走シテ之ヲ送付ス  
ルモノ却テ前方停車場ニ持越スル等便宜障礙ノ  
認メタルトキハ前項ノ停車場ノ驛長ニ之ヲ交付ス  
ヘシ  
第九十八條 列車運轉中通過若ハ通券ヲ授受シタル  
モノトキハ保線係員ニ其搜索ヲ依頼シ其通過進行  
ノ前方停車場ノ驛長ニ通告スヘシ  
第四章 指導法

第九十八條 指導者ノ取扱ニ關シテハ通券ニ關ス  
ル條項ヲ准用ス  
第九十九條 鐵道列車保安規定第十八條ニ依リ指  
導者ノ氏名及擔當區間ノ告知ハ指導法ノ施行ヲ  
開始スル列車ノ出發停車場ノ驛長ニ於テ豫メ書  
面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ  
但必要ノ場合ニ於テハ電氣通信ヲ以テ告知ス  
ルコトヲ得  
驛長及指導者ハ第九十三條ノ場合ニ於テ通票カ  
錠鎖アル場所ニ保管セラレタルコトヲ確認シタル  
後(已ムヲ得サル場合ニハ其確報ヲ得タル後)  
ニ非サルハ列車ヲ出發セシムヘカラス  
第五章 常置信號  
第一百條 常置信號ニ無難信號ヲ現示セシムルト  
キハ其所屬線路ニ支障ナキコトヲ確認スヘシ  
第一百一條 列車力常置信號機ヲ通過シタルトキハ  
直ニ之ヲ定位ニ復スヘシ  
第一百二條 場内信號ノ防護區域ハ該信號機以內ト  
ス  
第一百三條 遠方信號ハ場内信號現示ノ後之下一  
ノ信號ヲ現示スルモノトス  
但列車通過シ定位ニ復スルトキ若ハ列車力危  
害信號現示ノ遠方信號機ヲ通過シタル後場内  
信號ニ無難ヲ現示スル場合ハ此限リニアラス  
第一百四條 場内信號及遠方信號ハ列車到着十分時  
前ニ無難ヲ現示スルモノトス  
第一百五條 第二十四條ノ場合ニ於テ後入スヘキ列  
車ニ對シテ先入ノ信號ヲ現示シタルトキハ總  
テ常置信號ニ警告ヲ現示シ且各列車ヲ停止セ  
シメ更ニ適當ノ順序ニ依リ信號ヲ現示スヘシ  
第一百六條 行違停車場ニ於テハ最初進入ノ列車力  
相當位置ニ停止シタル後ニアラサルハ反對列車  
ニ對シ遠方及場内信號ニ無難ヲ現示スヘカラス  
第一百七條 信號手カ其擔當ノ位置ヲ離レル必要ア  
ルトキハ常置信號ニ警告ヲ現示シ置クヘシ  
第一百八條 信號ハ煙霧風等ノ際ニ十級ノ距離ヨ  
リ認め難キトキハ晝間ト雖モ夜間ノ法式ニ依ル  
ヘシ  
第九十九條 前條ノ場合ニ於テ驛長ハ遠方信號機  
(遠方信號機ナキトキハ場内信號機)外ニ之ヲ認  
メ得ヘキ位置ニ信號手若適任者ヲ派遣シ信號機  
ニ警告信號現示ノトキハ該機ノ前方二十級(場  
内用信號ノ場合ニハ四十級)ノ距離ニ於テ  
發信信號ヲ裝置シ赤色燈ヲ現示セシメ信號機ニ  
無難信號ヲ現示シタルトキハ常置信號機ニ綠色  
燈ヲ現示セシムヘシ  
但閉塞式ヲ施行セサル線路ニ於テハ信號機ニ  
無難信號ヲ現示シタル場合ト雖モ列車力信號  
手若クハ適任者派遣ノ場所ヲ通過シタルトキ  
ハ直ニ本文ニ依リ防護ヲナスヘシ  
第一百十條 線路及道路ヲ交互開閉スル階切ニ於テ  
線路ヲ支障スルトキハ上下兩方面ニ對シ鐵道信  
號規定第十三條ノ警告信號ヲ現示スヘシ  
第六章 手合圖  
第一百十一條 到着列車ニ對シ停止ノ位置ヲ指示ス必  
要アルトキハ該位置ニ於テ警告合圖ヲ現示スヘ  
シ  
第一百十二條 停車場ニ在ル對向轉轍機ニシテ錠鎖  
ヲ施ササルモノハ車輪入換又ハ列車通過ノ際轉  
轍手ニ於テ其取柄ヲ支持シ夜間ハ相當ノ手合圖  
ヲ爲スヘシ  
但本線路ニアル對向轉轍機ニ執務セル轉轍手  
ハ夜間到着ノ列車ニ對シテハ乘降場ニ向ヒ先  
白色燈ヲ現示シ列車進入ノ際更ニ列車ニ對シ  
相當ノ手合圖ヲナスヘシ  
第一百十三條 總テ通過列車ニ對シテハ乘降場ニ於  
テ注意手合圖ヲ現示スヘシ  
第一百十四條 常置信號機不完全ノ爲メ之ヲ用レル  
能ハサルトキハ遠方信號又ハ場内信號ニ對シテ  
ハ該信號機外十級以上列車ヨリ見易キ位置ニ於  
テ手合圖ヲ現示スヘシ  
第一百十五條 鐵道信號規定第一百十三條ニ依リ現示  
ノ信號カ前方二十級(線路ノ狀態ニ依リ四十級  
以內)ノ距離ヨリ認め難キトキハ保線係員ハ該  
距離ニ於テ發信信號ヲ裝置シ列車ニ向ヒ手合圖  
ヲ現示スヘシ  
第一百十六條 隨道橋梁其他階切等ニ於ケル白色旗  
又ハ白色燈ノ現示ハ車掌ノ指示ニ依リ行アルコト  
ヲ指示スルモノトス  
第七章 列車乘務員合圖  
第一百十七條 停車場ニ於ケル列車ノ出發合圖ハ後  
部車掌ニ於テ驛長ノ指示ヲ承ケテ之ヲ爲スヘシ  
但連絡車多數ナルカ若ハ曲線等ノ爲メ機關  
手ニ於テ後部車掌ノ合圖ヲ認ムル能ハサル場  
合ニハ前部車掌ハ該合圖ヲ確認シタル上機關  
手ニ對シ該合圖ヲ指示スヘシ  
第一百十八條 機關車二輛ニテ列車ヲ運轉スルトキ  
ハ前部機關手ハ先ツ適度ノ汽笛一聲ヲ吹鳴シ後  
部機關手ハ出發ノ準備整ヒタルトキハ汽笛二回  
ノ汽笛ヲ以テ之ヲ指示シ後部機關手ニ於テ  
出發ノ汽笛合圖ヲ爲スヘシ  
第一百十九條 機關車二輛ニテ列車ヲ運轉スル場合  
ニ前部機關手ニ於テ汽笛ヲ閉塞シ若ハ之ヲ閉  
カントスルトキハ先ツ適度ノ汽笛一聲ヲ吹鳴シ

後部機關手ニ之ヲ通告スヘシ  
第百二十條 第三十條及第六十二條第六十五條ノ場合ニ於テ機關車ヲ進退セシメントスルトキハ機關手ハ適度ノ汽笛一響ヲ吹鳴スヘシ  
第百二十一條 機關手ハ左ノ法式ニ依リ汽笛合圖ヲナスモノトス

- 一 運轉ヲ始ムルトキ 長緩汽笛一響
- 二 運道又ハ長キ橋梁ニ近キタルトキ 適度ノ汽笛一響
- 三 操車係又ハ合圖方ヲ呼寄スルトキ 長緩汽笛二響
- 四 退行ノトキ及轉車案ニ行ク場合操車掛又ハ合圖方ニ注意ヲ促ストキ 短急汽笛二響
- 五 制動機ノ緊締ヲ車掌ニ促ストキ 短急汽笛三響
- 六 制動機ノ緩解ヲ車掌ニ促ストキ 長短汽笛二響
- 七 非常事故ニ際シ警告ヲ要スルモトキ 短急汽笛數聲
- 八 事故除去シタル場合防護者ニ之ヲ通告スルトキ 長短汽笛數聲

第八章 列車信號  
第百二十二條 列車出發後列車信號ノ不整備ヲ認ムルトキハ驛長ハ直ニ之ヲ前方停車場ニ通報シ尙ホ前行列車ノ乘務員ニ之ヲ通告スヘシ  
前項ノ通報ヲ受ケタル驛長ハ乘務員ニ之ヲ通告シ信號ヲ整備セシムヘシ  
第百二十三條 夜間次列車ヲ通過セシムル爲メ前列車ヲ轉線セシメタルトキハ後部ニ掛ケタル信號ヲ撤去スヘシ  
第百二十四條 夜間停車場内本線路ニ車輛ヲ留置スルトキハ其所在ヲ示ス爲メ前部及後部緩衝梁ニ赤色燈ヲ掲ケヘシ  
但接近線路ニ通過列車アルトキハ該列車進入ノ方面ニ赤色燈ヲ掲ケヘカラス  
第百二十五條 左ノ場合ニ於テハ鐵道信託規程第十九條ノ規定ヲ省略スルコトヲ得  
一 急進ノ際出發スル臨時列車ニシテ先發列車出發前ノチ知リ能ハサルトキ  
二 臨時列車同區間一日數回運轉シ若ハ二日以上ニ涉リ同區間ヲ運轉スル場合ニ於テ豫メ關係ノ箇所ヘ通知シタルトキ  
第百二十六條 臨時列車ニ先發スル列車ノ後部ニ掛ケタル信號ノ撤去ハ後部車掌ニ於テ取掛フヘシ  
附則  
第百二十七條 本心得ニ於テ列車ト稱スルハ特ニ明文アル場合ノ外單行機關車ヲ包含ス  
第百二十八條 本心得ニ於テ停車場ト稱スルハ聯絡所信號所ヲ包含ス  
第百二十九條 本心得ニ於テ列車乘務員トハ車掌制動手機關手火夫ヲ總稱ス  
○明治三十一年九月七日訓第三百三十七號（鐵道部宛）  
營業線路内機關車單行ノ場合ニ於テハ運輸課長ノ承認ヲ受ケ當分ノ内車長ヲ乘務員ニシメタルコトヲ得  
○明治三十三年十一月十六日訓第六百六十三號（北海道鐵道部宛）  
除雪車合圖左ノ通知定ム  
除雪車合圖左ノ通知定ム  
除雪車ノ乘務員ハ左ノ區別ニ從ヒ除雪機關車ノ乘務機關方ニ合圖ヲナスヘシ機關方ハ其合圖ニ應ジ汽笛合圖ヲ進退スヘシ

運輸ヲナストキハ車長ヲ乘務員ニシテ尙ホ運輸同數時刻等ハ當該監督長ニ於テ運輸事務所長ト合議ノ上其都度決定スルモノトス  
但シ機關車進退ノ場合ニ限リ運輸課長ノ承認ヲ受ケ車長ヲ乘務員ニシメタルコトヲ得  
第七條 營業線路ト建築線路トノ分岐點ニ於ケル建築用汽車及機關車進退同時刻等ノ決定ニ關シテハ前條ノ例ニ據ル  
第八條 車長、ボイントマン、シグナルマン、プレーキマン等ノ執ルヘキ職務ハ建築線内ニ在テハ工事監督員ニ於テ便宜取扱フモノトス  
但營業線路ト建築線路トノ分岐點ニ於ケルボイントマンハ運輸課長ノ取扱トス  
第九條 建築用汽車ノ使用ハ監督長ノ委任ス  
第十條 建築用汽車運輸主任ノ職務執行ニ關シテハ前各條ニ據ル外機關車主任ノ職務ニ關スル規程ヲ準用ス  
○明治三十一年五月十日訓第七百七十四號（鐵道部宛）  
其部汽車課旭川機關事務所屬機關庫ヲ左ノ停車場構内ニ設置ス  
旭川機關庫 旭川停車場構内  
海道鐵道部宛  
○明治三十二年四月十四日訓第二百二十八號（北海道鐵道部宛）  
其部汽車課旭川機關事務所屬機關庫所管區域左ノ通知定ム  
機關庫所管區域  
一 瀧川機關庫（砂川、深川間）  
但深川驛貯水石炭臺及轉車線ハ瀧川機關庫ノ所屬トス（三十四年九月訓第七百八號ヲ以テ俱書中改正）

スルトキハ其所在ヲ示ス爲メ前部及後部緩衝梁ニ赤色燈ヲ掲ケヘシ  
但接近線路ニ通過列車アルトキハ該列車進入ノ方面ニ赤色燈ヲ掲ケヘカラス  
第百二十五條 左ノ場合ニ於テハ鐵道信託規程第十九條ノ規定ヲ省略スルコトヲ得  
一 急進ノ際出發スル臨時列車ニシテ先發列車出發前ノチ知リ能ハサルトキ  
二 臨時列車同區間一日數回運轉シ若ハ二日以上ニ涉リ同區間ヲ運轉スル場合ニ於テ豫メ關係ノ箇所ヘ通知シタルトキ  
第百二十六條 臨時列車ニ先發スル列車ノ後部ニ掛ケタル信號ノ撤去ハ後部車掌ニ於テ取掛フヘシ  
附則  
第百二十七條 本心得ニ於テ列車ト稱スルハ特ニ明文アル場合ノ外單行機關車ヲ包含ス  
第百二十八條 本心得ニ於テ停車場ト稱スルハ聯絡所信號所ヲ包含ス  
第百二十九條 本心得ニ於テ列車乘務員トハ車掌制動手機關手火夫ヲ總稱ス  
○明治三十一年九月七日訓第三百三十七號（鐵道部宛）  
營業線路内機關車單行ノ場合ニ於テハ運輸課長ノ承認ヲ受ケ當分ノ内車長ヲ乘務員ニシメタルコトヲ得  
○明治三十三年十一月十六日訓第六百六十三號（北海道鐵道部宛）  
除雪車合圖左ノ通知定ム  
除雪車合圖左ノ通知定ム  
除雪車ノ乘務員ハ左ノ區別ニ從ヒ除雪機關車ノ乘務機關方ニ合圖ヲナスヘシ機關方ハ其合圖ニ應ジ汽笛合圖ヲ進退スヘシ

一 旭川機關庫 深川旭川間  
旭川、上富野野間  
（三十二年十一月訓第六百六十五號ヲ以テ本號改正）  
但上富野野貯水石炭臺及轉車線ハ旭川機關庫所屬トス（三十四年九月訓第七百八號ヲ以テ俱書追加）  
一 士別機關庫 和寒士別間（三十三年七月訓第四百二十四號ヲ以テ追加）  
但和寒貯水石炭臺及トイ線ハ士別機關庫所屬トス（三十四年四月訓第三百二十三號ヲ以テ俱書追加）  
一 落合機關庫 上富野野落合間  
（三十四年九月訓第七百八號ヲ以テ本項改正）  
○明治三十三年七月十日訓第四百二十三號（北海道鐵道部宛）  
其部汽車課旭川機關事務所屬士別機關庫及下富野野機關庫ヲ左ノ停車場構内ニ設置ス（三十四年九月訓第七百七號ヲ以テ下富野野機關庫廢止）  
但士別機關庫ハ和寒士別間營業開始ノ日より下富野野機關庫ハ上富野野下富野野間營業開始ノ日より開庫ス  
士別機關庫 士別停車場構内  
○明治三十四年七月十五日訓第六百二號（北海道鐵道部宛）  
其部鐵道機關事務所屬釧路機關庫ヲ釧路ニ置キ其部區域左ノ通知定ム（三十五年四月訓第三百二十九號ヲ以テ本項及俱書中改正）  
但釧路白樺間運輸開始ノ日より開庫ス  
釧路機關事務所屬機關庫所管區域

●旅客及貨物

一 釧路機關庫 釧路野間  
（三十六年二月訓第二百六號ヲ以テ本號中改正）  
○明治三十四年九月二日訓第七百七號（北海道鐵道部宛）  
其部車輛課旭川機關事務所屬下富野野機關庫ヲ廢止更ニ同所屬落合機關庫ヲ落合停車場構内ニ設置ス  
但鹿越落合間運輸開始ノ日より實施ス  
○明治三十五年五月二十二日訓第五百五十一號（北海道鐵道部宛）  
旅客運賃引規程左ノ通知定ム  
旅客運賃引規程  
第一條 團體ニシテ乘降區間ヲ限リ片道五哩以上一時ニ乘車スル旅客ニ對シテハ左項ニ據リ乘車賃金ノ割引ヲナスモノトス  
一 五十人以上以上五十人未滿 二割引  
一 一百五十人以上以上二百五十人未滿 二割五分引  
一 二百五十人以上 三割引  
第二條 官私立學校生徒ニシテ修學旅行ノ爲メ片道五哩以上ノ區間ヲ乘車スル場合ニハ該學校長又ハ管理者ヨリ割引ノ請求アリタルトキハ乘車賃金ノ二割ヲ低減スルモノトス  
第三條 祝祭法會等ノ爲メ多數乘車ノ場合必要ト認ムルトキハ或區間ヲ限リ片道又ハ往復乘車賃金ヲ三割迄ノ範圍内ニ於テ適宜割引ヲナスモノトス  
第四條 本規程ニ據ル割引ハ運輸課長ニ於テ審決スルコトヲ得





第十二類 旅客及貨物

○明治三十四年六月八日告示第百三十七號  
當廳所管鐵道大貨物運賃、手數料及等級表左ノ通  
リ定メ明治三十四年六月二十一日ヨリ施行ス(三  
十五年十月告示第五百七十七號ヲ以テ水中改正  
アリ令一註記ヲ略シ三十五年三月三十一日現在  
ノモノヲ掲ク)

Table with columns for '大貨物運賃' (Large Freight Rates) and '一等品' (First Class) through '三等品' (Third Class). It lists various goods and their corresponding rates.

一五八二

Table detailing rates for '客車及貨車' (Passenger and Freight Cars) and '一等品' (First Class) through '三等品' (Third Class). It includes specific rates for different types of vehicles and goods.

Table detailing rates for '客車及貨車' (Passenger and Freight Cars) and '一等品' (First Class) through '三等品' (Third Class). It includes specific rates for different types of vehicles and goods.

第十二類 旅客及貨物

Table detailing rates for '客車及貨車' (Passenger and Freight Cars) and '一等品' (First Class) through '三等品' (Third Class). It includes specific rates for different types of vehicles and goods.

Table detailing rates for '客車及貨車' (Passenger and Freight Cars) and '一等品' (First Class) through '三等品' (Third Class). It includes specific rates for different types of vehicles and goods.

Table detailing rates for '客車及貨車' (Passenger and Freight Cars) and '一等品' (First Class) through '三等品' (Third Class). It includes specific rates for different types of vehicles and goods.







ケ	假髮製造用 輕氣球	ミ	展覽演劇道具 神輿及宮中工務	白濁貨
ク	見穿刺アルモノ及美	ニ	勝負道具 將棋、骨牌、術球其他	黃金屬
カ	武力細工物 舟	ホ	實物(鳥獸虫魚等ノ類) 銃、銃身	地金銀
キ	佛檀佛具神具類 美術工藝	ヘ	美術工務品 寫真用紙	寶石
コ	文具箱笈文庫 美術工藝	ニ	模形各種ノ及地球儀 天球儀ノ類	金玉細工物
ク	護謄ニテ製シタルモノ各種	ハ	水銀	紙幣
ケ	小間物 和洋共	シ	級外品	郵便切手同業書
カ	琥珀同細工物	ス	第一種 生獸	有價證券
キ	給具並原料 各種	セ	馬	金錢ニ係ル證書類
ク	虫糸	ソ	羊	○明治三十四年六月七日告示第二百三十六號
カ	油肝油、髮油	タ	牛	旅客列車ヲ以テ運送スル託送手荷物、小荷物、死
キ	油並橙皮油	チ	鹿	體、貴重品、小動物ノ運送、保管料及其取扱方左
ク	編物類及類似品	リ	熊	ノ通り定メ明治三十四年六月二十一日ヨリ施行ス
カ	藍靛	ニ	狼	一號鐵道手荷物及小荷物其他運送ノ件ハ同日以
キ	酒類 和洋共(瓶入)象牙同細工物	ホ	山羊	降之ヲ廢止ス
ク	銀(貴金屬寶玉石製及其混作物ヲ除キ)	ヘ	油類	託送手荷物
カ	製作原料ノ如何ヲ問ハズ又其製作	ニ	火口	一 託送手荷物ノ旅客カ其旅行ニ必要ナル物品ニ
キ	シタルモノノ何タルヲ問ハズ此部	ホ	石油類	限リ一等旅客一人ニ付百斤、二等同六十斤、
ク	ニ依ル	ソ	火口	三等同三十斤迄ハ無貨トス
カ	犀角	セ	油布	半貨金ニテ運送スル小兒ノ無貨手荷物斤量ハ
キ	器械(裁縫、醫療、理化學、觀察、電)	タ	油類	前項斤量ノ半トス
ク	器(氣、測量、潜水、寫真、莫大小)	チ	油類	無貨制限外ノ託送手荷物運送ハ左ノ如シ
カ	絹織物及類似品	リ	油類	一 最低運賃五錢トス
キ	絹布類ニテ製作シタルモノ各種	ニ	油類	一 二十五哩未滿(重量一斤ニ付)金一錢
ク	絹布類混作物ノ各種	ホ	油類	一 二十五哩以上五十哩未滿
カ	喫煙具 煙管等 (貴金屬寶玉石ニテ製シ若ク)	ヘ	油類	一 五十哩以上百哩未滿
キ	喫煙具 煙管等 (ハ混作物ノヲ除ク)	ニ	油類	一 百哩以上五十哩未滿ノ増シ毎ニ
ク	鍍金銀器	ホ	油類	一 五十哩以上百哩未滿
カ	眼鏡 各種(眼鏡、雙眼鏡、望遠鏡、顯)	ヘ	油類	一 五十哩以上百哩未滿
キ	眼鏡 各種(眼鏡、雙眼鏡、望遠鏡、顯)	ニ	油類	一 五十哩以上百哩未滿
ク	鍍金銀器	ホ	油類	一 五十哩以上百哩未滿

三	託送手荷物ヲ交付ケタルトキハ同時ニ乘車券	四	物品モ亦前項ノ運賃ニ依ル	三	物、樂器、鏡、眼鏡、小間物等ノ運賃ハ託送
四	ノ裏面ニ(手荷)ノ印ヲ捺捺ス	五	新聞紙及雜誌ノ運賃ハ哩程ノ遠近ニ拘ハラズ	四	手荷物運賃ノ二倍トス
五	無貨制限内ノ手荷物ヲ託送シタル乘車券ニ對	六	重量(外裝物共)一斤ニ付金一錢最低運賃五	五	但最低運賃五十錢トス
六	シ更ニ無貨ニテ手荷物ヲ託送セントストキ	七	馬車運賃ハ一輛一哩ニ付金二十錢最低運賃金	六	紙幣、郵便切手、郵便證書、印紙、有價證券、
七	ハ最初託送スル際停車場ニ於テ其斤量ノ證明	八	四圓トス	七	其他金錢及物件ニ係ル證書類ノ運賃ハ左ノ
八	ヲ受ケン	九	馬車運賃ハ一輛一哩ニ付金三錢最低運賃金	八	如シ
九	五十哩以上ノ乘車券ヲ以テ無貨託送シタル手	一〇	六圓トス	九	但最低運賃一圓トス
一〇	荷物ヲ途中驛ニ取卸シ爲シ更ニ託送ナリサン	一一	自轉車、小兒車、運賃ハ一輛一哩ニ付金二錢	一〇	一 二十五哩未滿 重量一斤ニ付
一一	トストキハ驛メ停車場ニ於テ「手荷物途中	一二	最低運賃四十錢トス	一一	一 二十五哩以上五十哩未滿
一二	取卸證」ヲ受取ルヘシ此證ヲ所持シタル場合ニ	一三	通常小荷物(生活物ヲ除ク)新聞紙、雜誌、及	一二	一 五十哩以上百哩未滿
一三	限リ之ニ記載シタル斤量迄ハ無貨ニテ運送ス	一四	貴重品中生絲、絹絲、絹織物、組物、編物類	一三	一 百哩以上ハ五十哩未滿ノ増シ毎ニ
一四	ヘシ	一五	ハ荷送人ヨリ配送貨ヲ任拂ヒタルトキハ特ニ	一四	一 五十哩以上百哩未滿
一五	小荷物	一六	指定シタル停車場所在地區内及其停車場ヨリ	一五	一 五十哩以上百哩未滿
一六	通常小荷物及證明紙ノ運賃ハ總テ託送手荷物	一七	凡ソ一哩以内ノ地ニ限リ配送ノ取扱ヲ爲ス	一六	一 五十哩以上百哩未滿
一七	ノ運賃ト同一トス	一八	前項ニ於ケル配送貨ハ一箇ニ付重量十斤未滿	一七	一 五十哩以上百哩未滿
一八	行商人及呼賣商人ノ攜帶スル商品(貴重品及	一九	ハ金四錢十斤以上ハ十斤未滿ヲ増ス毎ニ金一	一八	一 五十哩以上百哩未滿
一九	默類ヲ除ク)ノ運賃ハ左ノ如シ	二〇	錢ヲ加フ	一九	一 五十哩以上百哩未滿
二〇	重量二十五斤未滿	二一	死體	二〇	一 五十哩以上百哩未滿
二一	重量二十五斤以上	二二	死體運賃ハ一箇一哩ニ付金二十錢最低運賃四	二一	一 五十哩以上百哩未滿
二二	重量二十五斤未滿	二三	圓トス	二二	一 五十哩以上百哩未滿
二三	重量二十五斤以上	二四	但十二年未滿ノ小兒死體ハ半額トス	二三	一 五十哩以上百哩未滿
二四	重量二十五斤未滿	二五	死體到達後規定ノ時間内ニ引取ラサルコト生	二四	一 五十哩以上百哩未滿
二五	重量二十五斤以上	二六	スル費用ハ別ニ之ヲ請求スヘシ	二五	一 五十哩以上百哩未滿
二六	重量二十五斤未滿	二七	火葬ノ遺骨箱又ハ蓋ノ類ニ納メタルモノ運	二六	一 五十哩以上百哩未滿
二七	重量二十五斤以上	二八	賃ハ總テ託送手荷物運賃ノ二倍トス	二七	一 五十哩以上百哩未滿
二八	重量二十五斤未滿	二九	貴重品	二八	一 五十哩以上百哩未滿
二九	重量二十五斤以上	三〇	白銅貨、生絲、絹絲、絹織物、組物、編物類	二九	一 五十哩以上百哩未滿
三〇	重量二十五斤未滿	三一	ノ運賃ハ託送手荷物運賃ト同一トス	三〇	一 五十哩以上百哩未滿
三一	重量二十五斤以上	三二	但最低運賃二十五錢トス	三一	一 五十哩以上百哩未滿
三二	重量二十五斤未滿	三三	金銀貨、貴金屬地金及細工物、鍍金銀器、寶	三二	一 五十哩以上百哩未滿
三三	重量二十五斤以上	三四	玉石、同細工物、美術工藝品、骨董品、縫紉	三三	一 五十哩以上百哩未滿
三四	重量二十五斤未滿	三五	機、織機、縫紉機、刺子器、帽子、輕キ家	三四	一 五十哩以上百哩未滿
三五	重量二十五斤以上	三六	具、機械ノ類及其他損シ易キモノハ輕量ニシ	三五	一 五十哩以上百哩未滿
三六	重量二十五斤未滿	三七	テ嵩高ナル物品ノ運賃ハ總テ託送手荷物運賃	三六	一 五十哩以上百哩未滿
三七	重量二十五斤以上	三八	ノ二倍トス	三七	一 五十哩以上百哩未滿
三八	重量二十五斤未滿	三九	荷送人ヨリ易損品扱ヲ以テ運送方請求シタル	三八	一 五十哩以上百哩未滿
三九	重量二十五斤以上	四〇		三九	一 五十哩以上百哩未滿

第十二類 旅客及貨物

一 能送手荷物、小荷物、行商人及呼賣商人ノ携帶スル商品ニ對シテ保管料ハ一箇ニ付二十四時間若クハ其未滿ナリテ左ノ割合ニ依ル

一 重量三十斤未満 金二錢

一 同三十斤以上百斤未満 金四錢

一 同百斤以上 金六錢

二 貴重品ノ保管料ハ第一項ノ二倍トス

三 馬車ニ對シテ保管料ハ一箇ニ付二十四時間若クハ其未滿ナリテ左ノ割合ニ依ル

四 人力車、自轉車、小兒車ニ對シテ保管料ハ一箇ニ付二十四時間若クハ其未滿ナリテ左ノ割合ニ依ル

雜則

一 運賃ハ錢位未滿ニ錢位ニ切上ケ

二 重量ハ一斤未滿ニ一斤ニ切上ケ

三 哩程ハ一哩未滿ニ一哩ニ切上ケ

○明治三十四年六月十五日告示第百五十三號

當廳所管鐵道貨物中北海道産物未製品ノ運賃ハ通常運賃ノ半額トシ明治三十四年六月二十一日ヨリ實施ス

但明治三十一年(六月)告示第百五十二號及同三十三年(三月)告示第七十三號ハ同日ヨリ廢止ス

○明治三十四年六月十五日告示第百五十四號

明治三十四年(八月)當廳告示第百五十三號北海道産物未製品名左ノ通り相定ム

麥、豆、蕎麥、玉蜀黍、粟、黍、稗、花胡麻、蕎麥、藍種子、綠、林檎、蘿蔔、胡蘿蔔、牛蒡、燕窩、瓜、甘藷、茄子、馬鈴薯、芋、葱、苗木、苳苗、麻、苧麻、蕪菁、菜葉、菜葉、菜葉、蘭草、蘭、枇杷

○明治三十四年六月二十三日告示第百六十八號

當廳所管鐵道輕便鐵道貨物日左記ノ通り相定ム

第一級 草類、藻類

第二級 木ノ葉、干物類、系瓜、蕪菁、經木、綿、毛、山羊豚中等ノ

第三級 藍(藍細セサル)、燈心、蘭及蘭子、艾、毛各種、生皮、毛糸、木細工物、竹細工物、穀類

高級品 羽毛、假髮製造用、紙細工品、硝子類、海綿、細工物、家具類、佛壇、繭各種、帽子各種、人形及動物模造品、花、穀類、具、靴、襪、手袋、箱

○明治三十四年八月二十八日告示第百五十四號

當廳所管鐵道火運賃左ノ通り相定メ上川線天鹽線十勝線ハ明治三十四年九月十日ヨリ釧路線ハ同年九月二十日ヨリ實施ス

但シ貨物列車ヲ運轉セサル區間ハ都合ニ依リ運送取扱ハサレサルベシ

火運賃

金一錢二厘

百斤ニ付一哩

三千五百斤未滿ハ三千五百斤分ヲ取ル

但シ火運賃額運送規定第十條第一號運賃ノモ一ノ限リ左記割合トス

一 小銃用安全彈藥筒、雷管若クハ爆管ノミナ裝著セル銃砲ノ空藥莖、安全導火線、起爆劑ヲ附セサル黄色藥

金一錢二厘

五百斤未滿ハ五百斤分ヲ取ル

一 五十斤以下ノ火藥(ダイナマイト)綿火藥等製發火藥類ヲ除ク)

金六錢

一口ニ付一哩

火運賃著手數料

金一圓(發著者)

但シ火運賃額運送規定第十條第一號運賃ノ一ノ限リ左記割合トス

一 小銃用安全彈藥筒、雷管若クハ爆管ノミナ裝著セル銃砲ノ空藥莖、安全導火線、起爆劑ヲ附セサル黄色藥

金五十錢(發著者)

一口ニ付

一 五十斤以下ノ火藥(ダイナマイト)綿火藥等製發火藥類ヲ除ク)

金五十錢(發著者)

一口ニ付

大貨物運賃表第二第五第六後段第十三第十六第十七第十八ハ火運賃額運取ニ之ヲ準用ス

但シ運送火藥ニシテ一車ヲ要スルモノハ大貨物貨切扱ノ例ニ準ス

○明治三十四年十一月十六日告示第百九十一號

當廳所管鐵道各驛ヨリ發送シ北海道鐵道株式會社線手宮、小樽、札幌、室蘭ノ四驛ニ到着スル貨切扱一級品木材(板類ヲ除ク)及摺附木ノ積木、摺附木ノ箱未製品ノ三品引運賃割合左記ノ通り相定メ明治三十四年十一月二十一日ヨリ實施ス

(三十五年四月告示第百六十四號ヲ以テ本文中改正)

瀧川納内間各驛ヨリ發送スルモノハ一噸一哩金二錢

旭川士別及落合間各驛ヨリ發送スルモノハ同金一錢八厘

伊納驛ヨリ發送スルモノハ一噸一哩金三錢(三十五年一月告示第六號ヲ以テ本項追加)

○明治三十四年十二月十一日告示第百五十三號

當廳所管鐵道釧路線白樺驛ヨリ釧路驛ニ到着スル昆布、綿粕、魚油、木材(一級品ニ屬スル)木炭石

第十二類 旅客及貨物

一 請求書ニ發送明細書ヲ添附シ割戻金ヲ請求ス

爲ス

第六條 貨主此ノ規程又ハ承諾書ノ條項ニ違背シタルトキハ特約運送ヲ取消シ運賃ノ割戻ヲ爲ササルコトアルベシ

第七條 貨物運賃割戻内規ハ鐵道部長之ヲ定ム

(第一號書式)

貨物特約運送申請書

一 品名

一 發着

一 運送期間

一 出貨噸數(約何千噸)

右ノ貨物申込期限内ニ運送ノ上ハ貨部ノ規程ニ依リ運賃割戻相成度此段申込候也

年月日

住所

貨主氏 名 印

北海道鐵道部長宛

(第二號書式)

貨物特約運送承諾書

一 品名

一 發着

一 運送期間

一 出貨噸數(約何千噸)

明治何年何月何日付御申込相成候前記貨物運賃割戻ノ儀承諾ス候也

年月日

住所

北海道鐵道部長氏名印

第十二類 旅客及貨物

貨物ノ積卸ハ貨主ノ負擔トス  
 一 貨主鐵道ニ關スル規則又ハ此ノ承諾書ノ條項ニ違背シタルトキハ何時ニテモ此承諾書ヲ取消シ運賃ノ割戻ヲ爲ササルモノトス  
 一 自己ノ名義ヲ用ヒシテ貨物ヲ託送シタル場合亦前項ニ同シ  
 一 自己ノ名義ヲ以テ他人ノ貨物ヲ託送シタル場合亦同シ  
 (第三號書式)  
 特約貨物發送明細書  
 發送月日 品名 發着 驛車 號車 數噸 貨金  
 右ノ通リ發送候ニ付證明相成度候也  
 月日  
 驛長 宛 特約者 姓名  
 (第四號書式)  
 貨物運賃割戻請求書  
 一 金 出賃噸數 割戻金請求書  
 一 運賃噸數  
 一 期 間  
 一 特約運送承諾年月日  
 右請求候也  
 年月日 住所番地 貨主 何 誰  
 北海道鐵道部部長宛

○明治三十一年七月十六日訓第二百八十二號(鐵道部宛)  
 當廳所管鐵道貨物運賃割戻規程取扱手續左ノ通相定メ運輸開業ノ日ヨリ施行ス  
 第一條 鐵道貨物運賃割戻規程ニ依リ割戻ヲ爲シタルトキハ運輸課長ハ契約書ノ添付關係驛長ニ送付スヘシ  
 第二條 驛長ハ割戻特約貨主ノ規則其他不正ノ所爲アリト認ムルトキハ直ニ具申スヘシ  
 第三條 驛長ヲ經由スル運賃割戻金請求書ハ驛長調査認印ノ上差出スヘシ  
 第四條 割戻特約貨物ノ託送書及送狀等ニハ記事欄内ニ(特約)ノ二字ヲ朱書セシムヘシ  
 第五條 貨物運賃特約割戻ニ關スル件ハ鐵道部長限リ處理スルコトナリ得  
 (第一號書式)  
 特約貨物(發送到著)月報  
 一 貨物品名 特約者 姓名  
 月日 數量 發着 驛車 號車 貨金 備考  
 右報告ス  
 運輸課長宛  
 月日 驛長  
 ○明治三十四年十二月二十日訓第七十七號(鐵道部宛)  
 貨物運賃後拂取扱規程  
 貨物運賃後拂取扱規程

第一條 明治三十一年七月告示第六十三號貨物運賃割戻規程ニヨリ特約ナシタル貨物運賃ハ後拂トナス得但此場合ニ於テハ相當擔保ヲ提供セシムルモノトス  
 第二條 貨物運賃後拂ニ關スル件ハ北海道鐵道部長限リ處理スル事ナリ得  
 ○明治三十四年十二月十一日告示第五百三十四號當廳所管鐵道ニ託送スル通常取扱貨物ニハ各箇毎ニ荷送人ニ於テ其ノ外面若クハ荷札面ニ記載若クハ荷送人氏名宛名發着驛車場名ヲ明瞭標記スルニテフサレハ其託送ヲ受理セス  
 ○明治三十一年四月十三日訓第三百三十二號(鐵道部宛)  
 「チエツキ」保管規程左ノ通相定運輸開業ノ日ヨリ施行ス  
 「チエツキ」保管規程  
 一 「チエツキ」ハ小荷物掛(小荷物掛ナキ驛ニ於テハ驛長)ニ於テ之ヲ保管スヘシ  
 一 「チエツキ」ハ鎖鑰アル運賃ノ容器ニ設置スヘシ  
 一 但發着積置ナル驛ニ於テハ取替上特ニ注意ヲ加ヘ便宜ノ場所ニ掛置クコトナリ得  
 一 「チエツキ」ハ發着毎ニ其番號及員數ヲ「チエツキ」發着留簿ニ記載スヘシ  
 一 發着後取入ナキ爲メ一時預リ置クヘキ手荷物ニ附著シタル「チエツキ」ノ番號ハ前項ノ如ク帳簿ニ記載シ其下ニ朱線一線ヲ引渡後荷一線ヲ割スヘシ  
 一 每日終列車運轉後「チエツキ」現在數ヲ帳簿ニ照合スヘシ  
 一 「チエツキ」ハ前三日間ニ於ケル發着平均噸數ニ依リ必要ト認メタル員數ノ外ハ之ヲ翌日ノ初

發列車ニテ瀧川、旭川兩驛ノ内便宜ノ驛ニ同送スヘシ若シ不足ト認メタルトキハ前記兩驛ノ内ニ請求スヘシ  
 一 「チエツキ」ノ請求ヲ受ケタル場合ニハ適宜ノ送狀ヲ添附シ直チニ同送スヘシ  
 一 旅客ニ於テ「チエツキ」ヲ紛失セシトキハ價納金(一箇ニ付金十錢)徵收ノ手續ヲ了シ保證狀ヲ添ヘ運輸課ニ届出スヘシ  
 ○明治三十五年十二月三日告示第七百十號當廳所管鐵道ト日本鐵道株式會社日本郵船株式會社及北海道鐵道株式會社ニ於テ旅客及運送貨物ノ運送運輸ヲ開始シ左記各項ニ依リ十二月五日ヨリ施行ス  
 但當廳所管鐵道ト北海道鐵道株式會社トノ二線運賃ノ場合ニハ適用セス  
 第一 旅客手小荷物及運送貨物ハ左記停車場及取扱所ニ限リ取扱フモノトス  
 北海道鐵道部 瀧川、深川、旭川、落合、士別  
 北海道鐵道株式會社 小樽、札幌、岩見澤、砂川、追分  
 日本郵船株式會社 青森、函館、室蘭、日本鐵道株式會社 上野、赤羽、大宮、高崎、宇都宮、小山、白河、郡山、福島、岩沼、仙臺、一ノ關、盛岡、久喜、尻内、水戸、新宿、我孫子、熊谷、前橋、平、中村  
 運送旅客切符ノ通用期限ハ線路ヲ通算シ其實噸數ニ應ジ左ノ通りトス  
 一 百哩未満 二日間  
 一 百哩以上ハ百哩未満ヲ増ス毎ニ一日

第十 紙細工、造花、漆器、硝子器、帽子、靴、家具器械ノ類及其他損シ易シキカ又ハ輕量嵩高ナル物品ノ運賃ハ第八項ノ二倍トス最底運賃金四十錢

第九 俱最低運賃金二十錢  
 新聞紙及雜誌ノ運賃ハ距離ノ遠近ニ拘ハラズ運送線路ヲ通シテ一斤ニ付金一錢五厘最底運賃金五錢

第八 有貨手荷物運賃及小荷物運賃ハ距離ノ遠近ニ拘ハラズ左ノ割合ニ依リ徵收ス  
 北海道鐵道部 一斤ニ付金一錢  
 北海道鐵道株式會社 同 金一錢  
 日本郵船株式會社 同 金一錢四厘  
 日本鐵道株式會社 同 金一錢六厘

第七 運送貨物ハ別ニ定ムル區域内ニ於ケル受取人住所迄運送スルモノニ限リ取扱フモノトス  
 第三 室蘭函館間ヲ七十九哩函館青森間ヲ六十哩トス  
 第四 交通閉塞ノ場合又ハ切符面指定ノ船室若クハ車室ナクシテ乗船若クハ乗車シ能ハサル場合ハ停泊日數ノ證明ヲ受クヘシ然ラサルハ切符面ノ通用期限ヲ延長スルコトナリ得ス  
 第五 運送旅客切符ノ各片ハ所管係員ニ於テ切取リ集札スルモノニシテ旅客自カラ切取リ取リタルモノハ無効トス  
 第六 手荷物無貨輸送斤量ハ一等百斤二等六十斤三等三十斤トス  
 第七 運送貨物ハ別ニ定ムル區域内ニ於ケル受取人住所迄運送スルモノニ限リ取扱フモノトス  
 第十一 運送貨物ハ別ニ定ムル區域内ニ於ケル受取人住所迄運送スルモノニ限リ取扱フモノトス  
 第十二 運送貨物ハ箇數ニ依リ運賃ヲ計算シ一箇五十斤若クハ五十斤未満者ニ距離ノ遠近ニ拘ハラズ左ノ割合ニ依リ徵收ス  
 北海道鐵道部 五十斤ニ付金十五錢  
 北海道鐵道株式會社 同 金二十五錢  
 日本郵船株式會社 同 金四十錢  
 日本鐵道株式會社 同 金五十錢

第十三 死體貴重品及生動物危險品荷造セサル車輛及一箇ノ量二百斤以上若クハ才積四十立方尺以上又ハ長サ十五尺以上ノ物品ハ小荷物及運送貨物トシテ取扱ハサルモノトス

●財務  
 ○明治三十二年三月三十日訓第八十四號(北海道鐵道部宛)  
 鐵道用品計算事務規程別冊之通相定ム  
 (別冊)  
 鐵道用品計算事務規程  
 第一章 總則  
 第二章 購入  
 第三章 賣拂  
 第四章 製作及改良修理  
 第五章 價格及附隨費  
 第六章 計算報告

鐵道用品會計事務規程

第一章 總則
第一條 鐵道用品會計事務規程及敷設會計ニ...

第二章 購入

第三條 鐵道用品會計ヲ以テ購入スル物品ハ...

第三章 貯藏

第七條 倉庫課ニ於テ前條物品ノ外尚ホ...

第四章 製造

第十一條 倉庫課ニ於テ製造業及敷設會計ノ...

第五章 價格及附隨費

第二十三條 外國注文品ノ其物品ノ代價運賃...

第六章 損耗

第二十四條 內地ニ於テ購入スル物品ハ...

第七章 附屬費

第二十六條 用品資金會計ニ於テ其所属物品ノ...

第八章 計算報告

第三十條 用品資金會計ノ附屬諸費トシテ...

第九章 附則

第三十二條 倉庫課ニ於テ物品資金會計所屬...

シ但事業會計所屬物品(使用物品ヲ除ク)ノ改修

ハ各課ニ於テ直ニ本文ニ準シ注文ノ手續ヲ...

第三章 貯藏

第十三條 倉庫課ニ於テ物品資金會計所屬ノ...

第四章 製造

第十四條 倉庫課ニ於テ製造業及敷設會計ノ...

第五章 價格及附隨費

第二十三條 外國注文品ノ其物品ノ代價運賃...

第六章 損耗

第二十四條 內地ニ於テ購入スル物品ハ...

第七章 附屬費

第二十六條 用品資金會計ニ於テ其所属物品ノ...

第八章 計算報告

第三十條 用品資金會計ノ附屬諸費トシテ...

第九章 附則

第三十二條 倉庫課ニ於テ物品資金會計所屬...

第十章 附則

第三十三條 倉庫課ニ於テ第十條(用品資金所屬...

第四十條 計理課及倉庫課ニ於テハ制規ノ受拂勘定ニ屬スル諸帳簿又ハ鐵道部長ニ於テ定メタル補助簿ヲ備ヘ物品ノ買入保管轉換ニ屬スル一切ノ計算ヲ登載スヘシ

第四十一條 汽車課ニ於テハ鐵道部長ニ於テ定メタル工場ノ諸帳簿ヲ備ヘ物品ノ製作改製及修理ニ屬スル一切ノ計算ヲ登載スヘシ

第四十二條 本規程ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

第四十三條 本規程第二十七條及第二十九條ニ掲ケル既往三箇年度間ノ平均ハ其年限ノ滿ツル迄特ニ經何ノ上其前掛掛乘申テ定ムヘシ

○明治三十二年六月三十日訓第三百七十號(北海道鐵道部宛)

北海道官設鐵道所屬官有財產取扱規程左ノ通り相定ム

但シ從前ノ規程ニ依リ調製シタル帳簿及圖面ハ此規程ニ依リ更ニ調製スヘシ

第一條 北海道官設鐵道所屬官有財產取扱規程ノ管理規則ニ從ヒ此規程ニ依リ取扱フヘシ

此規程ノ外官有財產ニ關シ特別ノ規程アルモノハ各其定ムル所ニ依ルヘシ

第二條 北海道官設鐵道所屬官有財產ハ鐵道部長ニ之ヲ保管スヘシ

第三條 鐵道部長ハ官有財產整理ノ爲メ原簿及圖面ヲ備フヘシ但シ圖面ノ必要ヲ認メサルモノハ之ヲ省略スルコトヲ得

第四條 官有財產ノ賣拂讓與交換貸付移轉取戻又ハ種目名稱若クハ構造ノ變更ヲ爲サントスルトキハ其事由ヲ具シ長官ノ指揮ヲ請フヘシ但シ百圓

未滿ニ於テ取戻種目名稱若クハ構造ノ變更ハ鐵道部長限リ之ヲ決定スルコトヲ得(三十五年六月訓第六百三十六號ヲ以テ但シ追加)

第五條 官有財產ノ増減異動ヲ生シタルトキハ其事由ヲ詳記シ長官ニ報告スヘシ

第六條 鐵道部長ハ明治三十年六月北海道廳令第三十條ノ格式ニ依リ毎年三月三十一日現在ノ官有財產總目録ヲ調製シ翌月二十日迄ニ內務部ニ送付スヘシ

第七條 官有財產ノ種別及原簿其他ノ格式ハ別冊ニ依ルヘシ

第八條 此規程ノ取扱手續ハ鐵道部長ニ之ヲ定ムヘシ

附則

第九條 明治三十一年(一月)訓第三號鐵道部所屬官有財產取扱規程及同取扱手續ハ廢止ス

凡例

一 官有財產原簿  
本簿ハ年度ニ拘ラス繼續使用スルモノトス

二 官有財產ニ増減異動ヲ生シタルトキハ其都度登錄スヘシ

三 本簿ハ部類ニ依リ之ヲ別チ且ツ主ナル財產ト附屬物トヲ分ツヘシ但シ同部中様式ノ異ナルモノハ別冊トナスモ妨ナシ

四 種目ハ一應毎ノ口座ヲ設ケ附屬物ハ將來ノ増減ヲ見計ヒ適宜ノ口座ヲ設ケムヘシ

五 摘要ノ欄ニハ各欄ニテ盡キサル必要ノ事項ヲ洩レナク記載スヘシ登記法ニ依リ登記ヲ受ケ

六 備考ノ欄ニハ初メ記載シタル原簿ニ對シ異動増減等ノ事項ヲ記載シ後來ノ參考ニ決ケル所ナキ様注意スヘシ

七 増減ノ欄ハ建築製造及買入ノ實價及數量ヲ掲ケ其實價ナキモノハ評定價格ヲ記載スヘシ但シ代價ノ屑若クハ價格ノ種別(建築費又ハ買入價若クハ評定價)ヲ記載スヘシ

八 減少シタル財產ハ其原簿ノ記載シテ確定價格及實價ノ備考ニ記シ置クヘシ

九 現在高ノ欄ニハ増減異動引シタル現在ノ數量價格ヲ掲ケヘシ

十 凡テ増ハ黒字トスヘシ

十一 種目ノ名稱ヲ變更(申減官舎リ乙號官舎トシ又ハ湯浴所ヲ物置トスルノ類)セシトキハ舊名稱ニ朱線ヲ劃シ新名稱ヲ傍記シ改稱ノ事由年月日等ハ備考ニ詳記スヘシ

十二 官有財產異動報告例ハ本簿登記法ニ適用ス

一 土地電線、軌道、土工ノ區間ハ營業區域ニヨリ區分スルモノトス但シ線路以外ノモノハ別ニ其口取ヲ爲スモノトス

二 官有財產異動報告

一 規程第五條ノ増減異動報告ハ本例ニ依リ調製スヘシ

二 價格ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ掲ケヘシ

一 他種ヨリ受領シタルモノニシテ定リタル價格アルモノハ其價格

一 附屬物ノ價格主ナル財產ニ包含スルモノハ記事ノ欄ニ其事由ヲ傍記スヘシ

一 新設又ハ増設ニ係ルモノハ其建築費

一 買上ニ係ルモノハ其買上代價

二 數量ハ其物件ノ種類ニ依リ様式ニ例示スル如ク其右肩ニ坪、箇等單位ヲ附記スヘシ但シ坪數ハ才位ニ間數ハ才位ニ止ムヘシ

三 買上タルモノニシテ契約ニ特別ノ條件アルモノハ其條件ヲ記事ノ欄ニ記載スヘシ

四 増減年月日欄ニハ其事由ヲ決定シタル年月日ヲ掲ケヘシ

五 土地ハ一應諸建物ハ一棟船船ハ一艘鐵道線路ハ一應毎ニ之ヲ掲載シ段別ハ總坪數ニ改算順次掲記スヘシ

六 種目及附屬物ノ欄ニハ種目表ニ示ス區分ニ依リ記入スヘシ

圖面

一 官有財產原簿ニ附屬スル圖面ハ總テ平面圖トス但シ車輛及船舶ハ圖面ヲ省略スルコトヲ得

二 地圖ハ原簿、土地ノ部ニ附屬スルモノニシテ土地一筆毎ニ調製スルモノトス但シ數筆ヲ合併シテ調製スルモ妨ナシト雖モ必一筆ノ坪數ヲ明記スヘシ

三 地圖ニハ左ノ事項ヲ明記スヘシ

一 所在ノ國郡縣町村字名等

二 境界線及其長サ

三 境界線ノ位置及其物質

四 境界線内ノ面積並ニ其面積算出ノ方法及基礎

五 境界線内ノ地景及土地ニ附屬スル財產(井戸石垣ノ類)ノ名稱、形狀、寸法並ニ境界線外附近ノ地景

六 磁針方位

七 建造物平面圖ハ原簿家屋ノ部又ハ營造物ノ部若クハ鐵道ノ部ニ附屬スルモノニシテ建造物

一 棟又ハ一箇所毎ニ調製スルモノトス

二 橋梁、コルベルト、伏樋、隧道、波戸、露側、欄干、乘車場、轉車臺、給水器、信號器、石炭臺、井戸、電線ポイント小屋等ノ如キ建造物ニシテ平面ノ形狀單一ナルモノハ建造物平面圖ノ省略スルコトヲ得但シ停車場敷地内平面圖及其他ノ敷地内平面ニハ之ヲ掲載スヘシ

三 建造物平面圖ニハ其所在地並ニ地籍地籍ノ名稱、形狀、構造、寸法ヲ詳記シ假令ハ家屋ノ如キハ其柱、出入口、窓間仕切土間、板敷、疊敷戸欄押入、爐、戸、障子、棧側等ノ位置ヲ明ニスヘシ

四 停車場、敷地及平面圖及其他ノ敷地内平面圖ハ區域内ニアル諸建造物ノ名稱、位置、形狀、寸法及磁針方位ヲ示スモノトス但シ停車場敷地及平面圖ノ縮尺一吋一釐トス

五 線路平面圖ハ原簿鐵道ノ部ニ附屬スルモノニシテ開業區域毎ニ調製スルモノトス其縮尺ハ一吋六釐(センチメートル)トス但シ砂利線ノ如キ開業線路ニ關係セサルモノハ其一區域毎ニ調製スルモノトス線路平面圖ハ軌條布設ノ工事ヲ竣功シタルトキ調製スルモノトス

六 線路平面圖ニハ左ノ事項ヲ明記スヘシ

一 國郡縣町村ノ境界

二 磁針方位

三 本支線中心線(赤色ヲ以テ形ル)及其起點、距離(一哩ノ四分一毎ニ細別ス)

四 停車場ノ名稱、位置及中心哩程

五 橋梁、コルベルト、伏樋、隧道、露側、波戸、踏切道、欄干及其他ノ附屬物ノ位置名稱番號及其寸法

六 タルトキハ摘要欄ニ其年月日及番號ヲ記載スヘシ

七 備考ノ欄ニハ初メ記載シタル原簿ニ對シ異動増減等ノ事項ヲ記載シ後來ノ參考ニ決ケル所ナキ様注意スヘシ

八 増減ノ欄ハ建築製造及買入ノ實價及數量ヲ掲ケ其實價ナキモノハ評定價格ヲ記載スヘシ但シ代價ノ屑若クハ價格ノ種別(建築費又ハ買入價若クハ評定價)ヲ記載スヘシ

九 減少シタル財產ハ其原簿ノ記載シテ確定價格及實價ノ備考ニ記シ置クヘシ

十 現在高ノ欄ニハ増減異動引シタル現在ノ數量價格ヲ掲ケヘシ

十一 凡テ増ハ黒字トスヘシ

十二 種目ノ名稱ヲ變更(申減官舎リ乙號官舎トシ又ハ湯浴所ヲ物置トスルノ類)セシトキハ舊名稱ニ朱線ヲ劃シ新名稱ヲ傍記シ改稱ノ事由年月日等ハ備考ニ詳記スヘシ

十三 官有財產異動報告例ハ本簿登記法ニ適用ス

一 土地電線、軌道、土工ノ區間ハ營業區域ニヨリ區分スルモノトス但シ線路以外ノモノハ別ニ其口取ヲ爲スモノトス

二 官有財產異動報告

一 規程第五條ノ増減異動報告ハ本例ニ依リ調製スヘシ

二 價格ハ左ノ區別ニ從ヒ之ヲ掲ケヘシ

一 他種ヨリ受領シタルモノニシテ定リタル價格アルモノハ其價格

一 附屬物ノ價格主ナル財產ニ包含スルモノハ記事ノ欄ニ其事由ヲ傍記スヘシ

一 新設又ハ増設ニ係ルモノハ其建築費

一 「コルベルト」トハ最小内徑、二尺以上ノ暗渠及架桁セサル開渠ヲ總稱ス

二 伏樋トハ最小内徑二尺未滿ノ暗渠ヲ云フ

三 倉庫トハ部用品ヲ容ルル建物ヲ云フ

四 荷物庫トハ運輸上公衆ノ荷物ヲ容ルル建物ヲ云フ

五 橋梁ノ起點ハ線路基點ヨリ起算シ橋梁最近橋臺ノ外端ニ至ル距離ヲ云フ

六 停車場中心トハ「プラットフォーム」ニ新設當時ノ中心ニ最近ノ近キ柱ノ位置ヲ云フ

七 石垣トハ土留石垣ト連綴スルモノハ地面上線路面ノ高サノ三倍ノ長サヲ以テ分界トス

八 橋臺橋脚ノ平均高ハ最下層ヨリ起算スルモノトス

九 橋臺全徑間トハ兩側橋臺間ノ距離ヲ云フ

(別冊)(第一號)(三十三年十二月訓第八百四十號ヲ以テ本格式中改正)

官有財產種目表

○木表ニ掲載ナキモノハ木表種目及附屬物ノ例ニ從ヒ適宜其種目及附屬物名ヲ定ムヘシ

○附屬物ハ一種目毎ニ附屬セシム





第十二類 財務

(營造物ノ部)													
第 號 電 線													
登 簿 年 月 日	登 簿 番 號	摘 要	位 置			構 造 種 類	增 減 年 月 日	增 減		現 在 高		備 考	
			起 點	經 過	終 點			延 長	價 格	延 長	價 格		

第 號 波 戸													
登 簿 年 月 日	登 簿 番 號	摘 要	所 在 地	構 造	增 減 年 月 日	增 減		現 在 高		備 考			
						延 長	價 格	延 長	價 格				

線路土工 區間															
登 簿 年 月 日	登 簿 番 號	摘 要	切 取	築 堤	添 付	道 路 付 替	川 溝 付 替	踏 切 道	何 何	何 何	何 何	增 減 年 月 日	合 計	價 格	備 考

1401

第十二類 財務

官有財産原簿様式															
土 地 區 間															
登 簿 年 月 日	登 簿 番 號	摘 要	所 在 地	線 路 敷 地	停 車 場 敷 地	工 場 敷 地	何 何 敷 地	何 何 敷 地	何 何 敷 地	增 減 年 月 日	增 減		高 在 現		備 考
											坪 數	價 格	坪 數	價 格	

(家屋ノ部)															
第 號 官 舎															
登 簿 年 月 日	登 簿 番 號	摘 要	所 在 地	構 造	增 減 年 月 日	增 減		現 在 高		備 考					
						坪 數	價 格	坪 數	價 格						

(營造物ノ部)「電線ヲ除ク」															
第 號 停 車 場 (或ハ何 何)															
登 簿 年 月 日	登 簿 番 號	摘 要	所 在 地	構 造	增 減 年 月 日	增 減		現 在 高		備 考					
						坪 數	價 格	坪 數	價 格						

1400

(鐵道之部)

第 號 隧道 前後驛名

登簿年月日	登簿番號	摘要	位置起點	構造及厚			增減年月日	增減延長	增減價格	現在高		備考
				アーチ	側壁	インバート				延長	價格	

(鐵道之部)

第 號 機關車

登簿年月日	登簿番號	摘要	所在地	構造種類	軌輪ニアル重量	總重量	軸距	炭水車重量	炭水車軸距	貯炭量	製造所及年月日	增減年月日	增減價格	現在價格	備考	

(鐵道ノ部)

第 號 車

登簿年月日	登簿番號	摘要	所在地	構造種類	外部		内部		積量		製造所及年月日	增減年月日	增減價格	現在高	備考	
					防衝器ノ長	長	幅	長	幅	人員						噸數

(鐵道之部)

第 號 橋梁 前後驛名 川名

登簿年月日	登簿番號	摘要	位置起點	徑間長數	構造物質	橋桁	橋脚	增減年月日	增減全徑間延長	增減價格	現在高		備考
											延長	價格	

(鐵道之部)

第 號 コルヘルト 前後驛名

登簿年月日	登簿番號	摘要	位置中心	構造	徑間長數	增減年月日	增減延長	增減價格	現在高		備考
									延長	價格	

(鐵道之部)

第 號 伏懸 前後驛名

登簿年月日	登簿番號	摘要	構造	梯列物數	最小徑	增減年月日	增減延長	增減價格	現在高		備考
									延長	價格	

(鐵道ノ部)														
登錄年月日	摘要	本線路		附屬線路		延長合計	軌條重量	枕木數量	軌道三叉	軌道二叉	增減年月日	增減價格	價格	備考
		單線	複線	避線	特別									

第 號 船舶														
登錄年月日	登錄番號	摘要	定製地	噸力	數間	馬尺	平成年月日	增減		現在高		備考		
								數量	價格	數量	價格			

第 號 何何附屬物														
登錄年月日	登錄番號	摘要	名稱	建造物質	平成年月日	增減		現在高		備考				
						數量	價格	數量	價格					

(表中公印ノ換テ) (泰記以下同シ)  
 明治 年 月 日報告  
 北海通官設鐵道所屬官有財産増減異動報告  
 土地及附屬物  
 課長

所在地區間	原簿登記番號	種目	附屬物	建造物質	數量	價 格	增 年 月 日	備 考
何國何郡何村何番地	0	何何數地	何橋	何	0	01000	0	從前何處何官倉附屬ノ鐵圍籬案據ニ付土地ノ所屬ニ租入何人何者ヨリ買取地ニ移築ス 何ノ唯ヨリ上
何國何郡何町何番地	0	何何數地	何	何	0	01000	0	價格ハ土地ノ價格ニ包含ス
何國何郡何町何番地	0	何何數地	何	何	0	01000	0	何國何郡何町何番地ニ付取致 不用ニ付取致又ハ移築ス 何國何郡何町何番地ニ付取致 土地ニ附屬シテ 價格ハ土地價格ニ包含ス
何國何郡何町何番地	0	何何數地	何	何	0	01000	0	何何ニ付何何ハ 同 上 買取價格ハ土地價格ニ包含ス 何何ニ付何何ハ

北海道官設鐵道所屬官有財產增減異動報告

明治年月日報告

家屋及附屬物

課長

所在地	原簿登記番號	種目	附屬物	構造物質	數量	價格	增減年月日	記事
何國何郡何町何字何番地	0	何何官舍		木造平家建坪	0	0.000	0 0	何何ノ爲新築
—ク—	0		物	木造	同	0.000	0 0	同上
—ク—	0		何	何	同	0.000	0 0	同上
△何國何郡何町何字何番地	0	何番官舍		△何造坪△	0△	0.000	0△0	何何ニ付何何へ賣拂△
△—ク—	△0		△何	何	組△	0.000	0△0	同上△
△—ク—	△0		△何	何	箇△	0.000	0△0	同上△
何國何郡何町何字何番地	0	何何官舍		木造二階建	0△	0.000	0 0	何何ニ付一部取毀蓋建坪何坪△
—ク—	0		浴室	木造	0△	0.000	0 0	同上又何何ニ付取毀蓋建坪何坪△
何國何郡何町何字何番地	0	何何官舍		何何何坪	0	0.000	0 0	何何ヨリ讓受又へ交換
—ク—	0		何	何	何組	0.000	0 0	同上

北海道官設鐵道所屬官有財產增減異動報告

明治年月日

營造物及附屬物

課長

所在地	原簿登記番號	種目	附屬物	構造	數量	價格	增減年月日	記事	
何國何區何町何字何番地	0	何何廳舍	裏門	木造	箇所	0.000	0 0	何何ニ付新築	
—ク—	0		哪筒小屋	木造	坪	0.000	0 0	同上	
—ク—	0		下便所	木造	同	0.000	0 0	同上又何何何何廳舍附屬物ノ移築	
何國何區何町何番地	0	何何工場		石造二階建	同	0.000	0 0	何何ニ付建増蓋建坪幾何	
—ク—	0	何何工場		同上	同	0.000	0 0	何何ヨリ買入	
—ク—	0		土橋		箇所	0.000	0 0	同上價格ハ工場價格ニ包含ス	
—ク—	0		何塀		間	0.000	0 0	同上	
何國何郡何村何字何番地	0	何何廳舍		石造	坪	評價	0.000	0 0	價格ハ工場ニ包含ス
—ク—	0		門番所	何造	坪	0.000	0 0	從來何何製造場ニ使用ノ處何何ノ爲何何廳舍ニ變更	
△何國何郡何村何字何番地	0	△何何製作場		石造	坪	0.000	0△0	△不用ニ屬シ何何廳舍使用變更	
△—ク—	0		△門番所	△何	何	0.000	0△0	△同上	

北海道官設鐵道所屬官有財産増減異動報告											
明治 年 月 日 報告			電 線 及 附 屬 物						課 長		
起 點	位 置		原簿登 記番號	種 目	附 屬 物	構造種類	延長又ハ數量		價 格	増減年月日	記 事
	終 點	經 過					延 長	數 量			

北海道官設鐵道所屬官有財産増減異動報告													
明治 年 月 日			橋 梁 コルベルト 伏 樋 及 附 屬 物						課 長				
所在地及前後驛名	原簿登 記番號	位 置	種 目	附 屬 物	徑 間		全長又ハ 數 量	構 造 物 質			橋 梁 價 格	減 增 年 月 日	記 事
					長	數		桁	橋脚	基礎			

北海道官設鐵道所屬官有財産増減異動報告													
明治年月日報告				隧道受附屬物						課長			
所在地		原簿登	種目	附屬物	構造物質				數量	價格	増減年月日	記事	
前後驛名	起點位置	記番號			アーチ	側壁	インバート	其他					

北海道官設鐵道所屬官有財産増減異動報告																		
報告年月日				車輛及附屬物						何課長何官氏名								
所在地	原簿登	種目	附屬物	構造種類				働輪上ニアル重量	總重量	機關車防衝器間ノ長	炭水車重量	炭水車防衝器間ノ長	貯炭量	製造所及年月日	數量	價格	増減年月日	記事
				働輪數	總輪數	制式	其他											

北海道官設鐵道所屬官有財產增減異動報告

報告年月日

何 何 車

何課長官氏名

所在地	原簿登 記番號	種 目	所屬物	構 造	防衝器 間ノ長	內 部		外 部		積 量		製造所及 年月日	數 量	價 格	增 減 年月日	記 事
						長	幅	長	幅	人員	噸數					

北海道官設鐵道所屬官有財產增減異動報告

明治年月日報告

線 路 土 工

課 長

所在地 及 區 間	原簿登 記番號	切 取	築 堤	土留石垣	溝 付	道路付替	川流付替	踏切道			合 計	價 格	異 動 年月日	記 事

北海道官設鐵道所屬官有財產增減異動報告																	
明治年月日報告			軌道及附屬物										課長				
位置	原簿登記番號	本線		附屬線路		延長合計	軌條		枕木		岐道		附屬物		價格	異動年月日	記事
		單線	複線	避線	荷物積卸線		重量	製造所	物質	數量	二又	三又	名稱	構造物實數量			

北海道官設鐵道所屬官有財產增減異動報告										
明治年月日報告			船舶及附屬物						課長	
定察所	原簿登記番號	種目	附屬物	構造物質		噸數馬力間尺	數量	價格	增減年月日	記事
				何	何					
何國何區何町何川	0	何何形帆船	帆	何	何	0	0	0000	0	何何ノ爲メ新造或ハ何某ヨリ買入
ク				何	何	0	0	0000	0	同 上
△何國何區何村何川	0	馬船	△	何	何	△	△	0000	0	△何何ノ爲メ何何ニ賣却
ク	0	丸木船	△	何	何	△	△	0000	0	△何何ノ際何何ノ爲メ沈没



○明治三十三年四月二十日訓第二百三十五號（北海道鐵道部宛）  
 明治三十三年大藏省訓令第二十七號諸收入取納取扱規程ニ據リ諸收入歳入徴收官ノ事務ヲ北海道鐵道部長ニ委任ス  
 ○明治三十一年十一月二十一日訓第四百八十八號（北海道鐵道部宛）  
 會計規則及ヒ物品會計規則中出納官吏ノ命解等ニ

關スル件左ノ通り相定ム  
 一 收入官吏及當時臨時現金前渡ヲ受クル出納官吏歳入歳出外現金出納官吏ハ自今鐵道部長之ヲ命解シ其官職氏名及ヒ取扱金額等別紙書式ニ準シ直チニ當廳ヘ報告スヘシ  
 但シ取扱金額ニ増減ヲ生スルトキハ其都度届出ツヘシ  
 一 前項出納官吏ニ係ル會計規則第九十一條ノ

檢査員同第九十二條ノ立會員同第九十條ノ計算書ヲ調製スル官吏ハ鐵道部長之ヲ命シ其檢定ニ對シテハ別紙書式ニ據リ檢定書ヲ調製セシメ當廳ヘ差出サシムヘシ（三十三年十一月訓第六百九十五號ヲ以テ本令中改正）

(一號甲)

稅外諸收入分任收入官吏異動表

在職廳名	所在地名	保證金額		前任者姓名	後任者姓名	年	月	日	免事務引繼
		指	定						

備考 後任者取扱金額五百圓以上ナルトキハ身元保證金ノ見込ヲ指定欄ニ記入シ其未滿ナルトキハ斜線ヲ施スヘシ

後任者取扱金額高細

取扱金所	管廳名	科	款	項	日	日	一ケ年取扱金額

(一號乙)

當時現金前渡ヲ受クル歳入歳出外現金出納官吏異動表

在職廳名	所在地名	保證金額		前任者姓名	後任者姓名	年	月	日	免事務引繼
		指	定						

備考 後任者取扱金額五百圓以上ナルトキハ身元保證金ノ見込ヲ指定欄ニ記入シ其未滿ナルトキハ斜線ヲ施スヘシ  
 後任者取扱金額高細

一金何程  
 內譯  
 金何程  
 金何程  
 何何  
 何何

(一號丙)

物品會計官吏異動表

在職廳名	所在地名	保證金額		前任者姓名	後任者姓名	年	月	日	免事務引繼
		指	定						

備考 後任者保管價格千圓以上ナルトキハ身元保證金ノ見込ヲ指定欄ニ記入シ其未滿ナルトキハ斜線ヲ施スヘシ

一金何程

後任者一箇年保管價格

(二號)

檢定書

明治年月 日出納官吏官氏名所管ノ帳簿金額ヲ檢査スルニ左ノ如シ

金種類	現金保管高	帳簿殘高	増減	年山
大藏省所管(北海道)	四二〇〇〇	四二〇〇〇		
租稅外收入金	八一三	八一三		
内務省所管				
歳入歳出外現金				
大藏省所管(理務局)	八一三	八一三		
租稅外收入金				
租稅	一、〇〇〇〇〇	一、〇〇〇〇〇		
租稅外收入金	八五〇〇〇	八五〇〇〇		
外ニ公金				
何	五〇〇〇〇	四九九九九		
何	一一三	一一三		
合計	一、一八五一一三	一、一八五一一三		

明治年月日

検査員

官氏名印

現金ニシテ空帳超過セル事由ハ別紙ノ通

現金ニシテ空帳不足アル事由ハ別紙ノ通

所管大臣宛 備考 出納官吏若クハ立會人へ交付スル分ハ宛名ヲ付セザルモノトス

在職姓名

出納官吏(又ハ立會人)

官氏名印

○明治三十二年三月二十九日訓第七十六號(北海道鐵道部宛)

北海道鐵道部札幌以外各地在勤者官舎貸渡規程左ノ通り定ム

但明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

北海道鐵道部札幌以外各地在勤者官舎貸渡規程

第一條 官舎ハ本規程ニ據リ當部所屬員ニ貸渡スモノトス

第二條 本規程ニ據リ官舎貸渡ヲ受ケル者ハ各縣其他札幌以外各地ノ在勤者ニ限ル

第三條 官舎貸渡區別ハ左ノ如シ

一 甲 官舎ハ左ノ各官ニ對シ各其官舎ヲ指定シテ之ヲ貸渡スモノトス

乙 官舎ハ左ノ各官ニ對シ其官舎ヲ指定シテ之ヲ貸渡スモノトス

丙 主任及隊長助役

三 丙 官舎ハ左ノ各官ニ貸渡スモノトス

書記技手事業手

四 丁 官舎ハ左ノ職員ニ貸渡スモノトス

事業生諸備人

鐵道部長ハ前各項ニ拘ハラズ特ニ官舎ヲ指定スルコトヲ得

第四條 乙 號ニ空舎ヲ生シタルトキハ書記技手事業手ニ丙 號ニ空舎ヲ生シタルトキハ事業生ニ貸渡スコトヲ得

前項ニ依リ貸渡ヲ受ケタルモ前條相當資格ノ者ニ貸渡スノ必要ヲ生シタルトキハ貸渡ノ古キ者ヨリ順次返納セシメ同時ナルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第五條 官舎ノ貸渡ハ出願ノ順序ニ依ルヘシ但同時ニ二通以上ノ願書ヲ受理シタルトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第六條 左ノ各項ニ該當スル者ハ官舎ヲ貸渡スコトヲ得ス

一 在勤所在地ニ家屋ヲ有スル者

但第三條第一項第二項及同條本項ニ該當スル者ハ此限リニアラス

二 他縣ヨリ移住スル者

三 第十七條及第二十條ノ處分ヲ受ケタル者

第七條 官舎ノ貸渡ヲ受ケントスル者ハ鐵道部長ニ宛テ第一號書式ニ準シ願書ヲ提出スヘシ

第八條 官舎居住ノ指定ヲ受ケ又ハ官舎貸渡ノ許可ヲ得タルトキハ即日官舎ノ引渡ヲ受ケ第二號書式ノ借用證書ヲ提出スヘシ

第九條 官舎貸渡ヲ受ケタルトキハ五日以内ニ主記録ヲ成規ノ寄附届ヲ提出スヘシ

第十條 官舎居住ヲ指定セザレバ官舎貸渡ノ許可ヲ受ケタル者本則第九條ノ手續ヲ爲サザルトキハ官舎貸渡ヲ取消スルコトアルヘシ

第十一條 官舎ハ他人ニ轉貸スルコトヲ得ス

第十二條 官舎ノ貸渡ヲ受ケタル者之ヲ交換セントスルトキハ雙方連署ト以テ願書出納部部長ノ許可ヲ受ケルヘシ

但シ同種官舎ニ限ル

官舎指定ヲ受ケタル者ハ交換ヲ許サス

第十三條 自費ヲ以テ模様替又ハ建増ヲ爲サントスル者ハ住居書及圖面ヲ添附シ願書出納部部長ノ許可ヲ受ケルヘシ

前項ニ依リ模様替又ハ建増ヲ爲シタル者ハ返納ノ際原形ニ復スヘシ

但其後ノ借受人ニ於テ其債引受ケルコトヲ承諾スルトキハ雙方連署ヲ以テ其旨届出ヘシ

第十四條 官舎及附屬品ノ外部門扉等ノ自然腐朽及破壊ニ對スル修繕ノ外一切ノ修繕ハ借受人ノ自費ヲ以テ支辨スヘシ

官舎附屬品ノ内燈及襖ノ使用期間ヲ滿二箇年トシ此ノ期間内ノ破損ハ借受人ノ修繕ノ義務ヲ有ス但シ自然汚損及不可抗力ノ場合ハ此限ニアラス(三十五年三月訓第七十六號ヲ以テ本項追加)

第十五條 借受人ノ故意怠慢ニ由リ官舎及其附屬

品亡失毀損セシトキハ相當代償ヲ以テ辨償セシムヘシ

第十六條 借受人ハ官舎建物及附屬品ノ保存ニ注意シ又敷地ノ内外ハ常に清潔ナラシムヘシ

第十七條 左ノ事項ニ該當スル者ハ直ニ官舎ヲ返納セシムヘシ

一 第十一條第十二條第十三條及第十六條ニ違背シタル者(三十五年三月調第二百十三號ヲ以テ本項中改正)

二 第十五條ノ處分ヲ受ケタル者

第十八條 官ノ都合ニ依リ返納ヲ命セラルタル者及非職轉免ニ依リ借用資格ヲ失ヒタル者ハ十五日以内ニ返納セシムヘシ

但右期限内ニ返納スルコト能ハサルトキハ其事由ヲ申出テ許可ヲ受ケヘシ

第十九條 官舎ヲ返納スルトキハ第三號書式ノ返納書ヲ差出シ保管吏員ノ検査ヲ受ケヘシ

第二十條 前條ノ場合ニハ第十三條ニ據レル模様替又ハ建増ヲ原形ニ復セサル所アルトキハ官ニ於テ修費シ其貸費ヲ辨償セシムヘシ

第二十一條 保管吏員ハ貸渡官舎ニ對シ左ノ検査ヲ爲スヘシ

一 定期検査 毎年三月二回

一 臨時検査 官舎返納ノ届出アリタルトキ及保管吏員ニ於テ検査必要ト認めタルトキ(三十五年三月調第二百十三號ヲ以テ本條追加)

第二十二條 保管吏員前條ノ検査ニ際シ官舎内諸及附屬品ノ破損ヲ發見シタルトキハ第十四條ノ規定ニ依リ直チニ借受人ニ修繕ヲ命スヘシ

前項ノ場合ニ於テ借受人ハ保管吏員カ命シタル期限内ニ修繕ヲ了スヘシ若シ借受人其手續ヲ怠リタルトキハ官ニ於テ修繕シ其貸費ヲ徵收ス

(三十五年三月調第二百十三號ヲ以テ本條追加)

第三號書式(第十九條參照)

官舎返納書 (用紙半紙)

官舎借用證 (用紙半紙)

官舎借用證 (用紙半紙)

貼印紙 官舎借用證 (用紙半紙)

貼印紙 官舎借用證 (用紙半紙)

借受人 何 何 何

借用月 何 何 何

北海道何國何郡何町何番地 何 何 何

甲乙丙丁第何號 何 何 何

一官舎 一百分

但附屬品

襖 何枚

袴子 何枚

板戸 何枚

燈 何枚

何 何程

右ハ今般官舎居住ノ御指定ヲ受ケ(或ハ官舎貸渡ノ許可ヲ受ケ)借用仕候ニ付テハ官舎所定ノ官舎貸渡規程ヲ遵守スルハ勿論其他官舎ニ關スル御命令等ヲ固ク遵守リ可申候也

明治何年何月何日 借受人 何之誰

北海道鐵道部長何之誰

第三號書式(第十九條參照)

官舎返納書 (用紙半紙)

北海道何國何郡何町何番地

甲乙丙丁第何號

一官舎 一百分

但附屬品

襖 何枚

袴子 何枚

板戸 何枚

燈 何枚

何 何程

右ハ兼テ借用仕候處來ル何月何日返納仕候候間御検査ノ上御受取後下度候也

明治何年何月何日 借受人 何之誰

北海道鐵道部長何之誰

○明治三十三年十一月十九日調第七百九十九號(北海道鐵道部宛)

歸長其他被服貸與規程左ノ通り相定ム

但明治三十一年(五月)調第八十八號歸長其他被服貸與規程ハ之ヲ廢止ス

歸長其他被服貸與規程

第一條 歸長、助役、車掌監督、車掌、出札掛、改札掛、貨物掛、小荷物掛、電信掛、探車掛、車掌見習、電信掛見習、轉轍手、制動手、信號手、警手、車夫、檢關手取締、機關手、火夫、火夫見習、車輪検査部、工場取締、注油夫、掃除夫、炭水夫、轉車夫、線路工夫長、建築工夫長、警務工夫長、電信工夫長、線路工夫長、建築工夫長、警務工夫長、電信工夫長、踏切番人、定夫、二ハ服制ノ定ムル所ニ據リ現品ヲ貸與ス服務中ハ必ス之ヲ著用スヘシ

但病氣其他ノ事故ニ由リ制服ヲ著用シ難キトキハ所屬上官ノ承認ヲ受ケヘシ(三十五年十月調第九百二十六號同十一月調第五百五十八號及三十六年三月調第二百二十三號ヲ以テ本條中改正)

第十四條 歸長其他ノ制服著用期間ハ夏服六月一日ヨリ九月三十日迄冬服八月十一日ヨリ五月三十一日迄トス

但氣候ノ寒暖又ハ貸與ノ都合ニ依リ期間ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第十五條 歸長其他ハ貸與スヘキ制服等ノ交付

種類	員數期限			
	交付數	夏	冬	服
襖	一	一	一	一
袴子	一	一	一	一
外套	一	一	一	一
雨衣	一	一	一	一
半纏單	一	一	一	一
半纏給	一	一	一	一
法被單	一	一	一	一
法被給	一	一	一	一
腹掛	一	一	一	一
股引單	一	一	一	一
股引給	一	一	一	一

第六條 制帽制服等前條ノ保存期限ヲ經過スルトキハ更ニ代用品ヲ貸與ス舊品ハ新品ト便宜取交著用シ尚一保存期限經過後返納スヘシ

第七條 新任者ニハ夏服冬服各二組ヲ貸與ス但都合ニ依リ一組ヲ貸與スルコトアルヘシ

第八條 大黒形帽子ヲ用ユルモノニ限リ夏季ハ白被ヲ交付スルコトアルヘシ其使用期限ハ一箇年トシ使用期限ヲ經過スルモ返納ニ及ハス

第九條 歸長其他ニシテ職務又ハ代理ヲ命セラルルモ之カ爲メ別ニ制帽制服等ヲ貸與セス制帽制服ナキ職員ニシテ第一條ノ職務ヲ兼ネタルトキハ相當ノ制帽制服等ヲ貸與スルコトアルヘシ

第十條 新任若クハ轉任ノ者ニハ前任者ノ貸與品ヲ繼續使用セシメ又ハ他ノ返納品ニシテ使用ニ堪ユルモノヲ貸與スルコトアルヘシ

但此場合ニ於ケル保存期限ハ特ニ之ヲ定ム

第十一條 轉任者ニシテ卸又ハ印章ノ變更必要ナルトキハ必要ノ卸又ハ印章ヲ交付シ前ノ制帽制服等ヲ返納セシムルコトアルヘシ

但此場合ニ於テ前ノ卸又ハ印章ハ直ニ返納スヘシ

第十二條 歸長其他(工夫長及工夫を除ク)ハ汚損シタル制帽制服等ク又ハ草履木履ヲ穿ツヘカ

但積雪中ハ特ニ露骨ヲ用ユルコトヲ得

第十三條 歸長其他ハ制帽制服等汚染破損シタルトキハ自費ヲ以テ速ニ洗濯補綴スヘシ

第十四條 歸長其他ハ制帽制服ヲ亡失又ハ著用ニ堪ヘサル破損等ニ至ラシメタルトキハ直ニ所屬課長ニ具申スヘシ所屬課長ニ於テハ取調ノ上必要ト認めルモノニ限リ代用品ヲ貸與ス若シ故意又ハ怠慢ヨリ生シタルモノト認めルコトキハ相當代金ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

第十五條 歸長其他ハ轉任又ハ退職死亡ニ依リ制帽制服等不用ニ歸シタルトキハ其際直ニ返納スヘシ

第十六條 歸長其他ハ被服ノ貸與ヲ受ケ又ハ返納スヘキトキハ直ニ左ノ書式ニ依リ借用證又ハ返納書ヲ差出スヘシ

第十七條 踏切番人ニハ當分ノ制帽制服等ヲ貸與ス

歸長宛

課長宛

官職氏名印

○明治三十一年十二月十五日訓第五百二十九號  
 (北海道鐵道部宛)  
 其部宿直及徹夜附料支給規程左ノ通相定ム本令ハ  
 發令即日ヨリ施行ス  
 但明治三十一年四月北海道鐵道部百三十四號宿直  
 及徹夜附料支給規程ハ本令施行ノ日ヨリ廢止ス  
 鐵道部宿直及徹夜附料支給規程  
 第一條 鐵道部所管鐵道事務ニ從事スル職員諸職  
 工小者及隨傭人ニシテ宿直及徹夜勤務ヲナシタ  
 ルトキハ此規程ニ依リ附料ヲ支給ス  
 第二條 宿直徹夜勤務ヲ爲シタル時ハ一夜附料二  
 度分ヲ支給ス(三十四年六月訓第四百七十二號  
 ナリテ本條中改正)  
 第三條 列任官一食金五錢列任待遇及雇員ハ一食  
 金四錢其他ハ總テ金三錢五厘ヲ支給ス(三十四  
 年六月訓第四百七十二號ヲ以テ第三條第四條削  
 除第五條ヲ第三條トシ以下順次繰上ケ本條中  
 改正)  
 第四條 此規程ハ旅費若クハ勞動時間ニ依リ手當  
 ナ受クル者ニ適用セズ  
 ○明治三十三年二月二十八日訓第九十四號(內務  
 部北海道鐵道部宛)  
 明治三十三年(二十二年)勅令第四百四十八號ニ依リ  
 工場ニ於テ服務スル者特ニ定時間外ニ服業ヲ命ジ  
 タル場合ニ給與スル日額支給規則左ノ通り定ム  
 日額支給規則  
 第一條 日額ハ左ノ割合ナリテ翌月之ヲ支給ス  
 定時間外 技手  
 二時間以上 二十錢  
 五時間以上 四十錢  
 八時間以上 六十錢  
 第二條 免官、退職、轉務等ノ場合ニハ前條ノ支

給定日ニ拘ラス其都度支給ス  
 第三條 本令ハ明治三十三年三月一日ヨリ施行ス  
 ○明治三十五年十一月八日訓第千二號(北海道鐵  
 道部宛)  
 北海道鐵道部職員管内旅費規程左ノ通り相定メ十  
 二月一日ヨリ之ヲ施行ス  
 北海道鐵道部職員管内旅費規程  
 第一條 北海道鐵道部職員管内旅費ハ此規程ニ據  
 リ支給ス但此規程ニ定メサルモノハ明治三十年  
 勅令第三百三十三號同年內務省令第二百七號同  
 三十二年本廳訓令第二十號ニ據ル  
 第二條 無賃乘車券ヲ以テ汽車旅行ヲ爲シタルト  
 キハ第五條第七條第八條ノ場合ヲ除キ第一號表  
 ニ據リ汽車賃ヲ支給ス  
 第三條 一日間ノ行程ヲ通算シテ汽車旅行五十哩  
 未滿ニシテ日歸ナレハ日當ヲ給セズ  
 第四條 左ノ各號ニ該當スル出張ハ用務地到達ノ  
 翌日ヨリ出發前日迄第二號表ニ據リ日當及宿泊  
 料ニ代ヘ日額旅費ヲ支給ス  
 一 測量踏査ニ從事スルトキ  
 二 事業ノ設計、施設、調査、監督ニ從事スル  
 トキ  
 三 鐵道線路調査ニ從事スルトキ  
 四 建築用汽車運轉監督ニ從事スルトキ  
 五 事業材料品ノ採取配給及其監督ニ從事スル  
 トキ  
 六 前各號ノ庶務ニ從事スルトキ  
 第五條 前條ノ旅費ヲ受クルモノノ建築列車ニ依リ  
 テ旅行シタルモノ及一日間ノ行程ヲ通算シ五里  
 未滿ナルモノハ汽車賃及車馬賃ヲ給セズ  
 第六條 左ノ職員常務ノ爲メ旅行ヲ爲シタルトキ  
 ハ第三號表ニ據リ月額旅費ヲ支給ス

一 機關庫主任  
 二 保線手及助手  
 三 時計主任  
 前項ノ月額旅費ニシテ資格ノ異動又ハ任免等  
 ノ場合ニ於テハ日額ヲ以テ之ヲ計算ス  
 第七條 前條ノ月額旅費ヲ受クル者運輸營業休止  
 中車馬ノ旅行一日間ノ行程ヲ通算シテ三里以上  
 二五里トキハ車馬賃ヲ支給ス  
 第八條 汽車乘込ヲ常務ト爲ス者及其代務者常務  
 ノ爲メハ常務ニ服スルモノノ往復旅行ハ包含セ  
 ス(汽車旅行ノ場合ハ日當ヲ給セズ其一日間  
 ノ行程ヲ通算シ(走行中翌日ニ涉リ哩數ヲ區分  
 シ難キトキハ總哩數ヲ前日ニ併算ス)百哩ヲ越  
 ヘタルトキハ其額ヘタル哩數ニ應シ汽車賃トシ  
 テ十哩毎ニ(十哩未滿一哩以上八十哩ニ計算シ  
 一哩未滿ハ計算セズ)列任官及事業手ハ金二錢  
 事業手以下ハ金一錢五厘ヲ支給ス  
 前項ノ旅行中宿泊シタルトキ又ハ勤務翌日ニ且  
 リタルトキハ雇員以上ニアリテハ宿泊料僱人ニ  
 アリテハ日當ヲ支給ス  
 第九條 勤務ノ助勤若クハ其代務ノ爲メ汽車旅行ニシ  
 キ又ハ各購貨物掛ニシテ小荷物又ハ手荷物ヲ車  
 長ニ引渡ノ爲メ汽車旅行シタルトキハ前項ニ準ス  
 第九條 左ノ各號ノ場合其持歸內旅行ニハ旅費ヲ  
 給セズ  
 但宿泊シタルトキハ日當ノミナシ支給ス  
 一 常備ノ工夫長工天等常務ノ爲メ旅行スルト  
 キ  
 二 第八條ノ場合ヲ除キ諸傭人汽車運轉ニ關ス  
 ル用務ノ爲メ旅行スルトキ  
 第十條 明治三十三年四月訓第二百三十一號ハ本  
 令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第一號表

一	勅任官	奏任官	列任官及事業手	事業生及雇員	諸備人
哩	三	錢	二錢五厘	二	錢
一	圓	三十錢	九	十	錢

第二號表

奏任官	判任官	事業手	事業生及雇員
一	圓	三十錢	九
一	圓	三十錢	九

第三號表

判任官	事業手	事業生及雇員
八	圓	七
八	圓	七

○明治三十四年三月五日訓第四百十六號(北海道  
 鐵道部宛)  
 常ニ鐵道現業ニ從事スル者ニ於テ職務上ノ參考ニ  
 供スル目的ヲ以テ管内外ニ於ケル鐵道業務ノ實況  
 調査トシテ出張ヲ命スル場合ノ旅費ハ特ニ宿泊料  
 ノミナシ給スルコトヲ得  
 ○明治三十一年十二月十五日訓第五百三十號(北  
 海道鐵道部宛)

其部諸職工諸傭人時間外勤務手當支給規程左ノ通  
 リ相定ム本令ハ發令即日ヨリ施行ス  
 但明治三十一年四月北海道鐵道部百三十三號時  
 間外勤務手當支給規程ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ  
 廢止ス  
 鐵道部諸職工諸傭人時間外勤務手當支給規  
 程  
 第一條 鐵道部鐵道事務ニ從事スル諸職工諸傭人

第二シテ規定時間外ニ勤務ナシタルトキハ別  
 ニ規程アルモノノ外本規程ニ依リ手當ヲ支給ス  
 第二條 規定勤務時間外ニ勤務ナシタルトキハ  
 四時間毎ニ手當トシテ金五錢ヲ支給ス但四時間  
 以下端數ハ總テ切捨トス  
 第三條 非番ノモノ代官ニアラスシテ臨時勤務ヲ  
 ナシタル時ハ前條ニ依ル  
 第四條 勤務時間ハ別ニ之ヲ定ム

明治三十六年九月二十五日印刷  
同 年九月二十八日發行

# 北海道廳

札幌區南一條西二丁目五番地

發行者 富貴堂 中村 信



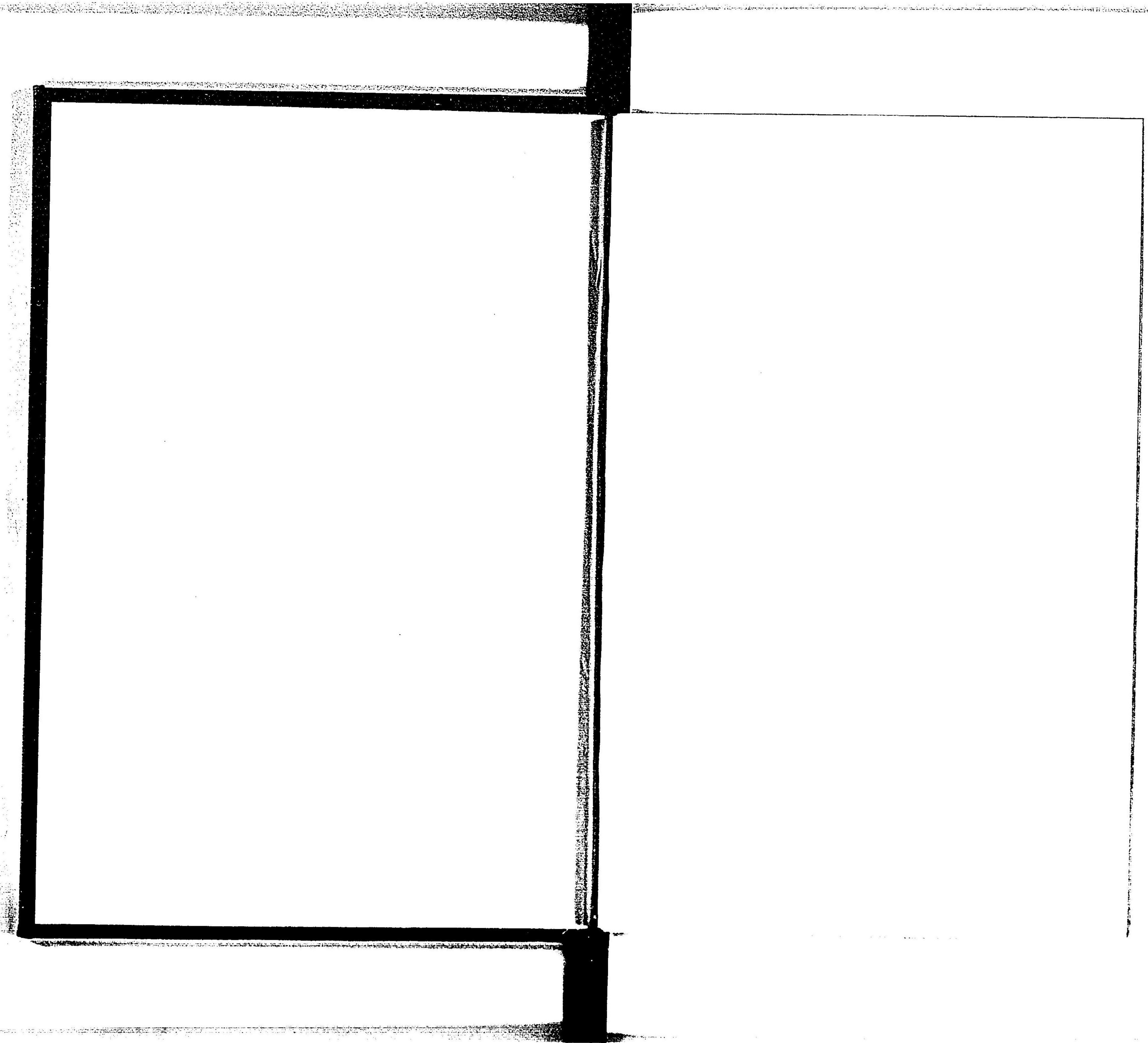
東京市京橋區西紺屋町二十六七番地

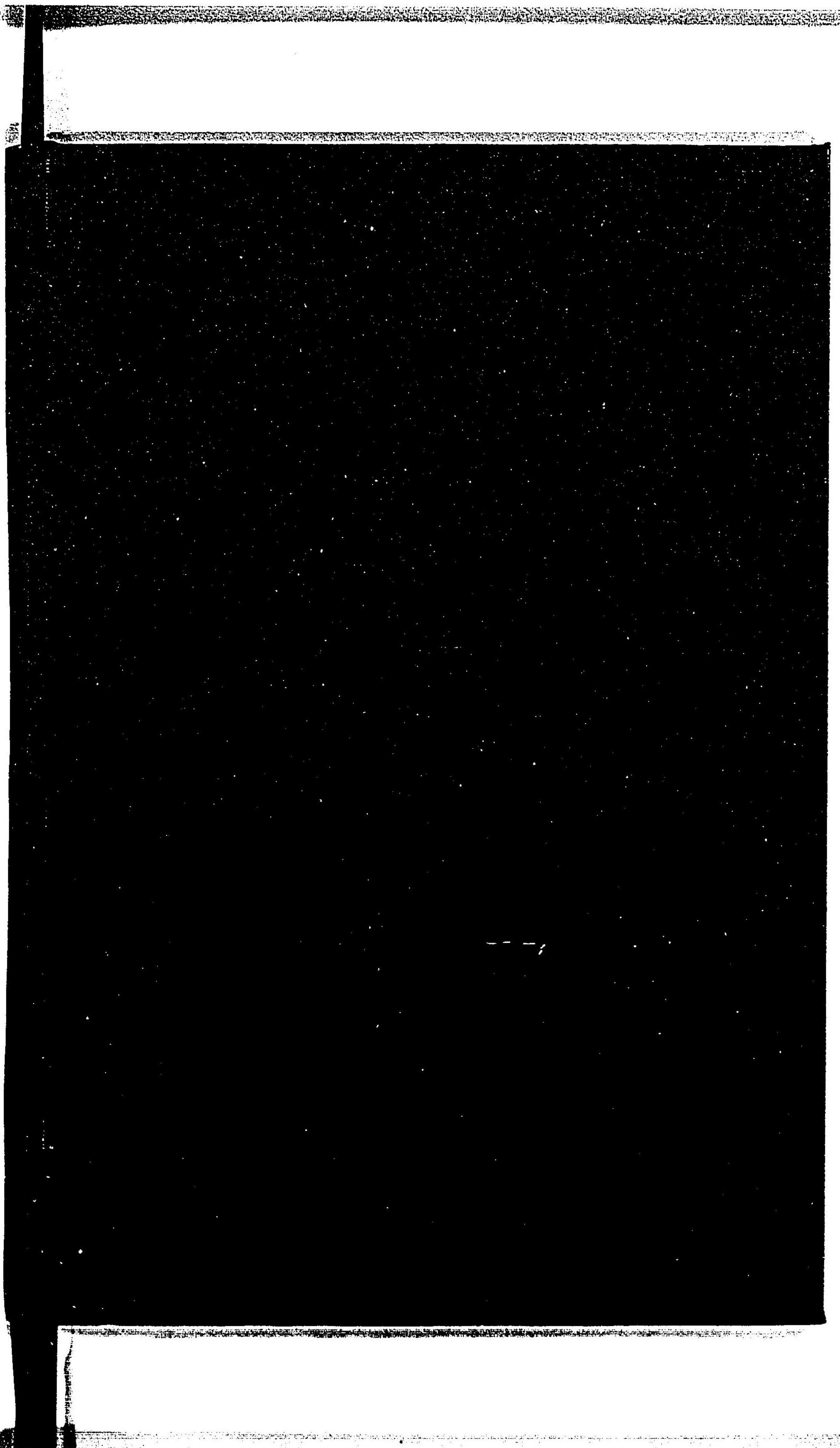
印刷者 石川 金太郎

東京市京橋區西紺屋町二十六七番地

印刷所 鐵秀英舍

94723







031388-000-7

CZ-1113-11-01

北海道庁現行布令便覧

北海道庁

M36

BBD-0692



